

供

防衛密第二九二號

極秘

防諜ニ關スル書類送付ノ件通牒

昭和十四年十二月十九日 陸軍省兵務局防衛課長 渡部 富士

内閣總務課長 稻田 周一殿

首題ニ關スル書類左記ノ通送付ス

記

- 一 防 諜（第二號「一六八、一六九番」） 二 部

陸心七〇



陸軍

防

陸軍

極秘

防
謀
(14.15)
二部
五中

防 條

(第 貳 號)

陸 軍 省

極 秘

禁 複 寫

一 連 番 號

第

168

號

高 等 官 扱

昭 和 十 四 年 十 月 一 日

防 諜 勤 務 に 直 接 關 與 す る 高 等 官 の 外 閱 覽 を 禁 ず

国立公文書館	
排架番号	2 A 1
	(別) 240
	37の附属書類

本書は昭和十四年十月陸軍、海軍、企畫院、内務省、大藏省、司法省、逓信省、拓務省の防諜業務關係職員の會同せる防諜懇談會の席上説明資料として陸軍省大坪砲兵少佐の講演せるものなり

陸軍省兵務局防衛課長 渡部富士雄

目次

第一章 在京各國公館の文書諜報狀況の一端に就て	一頁
第一節 文書諜報の概念	一
第二節 對日文諜に關する言動	二
第三節 對日文諜による判斷の例	四
第四節 在京各國公館の本邦地方新聞紙購入狀況	六
第五節 昭和十二年及昭和十三年に於ける在京蘇聯各公館の本邦地方新聞紙購入狀況	一一
第六節 昭和十二年及昭和十三年に於ける駐日蘇聯大使館の本邦雜誌購入狀況	一五
第七節 昭和十二年中に於ける駐日蘇聯大使館の本邦圖書購入狀況	一八
第八節 在京各國公館の購入せる「ダイヤモンド」社發行昭和十二年版經濟統計年鑑」編纂資料出所調査表	二六
第二章 全國主要日刊新聞記事に依る陸軍將校の異動に關する文書諜報の一例	三〇
第一節 判決	三〇
第二節 理由	三一

第三節 統制不十分なる記事に依る例 三三

第四節 記事統制要領 五三

第三章 關門海底隧道に關する記事に就て 五六

第一、說明 五六

第二、關門海底隧道關係記事掲載狀況 五七

第三、警視廳管下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載狀況 五九

第四、愛知縣下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載狀況 六六

第五、大阪府下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載狀況 六七

第六、山口縣下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載狀況 六九

第七、福岡縣下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載狀況 七一

附 錄

關門海底隧道に關する印刷物掲載記事一覽 七四

第一、警視廳管下發行新聞紙、雜誌の掲載記事 七四

第二、愛知縣下發行新聞紙の掲載記事 八四

第三、大阪府下發行新聞紙の掲載記事 八六

第四、山口縣下發行新聞、雜誌、圖書の掲載記事 九〇

第五、福岡縣下發行新聞紙の掲載記事 九七

第六、補 遺 一二七

文
書
課
報

文 書 諜 報

第一章 在京各國公館の文書諜報状況の一端に就て

第一節 文書諜報の概念

一、文書諜報の意義

文書諜報とは主として公刊文書に依り目的とする情報を索出するを謂ふ。

二、文書諜報の價值

防諜の發達に伴ひ何れの國に於ても非合法秘密の諜報は其の實施極めて困難となりつつあるに反し言論、出版等の比較的自由なる國に於ては各種文書就中公刊文書より貴重なる情報の微細なる断片を捕捉することは敢て困難ならず、故に之を整理統合することに依り目的とする情報を合法公然の間に索出するは安全容易なり。

殊に國家總力戰たる近代に於ては必ずしも直接作戰上の重要機密を入手するを絶対に必要とせず其の他の國力より推斷するを以て足れりと爲すこと尠からず、従て現在の諜報に於ては文書諜報の價值甚だ大なり。

各國共此の點に鑑み文書諜報機關の擴大強化を策し之に大なる期待をかけつつあり。

三、文書諜報の要領

文書諜報の價値は目的に應ずる断片的情報の集積の量竝に其の質に正比例す。
 従て文書諜報に關する對者の觸手は極めて廣範圍に延ばされ且正確度大なる官公署の諸統計資料に對し必然的に其の重點は指向せらる。
 諸外國が出版の統制を強化し統計の如き我が國民が意に介せざる部類のものとも雖も極秘とし或は發表用として別箇のものを用意し遂には蘇聯邦の如く國外に搬出する文書に強度の制限を加ふるものをも生ずるに至れるは故ありと謂ふべし。

第二節 對日文諜に關する言動

年 月	發 言 者	内 容
昭二、四	駐日蘇聯大使館情報部長 デイッチマン	邦人通譯某に對し 「二・二六事件後言論の取締り嚴重となりたる爲最近 は新聞、雜誌等より有力なる情報を得ること困難な り。 唯日本評論に掲載せらるる一部の論文並に座談會の 内容中相當有力なる資料を發見し得ることあり云 と洩せり。」

昭一三、四	駐日米海軍武官輔佐官 レイトン大尉	邦人通譯に對し 「米國では特別の手段例へば「スパイ」を使用して情 報を採知するが如きは規則であつて其の價値も大で ない之に反し官公署の發表及各種新聞紙、雜誌等の 刊行物に據る情報こそ一番價値が大きい云々」
昭一三、八	駐日蘇聯大使館情報部長 アヌーロフ	邦人通譯某に對し 「最新の新聞は政府の統制嚴重なるため殆んど真相 を窺ふに足らざる記事のみ滿載しあり殊に大新聞に 於て此の傾向特に顯著なるも小新聞に於て若干の資 料蒐集し得るなり」 との言辭を洩せり。
昭一三、一一	駐日米海軍武官輔佐官 レイトン大尉	側近者に對し 「地方新聞には中央では見られぬ様な我々の参考に なる記事や寫眞が屢々ある云々」 と洩せり。
昭一四、六	駐日蘇聯大使館二等書記官 ゲネラーロフ	「日本大新聞は今や全く機能を失ひ僅に小新聞及地 方新聞より若干の資料を得るのみなり」 との觀察を爲しあり。

昭一四、六	駐日蘇聯大使館情報部長 アヌーロフ	邦人通譯に對し「吾々が希望する記事は如何なる立場にある人物と雖もそれが個人の意見たる所に最も價値を見出すものなるも現在日本の評論は餘りにも時局迎合的であり個性を失ひあり」と地方新聞乃至は二流新聞、雑誌を利用と洩し主として地方新聞乃至は二流新聞、雑誌を利用情報蒐集あり。
-------	----------------------	--

第三節 對日文謀による判断の例

年 月	判 断 者	判 断 内 容
昭一二、三	蘇聯陸軍武官輔佐官 パウエル・デミトリエウイチ・バヴロフ	中央公論四月號掲載「石原莞爾論」を読み「石原莞爾は對蘇決戦論者なり」との判断をなせり。 紫雲莊が讀賣新聞に廣告せる記事中の陸海軍の意見不一致を指摘して陸軍を非難し海軍を賞揚せるが如き點、或は議會、新聞紙に現れたる事例等より判断し「日本陸海軍に一種の確執あり」と觀察す。
右 同 右	同	

昭一二、九	暹羅陸軍武官 ヴィラヨーダー中佐	新聞紙に掲載せらるる飛行機の出發並に歸還時刻に基き日本海軍飛行隊の根據地は朝鮮木浦、九州大村及澎湖列島、馬公等にして馬公よりは南支へ、木浦及大村よりは中支へ空襲しありと判断す。
昭一三、一	英海軍武官 ローリングス	新年號「海と空」の「帝國軍艦の今日と明日」と題する記事を閱讀し「日本海軍が巨大軍艦建造中なる如く暗示しあり」として種々調査報告す。
昭一三、一	米陸軍武官事務所	公私刊行物につきて調査の結果「日本の戦費能力は約四百億圓なり」と算定せり。
昭一四、二	米語學研究武官 マックスウエル・デー・テイラー	雑誌「航空時代」二月號に掲載せられある「重慶爆撃を終へて歸還せる我が海軍航空隊員の乾杯、漢口にて」と題する寫眞記事及雑誌「訓練」二月號掲載「支那事變」と題する記事より重慶、漢口間の最短距離は七五〇浬なる旨を知得し 二月七日午後一時頃日本海軍航空隊が重慶爆撃を敢行せる際一機故障のため片發動機にて基地に歸還せるが現在日本海軍航空隊基地は漢口にあり且漢口、重慶の最短距離七五〇浬を片發動機にて約四時間を要し之を兩發動機に換算すれば日本の最新海軍重爆撃機の時速は約三七〇浬以上なるべし」と觀察しあり。

九		國四		國中				畿					
佐世保軍港新聞	九州日報	九州日日新聞	鹿兒島新聞	大牟田毎日新聞	沖繩朝日新聞	四國民報	吳日日新聞	松陽新報	廣島日日新聞	關門日日新聞	中國新聞	日刊工業新聞	丹州時報
佐世保市	福岡市	熊本市	鹿兒島市	大牟田市	那覇市	高松市	吳市	松江市	廣島市	下關市	廣島市	大阪市	舞鶴町
	陸					陸				陸	陸		
	陸					陸				陸	陸	陸	
海		海	海	海	海		海	海	海	海			海
海			海										海

近	部		中				東		關		羽		
大阪毎日新聞	大阪朝日新聞	新潟新聞	北國新聞	濱松新聞	新愛知	静岡新報	信濃毎日新聞	岐阜日日新聞	武相新報	下野新聞	いはらき	弘前新聞	東奥日報
大阪市	大阪市	新潟市	金澤市	濱松市	名古屋市	静岡市	長野市	岐阜市	横須賀市	宇都宮市	水戸市	弘前市	青森市
	情				情								
	情				情								
	陸		陸	陸		陸		陸		陸		陸	
			陸	陸		陸	陸	陸		陸		陸	
		海							海		海		
		海							海				海

朝	灣臺	太樺	道	海	北	州						
元山毎日新聞	京城日報	臺灣日日新聞	樺太日日新聞	室蘭毎日新聞	北海タイムス	釧路新聞	旭川新聞	豊州新報	福岡日日新聞	長崎日日新聞	日刊佐伯新報	佐世保日日新聞
元山府	京城府	臺北市	臺南市	豊原市	室蘭市	札幌市	旭川市	大分市	福岡市	長崎市	佐伯町	佐世保市
					情				情			
					情				情			
	陸					陸						
	陸					陸						
海	海	海		海	海	海	海	海	海	海		海
海	海		海	海	海		海		海	海	海	海

州關東	鮮				
釜山日報	平壤毎日新聞	北鮮日報	北鮮日日新聞	木浦新報	滿洲日日新聞
釜山府	平壤府	清津府	羅南邑	木浦府	大連市
	陸	陸	陸	陸	陸
		陸	陸		
		海	海	海	海
		海			

第六節 昭和十二年及昭和十三年に於ける駐日蘇聯大使館の本邦雜誌購入状況

註 一、部門の分類は東京堂發行出版年鑑に準據せり。

二、括弧を附せるは昭和十三年のものを示す。

三、購入雜誌の總數

- 昭和十二年 九一種 一、〇九四部 所要經費 四二二圓六五錢
 - 昭和十三年 八九種 八九〇部 所要經費 四二二圓二五錢
- 四、新刊雜誌の詳細不明につき若干の誤差あるべし。

	日本評論		
	文藝春秋		
	労働時報		

第七節 昭和十二年中に於ける駐日蘇聯大使館の本邦圖書購入状況

註一、購入圖書の種類 約 六三〇種
 購入圖書の部数 約 三、七三〇部
 購入費 約 七、五三〇圓
 二、本表は知得せる實數を示せるものなり。

部	區	分	購入種類	購入部数	所要經費	摘	要
軍		事	一五〇	八五九	一、二一六	四五四〇	
年鑑、要覽、統計			九四	四三七	一、一五四	三七〇	
政治、社會、評論			六六	九三	一四九	六二〇	

部	區	分	購入種類	購入部数	所要經費	摘	要
辭		典	六三	四三九	二、八〇八	八〇〇	
地		圖	五二	七三九	三、〇六八	二〇	
工業、工學		學	三八	八四	一九九	六六〇	
語		學	三六	七二六	八〇三	三〇〇	
文		學	二四	四八	九八〇	一〇	
地理、紀行			一四	二七	一四〇	五六〇	
歴史、傳記			九	一二五	三〇九	三六〇	
農業、農學			五	九	二四五	九〇	
醫事、衛生			四	五	一六一	二〇	
其の他			一五	二九	八七〇	〇〇	
計			六三四	三、七三三	七、五三〇	六五〇	

購入書籍の主なるもの次表自第一至第三の如し。

第一表

軍事、航空	名	購入部数	年鑑、統計、要覽	名	購入部数	政治、社会、評論	名	購入部数
步兵操典草案		一〇三	アルミニウム總覽		三	思想戦と宣傳		二
瓦斯防護教範		一八	海軍年鑑		二二	赤化、抗日、防共		一
輜重兵自動車教練規定		一六	株式會社年鑑		二	戦時海運統制		三
自動車操縦教範		一五	化學工業年鑑		六	戦費恐るるに足らず		七
輕装甲車教練規定		一五	經濟統計年鑑		二	朝鮮施政二十五年史		一
戰術學	卷一 卷二 附録	各七	航空年鑑		一	日本ノ南進策ヲ世界ハ斯ク見ル		五
應用戰術ノ參考		六一	第五十五回日本帝國統計年鑑		六	非常時ニ躍ル軍部ノ人物展望		三
航空學		六	陸海軍軍事年鑑		八	石原莞爾		三
戰例集		六	銀行會社便覽		一	軍部ノ行政機構		三
		一	石油便覽		一	軍部ノ國策全貌		一

教練ノ參考	砲兵用 後篇 騎兵用 大隊用 戰闘一	一〇 一一 一一 一一	海軍要覽		四	血盟團事件、五、一五事件、二、二六事件其ノ後ニ來ルモノ		一
步兵新戰闘法		四五	ボケツト會社要覽		五	現代日本ノ思想對立		一
新步兵操典草案ノ問答的研究		六	昭和十一年工場統計		一	國防の立場から		四
日露戰史		一組	港灣統計表		二	準戦時下ノ労働問題		二
借行社社員名簿		三	商工省統計表		二	準戦時下ノ海運狀況		三
新舊步兵操典草案ノ對照的研究	上 中 下	一一 一〇 九	第九次馬政統計		一	戦争と平和		一
新步兵操典草案ノ研究	卷一 卷二 卷三	二五 二二 二六	日本帝國統計大要		一	ソウエートロシヤ讀本		四
われ等の陸海軍化學兵器ノ理論ト實際ト		一〇	農林省統計表		一	太平洋問題		二
世界ノ見タ日本ノ陸海軍		三	外國貿易月表		三二	日本政治史		一
			日本經濟四季報		一〇	日本農村婦人問題		二

續編重兵戦闘とは	六	日本經濟年報	一四	武人國を諺るか	一
帝國及列國ノ陸軍	三	日本水産年報	二	滿洲國現勢	二
神風畫報第二輯	二	日本農業年報	一	隣邦ロシヤ	二
軍用無線學	二	滿洲經濟年報	二	われ等の空軍	三
陸軍豫科士官學校 案内	三	滿洲國外國貿易月 表	七		
海軍生徒採用試験 問題集	四				
學校教練	四				

第二表

財政、經濟	名	稱	購入部數	辭	名	稱	購入部數	典	名	稱	購入部數	地	名	稱	購入部數	圖
英文	日本一年ノ財政經濟	一	井上和英大辭典	四	海軍雜用航空圖	五五										
英文	日本輸入關稅表	一	井上和英、英和辭典	五	北支那詳細圖	一三										
英文	軍事産業資料	四	英和、和英兵語辭典	三一	北支那詳細圖	五										

經濟統制下ノ日本	二	漢字林	三	航空路圖	二七〇
準戰時下の財政と經濟	四	漢英辭典	六	最近支那大地圖	七
戰時産業施設考	四	現代國際人名辭典	七	日本白地圖	一〇〇
戰時經濟の基礎知識	一	國民百科大辭典	三組	上海、蘇州近傍圖	五
戦争と財産	四	新漢和辭典	一一	大東京地勢圖	一
帝國豫算綱要	二	小辭林	一〇	朝鮮五萬分ノ二地圖	六八
日本産業勞働論	三	内閣職員錄	一〇	朝鮮全圖	二
日本資本主義ノ諸問題	一	スタンダート 和英大辭典	六	東京地勢圖	三
日滿經濟五ヶ年計畫	二	草書大辭典	六	北支事變明細圖解	五
滿洲經濟綜觀	二	大日本人辭典	一	滿洲經濟地圖	八
滿洲産業圖解	二	朝鮮語辭典	一	滿洲五萬分ノ一地圖	六四
安田コンツェル讀本	一〇	東洋歴史辭典	四		
我企業豫算制度の實 證的研究	一	日露兵語辭典	四		

經濟史研究	三	日本貨物船明細書	五
現代公債政策	一	滿洲地名辭典	一二
財界人物讀本	一	松田和露大辭典	一八一
戰爭經濟讀本	二	露譯漢和辭典	四九
戰爭と經濟	一	露和辭典	三
日本工業資源論	三		
日本貿易案内	一		

第三表

工業、工學	名	購入部數	語		報	
			名	購入部數	名	購入部數
化學工業概論	二	二	かな付日露、露日會話	六	英文 帝國學士院報告	一
航空機	一	一	高等小學讀本	四卷	英文 東北帝大學術報告	二二
航空計器	二	二	國語	各一〇卷 各一〇卷 各一〇卷 各一〇卷 各一〇卷	英文 東北帝大工藝學報告	一

航空發動機	二	二	國語史	一四	英文 物理化學研究所學術報告	二〇
實用精密機械講座 第二回配本 兵器	二	二	小學讀本	各三〇卷 各三〇卷 各三〇卷	英文 東京航空研究所報告	三九
石油研究	一	一	日本語速記術	一	英文 東京電氣工學實驗所	八七
造船學	二	二	日本文法講義	五	東北帝大學術報告	二〇
日本工業發展論	二	二	日語對照語法	一	東北帝大科學報告	七〇
日本重工業讀本	一	一	ロシヤ語政治經濟論 文の讀方、譯し方 譯文解釋カラ和文露	二	日本科學協會報告	三六
日本電氣通信工學	一四	一四	譯文解釋カラ和文露	二	廣島大學科學報告	二二
日本の發電所	一	一		二	物理研究協會ノ學術 論文	五二
本邦鑛業ノ趨勢	一	一		二	倉敷の大原研究所の 農業組織研究報告	二
滿洲の資源と化學工業	二	二		二	英文 九州帝大工學教授會 記要	一
木造船構造術	一	一		一		一

拓務省	鐵道省	逓信省	商工省	農林省
文書課	經理局	航電貯蓄 航空集計	鑛鑛保保大大大大大 險局官官官官官官 山山生險房房房房房 命保調統統統統統 險查計計計計計計	農蠶米米大 務絲殺殺房 統計
拓務統計課	國有鐵道會社 貨物統計月報	航電貯蓄 航空集計	石鐵保月重貨商工各會 炭業別要銀工場織社 理參險業生統省統物統 沒量考年績產計統計月計 量調資一覽 查概	肥蠶米米農 絲殺殺省 業摘要 要覽表

大藏省	內務省	內閣	官公署別區分	編著者	資料の名稱
大臣 文銀理主主主 連稅 書行行財財稅稅 稅稅	地稅稅 會局方 勞働部	統統統資 計源局計資 局計審查源 課局局課			
關關課局局局局局課局	勞地方 働財政 時概 報要	列帝貨資 國國物價 國統計 勢計 要年 覽鑑表源			
滿洲國 滿洲國外 國貿易 貿易月報	大藏省 國庫 銀行 行主 局 要 助 定	外主稅 大藏省 國庫 銀行 行主 局 要 助 定			

第八節 在京各國公館の購入せる「ダイヤモンド社發行
經濟統計年鑑」編纂資料出所調査表
昭和十二年版

商 工 會 議 所	會 社	諸 會	所 手 形 交 換 所 及 株 式 取 引
大東 連京 商商 工工 會會 議議 所所	日滿 本鐵 石油 株 式 會 社	生石製羊絹萬帝日日日國國國 絲炭糖毛紡國國本本本 鑛業研工工農瓦倉倉倉 屋聯究業業事斯庫庫庫 組合會會會會會會會會 合會會會會會會會會會	大東大東東 阪京阪京京 株株手手手 式式形形形 取取交交交 引引換換換 所所所所所
經世 濟界 統經 計濟 月統 報計	內滿滿 洲洲 外洲 國國 石統 油統 年報 統及 計月 報報	原石臺羊絹農瓦倉倉倉國國國 生滯毛業斯庫庫庫際際際 炭糖業統計業統計業統計 絲業統計年要計表表表 時業統計年要計表表表 月業統計年要計表表表	大東大東東 阪京阪京京 株株手手手 式式形形形 取取交交交 引引換換換 所所所所所

諸 銀 行	關 東 局	南 洋 廳	樺 太 廳	臺 灣 總 督 府	朝 鮮 總 督 府	厚 生 省
日日日正日日日 本本本 勸興業 業業業 銀銀銀 行行行	文 書 課	文 書 課	文 書 課	財殖殖文 務局產產書 稅務局	農財文 務局書 林稅務 局課課	職 業 部 管 理 課
主全調正拂公外銀 要國公債社債社債社債 債債債債債債債債債債 券券券券券券券券券券 利利利利利利利利利利 剋剋剋剋剋剋剋剋剋 調表報報額調計調	關 東 局 統 計 書	南 洋 廳 統 計 年 鑑	樺 太 廳 統 計 書	臺 灣 總 督 府 統 計 書 臺 灣 糖 業 統 計 書 臺 灣 農 業 統 計 書 臺 灣 易 業 統 計 書	農 業 統 計 表 朝 鮮 總 督 府 統 計 年 報 朝 鮮 總 督 府 統 計 年 報 朝 鮮 總 督 府 統 計 年 報	職 業 紹 介 公 報 及 職 業 時 報

大阪毎日新聞社	エコーノミスト
大阪市社会部	労働月報
岡田昌藏 (牛込區余丁町四五)	東京銀行通信録
荒木秀一 (大阪市天王寺區細工谷一〇九)	大阪銀行通信録
吉山勝夫	滿鐵調查月報
矢澤宗一 (大連市寺内通三)	滿洲重要物産年報
山下吉之 (日本橋區通一ノ七)	信託協會々報
清水重次郎	南洋栽培協會々報
兒玉一祐 (日黒區上日黒五ノ二六六)	米穀日本(食糧經濟)
奥野道夫 (杉並區大宮前六ノ三七七)	木材年鑑

第二章 全國主要日刊新聞記事に依る陸軍將校の異動に關する文書課
報の一例 (自昭和十四年八月七日至昭和十四年八月九日)
第一節 判決

陸軍將校に關する記事は新聞は勿論其の他の刊行物に於ける發表を一切禁止するか又は強力なる統制を加ふるにあらざれば人事異動の秘匿は甚だ困難にして諸外國の諜報は比較的容易なるべし。

第二節 理由

- 一、陸軍現役將校同相當官實役停年名簿が秘扱となりたるは昭和十一年九月調より部外秘、昭和十三年九月調より軍事極秘にして而も官報には任官、進級、陸軍諸學校の入退校、成績優秀者等は發表せらるるを以て爾後の補修訂正は比較的容易に行はれあるものと判断せらる。
- 二、昭和十四年八月七日、八日、九日の三日間に於ける全國主要日刊新聞に就て陸軍の人事異動に關する資料を蒐集したるに新聞に進級、異動を公表せられたるものを除く異動に就て知り得たる狀況左の如し。
 - 1、新聞に掲載せられたる人員數一一八
 - 2、職官氏名、生年月日、陸士期別、經歷の概要等の判明せるもの

將官	一四	大佐	一三
佐官	三六	中佐	一八
尉官	三	少佐	五
比率	約四五%		

3、職を明瞭にし得ざるもの

將官	一二	大佐	一五
佐官	四四	中佐	一九
尉官	三	少佐	一〇
比率	約五〇%		

4、不明瞭なるもの

將官	一
佐官	三
尉官	二
比率	五%

5、新聞掲載回数一人に付最高七回最低一回平均約一・八回

三、故に絶えず戦死傷者の新聞記事其他陸軍、軍人に關する新聞記事並に新聞以外の刊行物に就て諜報且要點に諜者を配置して諜知するの手段を講じて補足する等連続一貫せる諸外國の作業に想到せば現在の如き新聞掲載記事は秘密保持に關して大なる効果なきものと判断せざるを得ず。

第三節 統制不十分なる記事に依る例

記事の統制不十分にして容易に目的を達し得るもの左の如し。但し——を施したる部分は昭和九年九月一日調陸軍現役將校同相当官實役停年名簿に依る。新聞記事は原文のまゝとす

官氏名	現職	原次郎 (歩兵出身)	生年月日
			明治二〇、一〇、二一
留守第五師團長	留守第五師團長		
一、長野縣出身			
一、陸士第二十期			
一、第十二師團參謀長タリシコトアリ			
一、第三十旅團長ヨリ留守第五師團長ヘカ			
一、少尉(明四一、一二、二五)			

考	備	家状 庭況	歴
		一、子供二十ヲ頭ニ四(二?)男三女アリ	中 佐 (昭三、三、二四)
			大 佐 (昭七、八、八)
			中 將 (昭二四、八、一)
			一、昭八、八、一、歩三十八長
	一、九州朝日新聞(八、八)、大阪朝日新聞廣島版(八、九)、中國新聞(八、九)、京都日新聞(八、九)、大和旭新聞(八、八)ニ依ル		
	二、陸軍少將 武田馨 陸軍少將 赤鹿理ハ第十二師團參謀長タリシコトアルカ?		
	三、田尻中將 大谷少將		
	ハ廣島ニ勤務シアリ		

九州朝日新聞(二四、八、八)……………久留米市南蕘西町一九四三

五將軍に祝電 久留米市より發す

久留米市では今回の陸軍異動に依り進級、榮轉した久留米市出身の岩永注、中富秀夫兩少將に對して又第十二師團參謀長たりし篠原次郎中將、武田馨少將、赤鹿理の五將軍に石橋市長名を以て祝電を發した。

大阪朝日新聞廣島版(二四、八、九)

寫 眞

巨艦、温情の武將篠原次郎中將着任す

篠原次郎中將は八日午後五時十一分廣島驛着列車で單身着任した、驛頭には田尻中將以下在廣各部隊長、飯沼知事はじめ軍官民、婦人團體員ら多數出迎へるなかを中將は擧手の禮で答へつつ一日驛貴賓室で休憩、自動車で官邸に入った。中將は長野縣出身陸士二十期、堂々たる巨艦に温情豊かな武將として知られてゐる、九日午前十前初登應のはず、なほ夫人および二男三女は近く來廣の豫定。

中國新聞(二四、八、九)……………廣島市上流川町二番地一及五

篠原師管徵兵官 きのふ晴れの着任

篠原次郎師管徵兵官は、八日午後五時十一分廣島驛着列車で着任、驛頭で大谷少將以下多數將校、飯沼縣知事、中邑市長代理、山本本社社長をはじめ在郷軍人團、國防婦人會ら多數官民の出迎へを受け驛長室に少憩のち直ちに官邸に向つた、堂々たる體軀をしたこの徵兵官を車中に訪へば、内海の風光に目をやりながら

もう立秋だが、廣島の暑さはどうかね、夕風があると聞かされてきたが……………岡山に一寸ゐたことがあるが廣島ははじめてだ、廣島はまだ市長が決らないといふ話だがこの二十日から防空演習がはじまるのに時局柄困つたことだなア、趣味かネ……………無趣味だよ、しかし國策線にそつて子

供は二十を頭に四男三女といふ子澤山だハハ、ハハ、
 緒顔に堅く結んだ唇を綻ばせながら語つた、なほ同徴兵官は八日午前十時初登壇のはず。
 京都日々新聞(二四、八、九)……………京都市中京區烏丸通竹屋町上ル大倉町

篠原次郎中將新任地へ向ふ

赫々たる武勳を擔つて過日晴の歸還をなし中將に榮進した篠原次郎將軍は前夜入洛、八日午前九時五
 十五分京都驛發列車で英姿颯爽と新任地へ向つた。

大和旭新聞(二四、八、八)……………奈良市三條今井町

篠原中將舊部下を慰問

郷土部隊長として輝く武勳をたて歸還した篠原次郎中將は七日午後〇時五分省線〇〇驛着にて來寧〇
 〇部隊を訪れ全將校を偕行社に集め懇談した後、〇〇陸軍病院に白衣勇士を慰問、次で〇〇寺念佛堂
 に詣で今は亡き部下の英靈の冥福を祈り夕刻〇〇驛發で目的地に向つた。

現職	步兵第十九聯隊長	相葉健	生年	明治二六、
			一月、八	
			本	四十七歳

経	一、東京市淺草區壽町	歴	一、歩十九大隊長(昭八、八、一) 昭一一、四頃迄在任
	一、陸士第二十五期		
家状	妻 畝都 (三六)	庭ノ況	福山中學校四年在學
	長男 太郎 (一七)		虎姫中學校へ轉校ノ豫定
備	一、敦賀時事新聞(八、八)	考	一、敦賀新聞(八、八) 新愛知新聞(八、八)
	二、歩兵第十八旅團長		陸軍少將 青木……………ヲ發見
	歩兵第十九聯隊副官		歩兵中尉 桑田……………ヲ發見
	敦賀聯隊區司令官		歩兵大佐(?) 太田……………ヲ發見

新愛知新聞(二四、八、八)……………名古屋市西區御幸本町通二ノ二
 家にも歸つた様な氣持 相葉新任聯隊長語る

寫眞

新任敦賀歩兵第十九聯隊長相葉健大佐は七日前十一時一分敦賀驛着列車で家族同伴、桑田副官をしたがへ來任、青木少將、太田聯隊區司令官、田保縣會議長ら官民多數の出迎へを受け、驛長室で少憩出迎への官民代表に挨拶のうへ宿舎に入つた、同大佐は東京市淺草區壽町の生れ本年四十七歳陸大第二十五期出身で以前島本聯隊長のころ少佐として敦賀に在任、温厚な風格はお馴染の武人であると、家庭は畝都夫人(三六)と長男虎姫中學四年太郎(一七)君の三人暮し、着任に際し左の如く語る(寫眞は相葉聯隊長)

敦賀は以前厄介になつたことがあり、今度三年三ヶ月振りてやつて來たが、まるで自分の家にも歸つたやうな氣がする、知人も相當をられるじ非常に心強い、時局重大の折柄任務は重いが官民諸氏の御聲援によつて遺憾なきを期したい、どうかよろしく……

敦賀新聞(一四、八、八)……福井縣敦賀市蓬萊二五一

敦賀は第二の故郷 家に歸つた心持

今次事變に赫々武名輝やく新任相葉聯隊長着任

福山第四十一聯隊から敦賀第十九聯隊長に榮轉の相葉健大佐は副官桑田中尉を帶同畝都子(三六)夫人令息太郎(一七)君を同伴七日前十一時一分敦賀着列車で着任した。

驛頭には第十八旅團長青木少將を初め十九聯隊將兵、聯隊區司令部、陸軍病院、憲兵分隊等軍部關係者を初め水野助役、田保縣會議長外市内各官衙公署長、市議、商議、區長、將校婦人會、各種團體長、團體等ホーム一ぱいの出迎へ裡に相葉大佐一行は巨椋驛長の案内で驛長室に入り出迎への市内官衙長、各種團體長らと挨拶を交し自動車で植山別荘に入り旅裝を解き晝食をした、め午後市内各官衙公署並びに關係方面へ挨拶廻りした。

相葉大佐は芳年四十七歳働き盛り東京淺草區壽町出身で士官學校第廿五期生、約三年前十九聯隊の大隊長として俊腕を揮ひ滿洲事變に出陣勇名を馳せ更に今次事變勃發と共に中支戰線に活躍武名を轟ろかした赫々の勇將で

戰場灼けた赭顔を人なつく綻ばしながら驛長室で左の如く語つた。

大隊長時代十九聯隊に御厄介になりましたので敦賀は全く故郷の様で家に歸つた心持です、今後共良ろしく

と言葉尠なに語つた。

尙福山中學校四年に在學中の太郎君は虎姫中學に轉校の筈であり、三島郵便局隣り元セメント清水支配人宅に寓居を構へる。

敦賀時事新聞(夕刊)(一四、八、七)……福井縣敦賀市蓬萊二十九番地

相葉健聯隊長戦開帽姿颯爽と着任

親元へ歸つた懐しさだ 夫人愛息も同伴

中支派遣○部隊附から敦賀歩兵第十九聯隊長に榮轉した相葉健大佐は副官桑田中尉を帶同夫人故郷子さん(三六)愛息太郎君(二七)の家族同伴七日午前十一時一分敦賀驛着列車で着任驛頭青木旅團長はじめ將校、准士官、下士官代表、田保縣市會議長、市長代理水野助役、矢野警察署長、那須商議會頭、川原敦商校長、畑守郷軍聯合分會長、矢田東南旧結北各分會長、各官術代表、軍友會、國婦、愛婦、太田司令官夫人ら將校婦人團多數の出迎へをうけ戦開帽姿颯爽と下車一旦驛長室に入り各代表と挨拶を交はしたのち自動車で官幣大社氣比神宮に參拜後ひとまづ三島の自宅に落ちついた相葉聯隊長は東京市淺草區壽町出身陸士二十五期卒業生で當年四十七歳の若き武將である聯隊長は記者團に對し

三年三月振りて再び敦賀に來たので親元へ歸つて來たやうな感じがする將來共何分よろしくと簡単な感想を語つた、なほ一粒種の太郎君は福山中學四年生で虎姫中學に轉校す。

官氏名	步兵大佐 齋藤 肇	生年	明治三三、六月一八
		本年	四十九歳

現職	経歴	家状	備考
步兵第三十四聯隊補充隊長ナラン	一、廣島市大手町七丁目出身 一、陸士第二十三期 一、昭和十二年八月ウースン上陸以來中支戦線ニ活躍ス 一、少尉(明四四、一二、二六) 一、少佐(昭四、三、一六) 一、中佐(昭九、八、一)	一、家庭ハ大阪市大手前ニアリ 妻 芳子(四一) 長女 静江(二二)	一、静岡民友新聞(八、八)(八、九) 静岡新報(八、九)ニ依ル 二、副官 步兵大尉 増田 静岡聯隊區司令官 新井 補充隊 附 步兵中佐 小林 三、前任者ハ步兵大佐大堀知武造ナリ

静岡民友新聞(一四、八、九)……静岡市紺屋町四十六番地

齋藤肇部隊長のふへ着任

四二

寫眞

小濱知事に迎へられて赫々たる武勳を輝かせて
新任齋藤部隊長(廣島市出身)は赫々たる武勳を輝やかせて八日午後八時三十五分静岡驛着列車で小濱知事、稻森市長、小林中佐、新井聯隊區司令官等官民多数の出迎へを受けて着任した。

静岡は始めてです 齋藤大佐語る

新任我等が郷土部隊の部隊長齋藤肇大佐(廣島市大手町七丁目出身)は八日午後八時三十五分〇〇驛着上り列車にて軍、縣、市、愛婦、國婦其の他各種團體多数の出迎へを受けて元氣一杯で着任した、大佐は驛長室において次の如く新任の挨拶をのべた。

人情風俗のまことに美しい氣候のよい土地に職を奉することゝなつたのは非常に幸福だと思つてゐる軍神〇〇中佐を出した光榮と山緒を思ひ先輩の名に恥じぬやう努力するつもりである静岡は初めてで全く白紙であるが一昨年八月第三先遣隊でウーンスン上陸の將兵達と戦場で共に暮らしたなつかしい思ひ出もあつてこゝへ來られたことも何かの山縁と思つてゐるどうか今まで通りの銃後の御聲援をお願いしたい。

大佐は陸士二十三期の卒業で本年四十九歳一昨年八月ウーンスン上陸以來中支戦線に活躍赫々の武勳を

立てたものである、大佐の家庭は大阪市大手前にあり夫人芳子さん(四一)長女静江さん(二一)の二人暮らしてある。(寫眞は静岡驛にてうつす)

静岡民友新聞(一四、八、八)

某要職を去つて滿洲國昭和製鋼入りをする大堀智武造大佐は六日午前八時二十八分小濱知事、齋藤部隊長代理小林中佐、稻森市長、新井聯隊區司令官其の他官民多数の見送りをうけて單身赴任した。

静岡新報(一四、八、九)……静岡市追手町二二九

齋藤肇大佐昨夜着任す

吾れ等が齋藤肇大佐は八日午後八時三十五分〇〇驛着列車で着任、同夜市内安田旅館に一泊した、同大佐は廣島市出身今次事變勃發するや直ちに中支に出征吳淞敵前上陸以來各地に轉戦現地に勇名を馳せ武勳に輝やく名將であると共に部下に對する情篤く又社會人としても洵に快潤圓熟の士である、同大佐は今九日副官増田大尉同行で衛戍地官公衙その他に挨拶廻りをなす豫定である、八日夜安田屋旅館に訪へば、左の如く第一聲を放つた。

當地は初めての着任で何事も未知の處であるが橋大隊長初め先輩の名に背かぬ様努力する積りである。

と語つた、尙同大佐は陸士二十三期生である。

官氏名	陸軍砲兵中佐 林 英 雄	
	職現	山砲兵第九聯隊長
生年	明治二四、一一、七	日
本	年	四十九歳
歴	經	一、和歌山縣那賀郡王子村出身 一、陸士第二十五期 一、少尉任官當時野砲一五附(國府臺) 一、野砲二五附(朝鮮羅南) 一、野砲一〇大隊長(昭七—昭九滿洲東部方面ニテ活動) 一、函館高等水産學校配屬將校 一、野砲七留守隊長 一、在中支〇〇部隊兵器部長ヨリ山砲九長へ 一、少尉(大正二、一二、二五) 大尉(大正一一、八、一五) 少佐(昭六、八、一六) 野砲一〇附(昭九、八、一)

考	備	庭家ノ状況
一、金澤新報、石川讀賣、北國新聞、大阪朝日新聞(八、八)富山日報(八、九)ニ依ル、 二、第九師團長陸軍中將吉住良輔、第九師團副官中村……、金澤憲兵分隊長大脇(?)…… 三、南京攻略時ノ山砲九長ハ芹川透 四、東久邇宮彰常殿下ハ山砲九ニ御勤務セラレシコトアリ	妻 靜(三九) 長女 朝子(一九) 長男 甲子郎(一六) 仙臺幼年學校二年在學 外一男三女アリ	

北陸毎日新聞(二四、八、八)……金澤市南町五〇番地

南京の戦績調査で感心した當部隊

全く力強い思ひで着任した林山砲九聯隊長談

〇〇部隊の兵器部長から山砲兵第九聯隊長に榮轉の林英雄中佐は夕刊既報の如く昨七日午後四時一分金澤驛着列車で中村師團副官はじめ比士平砲兵少佐、大脇憲兵分隊長ら軍官民多數出迎へ裡に着任したが、直に師團司令部を訪問師團長に申告を終へ仙石町のあさ井屋旅館に入つたが往訪の記者に微笑をたへつ

寫真

つ左の如く語つた。

四六

わしは南京で戦績案内などの都合から當部隊が南京一番乗りをした際の戦績を研究してゐた時に轉補の命令をうけとつたもので、恰も戦績の研究にあつてゐた部隊に轉任し洵になつかしい思ひでやつて來ました、當部隊の南京一番乗りの戦績を研究して見て感心したのですが、あゝもよく歩砲が一體となつて活躍し得たが、砲兵が歩兵と共に敵前百四十五米までに進出して砲を撃つてゐたなどはこの事變でもないことで、全く申分ない満點である、御當地の部隊が上海の堅壘を陥し入れ、南京城をぬき武漢作戦を敢行する等赫々、(寫眞は自動車に乗つた林聯隊長)

林聯隊長略歴

林英雄中佐は

和歌山縣那賀郡王子村の出身、陸士二十五期生、四十九歳の働き盛り、少尉任官とともに第一師團國府臺の野砲第十五聯隊を振り出しに朝鮮羅南野砲第二十五聯隊、姫路野砲第十聯隊の大隊長となり昭和七年から同九年まで滿洲警備にかゝやかしい武勳をたて、凱旋、函館の高等水産學校配屬將校、野砲第七聯隊〇〇隊長から〇〇部隊の兵器部長に榮轉、支那事變に活躍今日に至つたものである。夫人靜さん(三十九年)との間に長女朝子さん(十九年)長男仙臺幼年學校二年生甲子郎君(十六年)のほか一男三女の和やかな家庭である。

北國夕刊新聞(一四、八、八)……………金澤市弓ノ町六(驛前通り)

林中佐着任

林英雄中佐は七日午後四時金澤驛着列車にて多數官民の歡迎裡に灼顔に武勳を偲ばせ着任。

北國新聞(一四、八、八)……………金澤市南町九十三番地

砲歩一體の猛射で南京攻略戦は満點 昨日着任せる林山砲九聯隊長語る

〇〇部隊兵器部長として中支戦線に活躍した武勳の戎衣も涼々しく新任山砲兵第九聯隊長林英雄陸軍砲兵中佐は昨七日午後四時一分金澤着列車で着任、驛頭野中佐、比士平、芳賀、高橋各少佐以下同隊將校、下士官の出迎へを受け直に自動車を馳せて第九師團司令部を訪れ吉住師團長に着任の報告をなすところあつたが仙石町あさむ屋旅館に入つたところへ刺を通すると「著いから上衣を脱ぎ給へ……………」と気軽に面接し、眼鏡の裏に溫和な笑みを湛へながら記者團の問ひに答へる。(寫眞は金澤驛に於ける林山砲聯隊長)

寫眞

「南京の警備を一年あまりやつてゐた……………南京にゐるといふいろいろな人が訪れて來るのでわれわれの部隊で南京の戦蹟研究をやることになり自分がそれを擔當してゐたのでこちらの部隊の活躍状況をよく知ることが出來た……………その結果論か……………ウン満點だ、戦闘は砲、歩一體となつて實によくやつてゐ

四七

るのに感嘆した、あの光華門の攻撃なんぞは敵前百四十米の近くまで砲兵が進出し歩兵と一心同體となつて猛射をやつてゐる砲兵がこんなに近くまで進んで撃つなんていふことはいままでの戦闘や今次事變でも少い、これは砲兵と歩兵が一體とならねば出来ぬことで全く兵科を超過した成果だ……ウソそうだ、この強い兵を自分が率ゐると思へば愉快でならない……上海を陥入れ、南京城を猛攻し大別山へ追撃したあの意氣をもつて事に當れば何事か出来得ざるものあらんや……と自分は今度部下に訓示しようと考えて来た……」

南京 禮 讚 日本民族進出の好適地

自分は南京へ一發も銃聲をきかず部下と別れて歸るのは心苦しかつたが、こちらの精銳を率ゐて再度勇躍する日を楽しみにやつて来た……南京か……そうだなア折折はテロ事件もあるが全く内地と同じ平穩さに還つてゐる——排英の空氣か……英國の勢力もだんだん影をうすめてゐる、青天白日旗なんぞは南京で一本も見られないといふ状態だ。

第一線から歸つて来る兵が南京の治安状態をみて之でこそわれわれは第一線で奮闘した價值があつたと喜んでゐるほどに南京はもう整備されてゐるのだ、南京は非常に住みよい、日本民族の進出には好適な土地だ日本人は現在六千人ゐるからどうだい諸君も行かないか……」と南京の禮讚を

一くさり。

東久邇宮彰常王殿下が當聯隊に御勤務になつてゐられたことは拜聞してゐる……再びその目のあるであらうと感激してゐる。

金澤新報(一四、八、九)……金澤市南町六二番地

勇名轟く精銳率ひ再度の勇躍が楽しみ

新任の林山砲九聯隊長談

○〇部隊の兵器部長から山砲兵第九聯隊長に榮轉の林英雄中佐は昨既報の如く七日午後四時一分着列車で着任したが直ちに自動車を馳せて第九師團司令部を訪れ吉住師團長に申告を終へ仙石町のあき井屋旅館に入つたが往訪の記者に次の如く語つた。

わしは南京で戦績案内などの都合から當部隊が南京一番乗りをした際の戦績を研究してゐたのでこちらの部隊の活躍状況をよく知ることが出来た、その結果論か——満點だ砲、歩一體となつて實によくやつてゐるのに感嘆した、あの光華門の攻撃なんぞは敵前百四十五米の近くまで砲兵が進出し歩兵と一體になつて砲を撃つてゐたなどはこの事變中まれな事で兵科を超過した成果だ、この強い兵を自分が率ゐると思へば愉快でならない上海の堅壘を陥し入れ南京城を猛攻し大別山へ追撃したあの意氣をもつて何事にも當れば出来得ざるものあらんや——と自分は今度部下に訓示しようと考えて

へて来た、實はわじは戦地に行きながら一發の銃聲もきかず部下と別れて来たのは心苦しかったが武勳赫々たるこちらの精銳を率ゐて再度勇躍する日を樂しみにやつて来た南京の氣候は東京あたりとほとんど變らないよ、整備されて非常に住みよい、日本人は六千人ゐるから諸君も行かないか——なに趣味か——無藝大食だよ、金澤は全然しらない初めてですどうかよろしく。

と口を結んだがなかなか明朗快活な武人である。

同中佐は和歌山縣那賀郡王子村の出身陸士二十五期生四十九歳の働き盛り少尉任官とともに第一師團國府臺野砲第十五聯隊を振り出しに朝鮮羅南野砲第二十五聯隊姫路野砲第十聯隊の大隊長となり昭和七年から同九年迄滿洲警備に輝やかしい武勳を樹て、凱旋函館の高等水産學校配屬將校、野砲第七聯隊〇〇隊長から〇〇部隊の兵器部長に榮轉、今事變に活躍今日に至つたものである、夫人靜さん(三九)との間に長女朝子さん(十九)長男甲子郎君(二六)仙臺幼年學校二年生のほかに一男三女の和やかな家庭で現在東京に居られると。

富山日報(二四、八、九)……………富山市總曲輪二五五

山砲兵第九聯隊長着任 林英雄中佐

〇〇部隊兵器部長として中支戦線に活躍した武勳の戎衣も涼々しく新任山砲兵第九聯隊長林英雄陸軍砲兵中佐は昨七日午後四時一分金澤着列車で着任、同聯隊長は和歌山縣那賀郡王子村の出身、陸士砲

科第二十五期生で本年四十九歳、第一師團國府臺野砲第十五聯隊を振出しに朝鮮羅南野砲二十五聯隊附、姫路野砲十聯隊を経て大隊長として昭和七年より同九年の二ヶ年滿洲の東部線方面に出動、兩館高等水産學校配屬將校、旭川野砲第七聯隊留守隊長を経て〇〇部隊兵器部長として第一線に出動今日に至つたもので家庭には夫人靜さん(三九)と仙臺幼年學校二年在學の長男甲子郎君(二六)を合せて二男四女の子寶がある。

北國夕刊新聞(二四、八、九)

武勳の砲九へ来たのは光榮 林隊長の着任談

既報七日午後四時一分金澤着列車で着任した林山砲九聯隊長は直ちに自動車を馳せて第九師團司令部を訪れ吉住師團長に着任の報告をなし仙石町淺井屋旅館に投宿した。

林聯隊長は和歌山縣那賀郡王子村の出身で陸士二十五期生、四十九歳、少尉任官とともに第一師團國府臺野砲第十五聯隊を振出しに朝鮮羅南野砲第二十五聯隊、姫路野砲第十聯隊の大隊長となり昭和七年より同九年まで滿洲警備に輝かしい武勳をたて凱旋、兩館水産學校配屬將校、野砲第七聯隊〇〇隊長から〇〇部隊の兵器部長に榮轉今事變に活躍した人である、家庭には靜子夫人(三九)との間に長女朝子さん(一九)長男甲子郎君(二六)のほか一男三女がある。

旅館に林隊長を訪れば

「武勳の譽れ高き山砲第九聯隊に着任した事は光榮で大いにやりたいと思ひます」と語つた。

五二

石川讀實(二四、八、八)……………金澤市尾張町六十一番地

不滅の武勳部隊へ大陸から颯爽着任 明朝潤達の林英雄中佐

寫眞

○部隊兵器部長として大陸に活躍中今回山砲第九聯隊長となつた林英雄中佐は七日午後四時一分金澤着列車で途中まで出迎へた田中中尉を帶同單身着任した、驛ホームに出迎へた部下將校と挨拶を交し、直ちに自動車を駆つて師團司令部に至り吉住中將に着任報告を行つたのち市内仙石町あさい屋旅館に入りくつろいだ、旅館に同中佐を訪ねると「内地もなかなか暑い、上衣を脱いで話さうじゃないか」と温顔を綻ばせて明朝潤達ぶりをた。

「金澤は始めてだが人情淳朴の土地と聞いて親しく思つてゐた、南京では戦績訪問者の案内掛りをやつてゐたので當師團の部隊については大いに研究したつもりだが、南京攻略戦ぐらひ歩砲一體となつて目覺ましい戦果を挙げたものはないだらう、しかも光華門前百四十米突に逼り猛攻を浴せた芹川部隊の偉勳は實に感銘深いものだ、こうした名譽ある部隊を生んだ當地へ突然轉任を命ぜられたのは何かの奇縁であらうと思つてゐる、南京はいまだ内地と同様の平靜さで支那住民も六千人

餘りの邦人も皇軍の力強い守備下に孜々として建設に邁進してゐる、南京は非常に暑いと謂はれてゐるが内地の暑さと左程變りはない、夕方になれば微風がそよそよと吹いて涼しく、まことに住心地が良い、趣味なんてないが無藝大食の方だよハハハ、」

なほ同中佐は和歌山縣那賀郡王子村の出身で陸士二十五期生、國府臺野砲第十五聯隊で少尉に任官し朝鮮羅南野砲第二十五聯隊を経て昭和七年から九年にかけて姫路野砲第十聯隊大隊長として滿洲事變に参加、次いで兩館高等水産學校配屬將校となり、旭川野砲第七聯隊長となつたが支那事變勃發と共に出征、今回の榮轉となつた。

夫人静(三九)さんとの間には仙臺幼年學校二年在學中の長男甲子郎(二六)君、長女朝子(一九)さんを筆頭に二男四女の子寶である。(寫眞は林英雄中佐)

第四節 記事統制要領

一、陸軍將校に關する記事を發表せしむるときは經歷、階級、職、在職地、轉任地等を顧慮して發表の程度を定め概ね左の如き著意を適宜按配するを必要と認む。

- 1、部隊名は如何なる場合にも○とすること。
- 2、必ず姓のみとし名を用ひざること。

- 3、兵科、官等、職名を併記せしめず單に官等のみを用ひしむ。
- 4、過去に於ける經歷は一切禁止すること又「北滿、北支、中支、南支等に在りて活躍云々」の如きも嚴に禁止すること。
- 5、出迎、見送、訪問等の關係者の所屬、姓官等は禁止すること。
- 6、所屬部隊の所在(例へば北支、中支、滿洲等)を示すことは禁止すること。
- 7、出身地は一切禁止すること。
- 8、本人の經歷及性格を表はす談話は一切發表せざることを。
- 9、家族の狀況は發表せざることを。
- 10、寫眞の掲載を禁ずるを可とす。
- 11、其の他在職部隊の所在を暗示する記事例へば「我等の郷土部隊長として云々」「着任」「離任」等は禁止すること。
- 12、場所、日時は凡て〇〇を用ひしむること。

二、理由

- 1、部隊名の明示の不可は當然にして過去に於て相當準備しある諸外國の諜報に對しては常に〇〇を用ひて困難性を増加せしむるを要す。

- 2、姓名を用ふれば過去の停年名簿より直ちに搜出し得。
- 3、兵科、官等、職名を用ふれば名を削除するも姓と照合し比較的容易に停年名簿より搜出し得。
- 4、過去の經歷は兵科官等を知り得停年名簿よりの搜出を容易ならしむ。
- 5、出迎、見送、訪問等の關係者の記述により一名に關する記事より他の多數の資料を容易に求め得。
- 6、所屬部隊の所在を秘するにあらざれば過去より連續して諜報に努めある諸外國に對しては新部隊名補修訂正の好資料を與ふるの因となる。
- 7、出身地は停年名簿上に於て搜出確定の好資料となる。
- 8、本人の經歷及性格、家族の狀況等は容易に入手し得ざる資料にして而も人物判斷等に甚だ大なる根據を與ふるものなり。
- 9、寫眞の蒐集は困難なるものなり然るに新聞よりの複寫は明瞭を缺くも容易に實施し得。
- 10、在職部隊を暗示する記事竝に場所日時の明示により在職先の確定に根據を與へ爾後の作業を極めて容易にす。

第三章 關門海底隧道に關する記事に就て

第一 說明

- 一、本書は内務省警保局圖書課の好意によつて早急の間に集めて貰つた資料から作つたものである。
- 二、調査の範圍は東京府、愛知縣、大阪府、山口縣、福岡縣の新聞のみに止め特に警視廳管下の雜誌は一應調査して貰つた。
- 三、此の外に鐵道省及内務省の關係局課からパンフレットや秘拔でない計畫書類の一部が出て居ると思ふが之は調査し得なかつた、この調査が出来なかつたのは本書の最大缺陥であらうと思ふ、唯問題になつたものとして記憶して居るので特に附加したものは昭和十二年七月鐵道省下關改良事務所の「關門聯絡線に就て」と「週報第一七三號」との二つである。
- 四、甚だ不十分なものではあるが軍用資源秘密として指定される關門隧道がどんな取扱を受け如何に文書報機關の發達した外國に洩れたかを一瞥して貰ひたく此機會に左の如き私見を持つものである。
- (一) 防諜觀念がもつと深刻に國民全部に徹底されねばならぬ。
- (二) 防諜に關する主務官廳が必要である、ここで將來に互る方針なり計畫が定められねばならぬ。
- (三) 各官廳の計畫部局に防諜に關する課が設けられ新しい計畫をする場合に防諜方面から見た必要

處置が織り込まれる必要がある。

秘密にして置いてあとから發表するのは容易であるが發表して置いてあとから秘密にすることは殆んど無意義であるからだ。

- (四) 新聞、出版に關する統制が強化されねばならぬ。
- (五) 我が國にももつと大規模で組織的な文書による調査機關が要る、然し何日日本がそう云ふ風になるだらうか。

第二 關門海底隧道關係記事掲載狀況

- 一、調査印刷物
新聞、紙 四〇種
雜誌、圖書 三七種
- 二、掲載件數 六六六件
- 三、掲載記事の内容別件數

註 内譯欄中右側の數字は新聞紙掲載件數、左側の數字は雜誌、圖書掲載件數を示す

記事内容	區分	掲載件數				
	内	警視廳管下發行ノモノ	愛知縣下發行ノモノ	大阪府下發行ノモノ	山口縣下發行ノモノ	福岡縣下發行ノモノ
	譯					

隧道掘鑿ニ關スル一般狀況	六五		一九二	五	二	二	二八
鐵道試掘隧道貫通ニ關スル	六三		五六	二	一	一	二四
鐵道試掘隧道貫通ニ關スル	四五		一三	四	二	二	二六
鐵道試掘隧道貫通ニ關スル	三四						三四
隧道掘鑿技術ニ關スルモノ	二九		六一				二二
隧道完成後ノ諸計畫ニ關スルモノ	二八		二				二五
鐵道試掘隧道掘鑿狀況ニ關スルモノ	二五						二四
隧道掘鑿業務擔當者ニ關スルモノ	二四						二三
國道隧道掘鑿計畫ニ關スルモノ	二四						二四
關門海底地質ニ關スルモノ	二〇		二〇				一四
國道試掘隧道掘鑿狀況ニ關スルモノ	二〇						一八
國道隧道豫算ニ關スルモノ	一八						二〇
國道本隧道掘鑿ニ關スルモノ	一七						一八
							二二

隧道掘鑿ニ對スル審議ニ關スルモノ	一五						一五
鐵道本隧道掘鑿ニ關スルモノ	一二						八
關門隧道經濟的價值ニ關スルモノ	一〇						九
鐵道隧道豫算ニ關スルモノ	一〇						一〇
鐵道試掘隧道起工ニ關スルモノ	九						八
隧道掘鑿計畫ニ關スルモノ	四						
國道試掘隧道起工ニ關スルモノ	三						三
鐵道隧道内施設計畫ニ關スルモノ	三						三
不	一〇〇						
明	七八						八九
其他	八八						四九
計	六六六	七二六	三〇二	二七	四	三	八五九
		六六			五〇		三九三

第三 警視廳官下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載狀況

(一) 調査新聞紙 三種
(二) 掲載件数 二六件

記事内容

- 1、關門海底地質ニ關スルモノ 二件
- 2、隧道掘鑿技術ニ關スルモノ 一件
- 3、隧道完成後ノ諸計畫ニ關スルモノ 一件
- 4、隧道掘鑿ニ關スル一般狀況 二件
- 5、鐵道試掘隧道掘鑿狀況ニ關スルモノ 一件
- 6、鐵道試掘隧道貫通ニ關スルモノ 六件
- 7、國道試掘隧道貫道ニ關スルモノ 三件
- 8、鐵道、本隧道掘鑿ニ關スルモノ 一件
- 9、不 明 七件
- 10、其ノ他 二件

二、雜誌 三五種
(一) 調査雜誌

(二) 掲載件数 七六件

記事内容

- 1、隧道掘鑿計畫ニ關スルモノ 一件
- 2、隧道掘鑿技術ニ關スルモノ 六件
- 3、隧道完成後ノ諸計畫ニ關スルモノ 二件
- 4、鐵道試掘隧道起工ニ關スルモノ 一件
- 5、國道隧道掘鑿計畫ニ關スルモノ 一〇件
- 6、隧道掘鑿ノ一般狀況ニ關スルモノ 一九件
- 7、鐵道試掘隧道貫通ニ關スルモノ 五件
- 8、國道試掘隧道貫通ニ關スルモノ 一件
- 9、鐵道本隧道掘鑿ニ關スルモノ 一件
- 10、其ノ他 三〇件

三、新聞別記事内容件数

内 容 區 分	件 数	新 聞 名	
		東京朝日新聞	東京日日新聞
東京朝日新聞		讀賣新聞	
東京日日新聞			讀賣新聞

第四 愛知縣下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載狀況

- 一、調査新聞紙 六種
- 二、掲載件數 二七件

記事内容

- (一) 隧道掘鑿ノ一般狀況 五件
- (二) 鐵道試掘隧道貫通ニ關スルモノ 一二件
- (三) 國道試掘隧道貫通ニ關スルモノ 四件
- (四) 國道本隧道ノ掘鑿ニ關スルモノ 二件
- (五) 其ノ他 四件

三、新聞別記事内容件數

内 容	區 分	件 數	新 聞 名					
			新愛知	大阪朝日新聞	大阪毎日新聞	新愛知	名古屋新聞	名古屋毎日新聞
隧道ノ一般狀況		五	一	一	一	二	二	一

第五 大阪府下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載狀況

- 一、調査新聞紙 一〇種
- 二、掲載件數 五〇件

記事内容

- (一) 關門隧道ノ經濟的價值ニ關スルモノ 一件
- (二) 鐵道試掘隧道貫通ニ關スルモノ 一六件
- (三) 國道試掘隧道貫通ニ關スルモノ 一一件

内 容	區 分	件 數	新 聞 名					
			新愛知	大阪朝日新聞	大阪毎日新聞	新愛知	名古屋新聞	名古屋毎日新聞
鐵道試掘隧道ノ貫通ニ關スルモノ		一二		四	一	二	三	二
國道試掘隧道ノ貫通ニ關スルモノ		四				三		一
國道本隧道ノ掘鑿ニ關スルモノ		二		一				
其ノ他		四		二			二	
計		二七	一	七	二	七	六	四

- (四) 隧道掘鑿ノ一般狀況 一二件
- (五) 國道本隧道掘鑿ニ關スルモノ 三件
- (六) 鐵道本隧道掘鑿ニ關スルモノ 二件
- (七) 隧道掘鑿計畫ニ關スルモノ 二件
- (八) 隧道掘鑿業務擔當者ニ關スルモノ 一件
- (九) 其ノ他 三件

三、新聞別記事内容件數

内容	件數	新聞別												
		大阪朝日新聞	大阪新報	大阪時事新報	大阪日新聞	大阪毎日新聞	關西日報	關西中央新聞	昭和日新聞	夕刊大阪新聞	夕刊大正新聞			
關門隧道ノ經濟的價値ニ關スルモノ	一	一												
鐵道試掘隧道貫通ニ關スルモノ	一六	五	一											
國道試掘隧道貫通ニ關スルモノ	一													
隧道掘鑿ノ一般狀況	二													

計	其ノ他	國道本隧道掘鑿ニ關スルモノ					鐵道本隧道掘鑿ニ關スルモノ					隧道掘鑿計畫ニ關スルモノ					隧道掘鑿業務擔當者ニ關スルモノ				
		三	一	二	二	三	一	二	二	二	一	二	二	二	一	二	二	一	二	二	
五〇	三	一	二	二	三	一	二	二	二	一	二	二	一	二	二	一	二	二	一	二	

第六 山口縣下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載狀況

- 一、新聞紙
 - (一) 調査新聞紙 一二種
 - (二) 掲載件數 八九件
- (記事ノ内容ハ全部不明ナリ)
- 二、雜誌、圖書

- (一) 調査雜誌、圖書 二種
 (二) 掲載件数 五件

記事内容

- 1、隧道掘鑿計畫ニ關スルモノ 一件
 2、不明 四件

三、新聞別記事内容件数

不	明	内容区分		件数	新聞名
		新	聞		
	八九	新聞	日關門	二三	日關門
		新聞	報關門	一一	報關門
		新聞	每關門	一〇	每關門
			部大宇	一	部大宇
			時字日報部	一一	時字日報部
		新聞	防日長	一一	防日長
			新聞防長	四	新聞防長
			新聞防長	一	新聞防長
		新聞	時防府	三	時防府
			日報府	一一	日報府
		新聞	衛民生衆	一〇	衛民生衆
			日山報	三	日山報

四、雜誌、圖書別記事内容件数

内容区分	件数	話ノ關門	關門聯絡線ニ就テ
隧道掘鑿計畫ニ關スルモノ	一		一

不	明	計
四	四	八
五	五	一〇

第七 福岡縣下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載狀況

- 一、調査新聞紙 九種
 二、掲載件数 三九三件
- 記事内容
- (一) 隧道掘鑿ニ對スル審議ニ關スルモノ 一五件
 - (二) 隧道完成後ノ價值ニ關スルモノ 九件
 - (三) 隧道完成後ノ諸計畫ニ關スルモノ 二五件
 - (四) 隧道掘鑿技術ニ關スルモノ 二二件
 - (五) 隧道掘鑿業務擔任者ニ關スルモノ 二三件
 - (六) 關門海底地質ニ關スルモノ 一八件
 - (七) 鐵道隧道豫算ニ關スルモノ 一〇件

内 容 分	件 数	新 聞 名									
		大阪朝 日新聞	大阪毎 日新聞	九州報 知新聞	九州 日報	小倉 日報	鎮西 報	東洋 民報	福岡日 新聞	日新 司日	日新 司日
隧道掘鑿ニ對スル 審議ニ關スルモノ	一五		八				二		五		
隧道完成後ノ諸計 畫ニ關スルモノ	二五	三	四	三		二		九		四	
隧道掘鑿技術ニ關 スルモノ	二二		八				一	一三			
隧道掘鑿業務擔任 者ニ關スルモノ	二三				一			一九		三	
隧道掘鑿ノ一般狀 況	二八	五	八			六	三	六			
鐵道隧道ノ豫算	一〇		二					七		一	
國道隧道ノ豫算	一八	一	五	一		二	五	三		一	
關門海底地質ニ關 スルモノ	一八		二			一		一五			
鐵道隧道掘鑿計畫 ニ關スルモノ	三四		四					二八		二	
國道隧道掘鑿計畫 ニ關スルモノ	一四		四	一		二	二	五			
鐵道試掘隧道起工 ニ關スルモノ	八		三					五			

三、新聞別記事内容件數

- (八) 國道隧道豫算ニ關スルモノ 一八件
- (九) 鐵道隧道掘鑿計畫ニ關スルモノ 三四件
- (十) 國道隧道掘鑿計畫ニ關スルモノ 一四件
- (十一) 鐵道試掘隧道起工ニ關スルモノ 八件
- (十二) 國道試掘隧道起工ニ關スルモノ 三件
- (十三) 隧道掘鑿ノ一般狀況 二八件
- (十四) 鐵道試掘隧道ノ掘鑿狀況ニ關スルモノ 二四件
- (十五) 國道試掘隧道掘鑿狀況ニ關スルモノ 二〇件
- (十六) 鐵道試掘隧道貫通ニ關スルモノ 二四件
- (十七) 國道試掘隧道貫通ニ關スルモノ 二六件
- (十八) 鐵道本隧道掘鑿ニ關スルモノ 八件
- (十九) 國道本隧道掘鑿ニ關スルモノ 一二件
- (二十) 鐵道隧道内施設計畫ニ關スルモノ 三件
- (二十一) 其ノ他 四九件

計	其 ノ 他	鐵道試掘隧道起工 ニ關スルモノ	鐵道試掘隧道掘鑿 ニ關スルモノ	鐵道試掘隧道貫通 ニ關スルモノ	鐵道試掘隧道掘鑿 ニ關スルモノ	鐵道試掘隧道貫通 ニ關スルモノ	鐵道試掘隧道掘鑿 ニ關スルモノ	鐵道試掘隧道貫通 ニ關スルモノ	鐵道試掘隧道掘鑿 ニ關スルモノ	鐵道試掘隧道貫通 ニ關スルモノ	鐵道試掘隧道掘鑿 ニ關スルモノ	鐵道試掘隧道貫通 ニ關スルモノ	鐵道試掘隧道掘鑿 ニ關スルモノ	鐵道試掘隧道貫通 ニ關スルモノ	鐵道試掘隧道掘鑿 ニ關スルモノ	鐵道試掘隧道貫通 ニ關スルモノ	鐵道試掘隧道掘鑿 ニ關スルモノ	鐵道試掘隧道貫通 ニ關スルモノ
三九三	四九	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三〇	四																	
七九	五																	
一七	二																	
一八																		
一四																		
二三	四																	
六	四																	
一八八	二八																	
一八	二																	

一、新聞紙

附錄 關門海底隧道に關する印刷物掲載記事一覽
第一 警視廳管下發行新聞紙、雜誌の掲載記事

題	號	日	附	號	數	記	事	標	題
東京朝日新聞		昭一四、二、二四		一八、九八七					「海底の地質調査」
同		昭一四、三、二八		一九、〇一九					「關門本隧道近く掘さく」
同		昭一四、四、二一		一九、〇四二					「運賃大幅値下、鐵相語る」
同		昭一四、四、二三		一九、〇四四					「あと八五米關門豆隧道廿日頃貫通」
同		昭一四、四、一九		一九、〇五〇					「關門豆隧道開通式」
同		昭一四、四、二〇		一九、〇五一					「社説「關門隧道の中間成功」」
同		昭一四、四、二〇		一九、〇五一					「魔の關門豆隧道開通す」
同		昭一四、四、二六		一九、〇五七					「海底の握手第二陣、けさ關門に萬歳」
同		昭一四、四、二七		一九、〇五八					「海底第二の制覇、國道隧道全通」
同		昭一四、五、八		一九、〇六九					「關門本隧道に最初のシールド工法」
同		昭一四、五、二三		一九、〇七四					「世紀の第一鐵、關門隧道の施工式」
同		昭一四、六、二八		一九、一一〇					「鐵相幸運のスィッチ、意外な鐵脈發見寶の山は關門豆隧道」
同		昭一四、八、三		一九、二五六					「果然素晴らしき銅鑛、關門隧道副産物」

二、雜誌

題	號	發行年月日	號	數	標	題	參考事項
交通内外時報	昭一四、四、一〇		三二一年	三七	建設と工業	關門海底隧道試掘坑 開通日たる十九日午 前十一時鐵道省大臣室 に於ける場景と前田 鐵相の感想記事	
鐵道春秋	昭一三、三、一		三二一年	號	建設と工業		
右	昭一四、二、一		三二一年	號	關門連絡線工事現		
工業國策	昭一四、五、一		二二卷	號	關門國道隧道の計	下關要塞司令官の檢 閲許可を受く	
工學	昭一三、三、一		二八三號	號	關門鐵道隧道木工 事着手		
同	昭一三、六、一		二八六號	號	關門海峽隧道進捗		
同	昭一三、七、一		二八七號	號	關門海底隧道工事		
同	昭一三、八、一		二八八號	號	關門隧道工事進捗 工程		
同	昭一三、九、一		二八九號	號	關門隧道		
同	昭一三、一〇、一		二九〇號	號	關門國道隧道の財 源と工事難		

東京日日新聞	昭一三、九、二〇					「關門隧道けふ盛大な起工式」
同	昭一三、一、二二					「近く豆洲も出動、關門の科學海 底偵察石本博士指導に乗り込む」
同	昭一四、四、一八					「關門」豆洲道けふ愈々開通本土と 九州歴史の握手」
同	昭一四、四、一九					「シヤベル部除威激、懸穴から萬 歳、關門豆洲道開通」
同	昭一四、四、二九					「海底興亞の扉開く、前田鐵相ボク ンに威激こめて關門豆洲道貫通」
同	昭一四、四、二六					「海底に凱歌關門國道貫通」
讀賣新聞	昭一三、八、一八					夕刊 三段抜
同	昭一三、九、二三					朝刊 一段抜
同	昭一三、九、二〇					夕刊 三段抜
同	昭一三、九、八					夕刊 四段抜
同	昭一四、三、八					夕刊 三段抜
同	昭一四、三、二一					夕刊 三段抜
同	昭一四、四、二六					夕刊 三段抜

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	鐵道時報	同	同	交通情報	同	同	同	同	同	道路の改良	同	同
昭一四、四、二三	昭一二、九、二八	昭一四、六、二五	昭一二、一、一	昭一三、一、二〇	昭一四、六、一	昭一四、二、一	昭一三、八、一	昭一三、三、一	昭一二、二、一	昭一二、九、一	昭一三、六、二五	昭一二、一、九
二、〇五七號	一、九八〇號	五九卷 號	一七卷 號	一八卷 號	六同 號	二二卷 號	八同 號	三〇卷 號	一〇同 號	一九卷 號		
一、西日本より 二、關門隧道貫通	門司特信	近事片々	前田鐵相年頭辭	營進する國鐵の運	一、關門隧道起工 二、式參列の記 三、路政春秋	土木會議を覗く	路政小感(二)	關門放送	二、關門放送 一、關門素見	關門素見	關門隧道工事の現	同
											佐藤周一郎著	同

鐵週刊 道公論	海之世界	電氣協會雜誌	交通時代	講談俱樂部	同	同	同	同	同	同	同	同
昭一二、一、二	昭一四、五、一	昭一三、一、一	昭一四、五、一	昭一四、七、一	昭一四、八、一	昭一四、五、一	昭一四、四、一	昭一四、一、一	昭一三、一、一	昭一四、一、一	昭一四、一、一	昭一三、一、一
	五號	二〇三號	五卷 號	二九卷 號	三〇〇號	二九七號	二九六號	二九三號	二九二號	二九三號	二九二號	二九二號
關門隧道は如何に して掘られるか	最近の主なる出來	關門連絡線に就て	道工の偉業關門隧	口繪「話題」の寫眞 ニユース「中關門 隧道の曙光	國産の「シールド」 鐵道關門隧道で物 凄いな怪力を傾く	鐵道關門本隧道の 作戦計畫成る	一、關門海底の二大事 業の工程 二、關門より九州にか けての土木事業大家 華坂 三、關門隧道電化工事 四、關門隧道複線化	一、關門隧道外四國道 改良工事 二、關門隧道掘坑工 程八百米完成	關門國道隧道計畫 成る			
釘宮 磐著			著者 鐵道省工務局長 阿會 沼均	寫眞は同盟通信寫眞 部撮影								

交通時論	昭一四、四、一	四三卷	關門海底豆隧道五月愈貫通す	鐵道省内記者俱樂部に發表の記事
自動車研究資料	昭一四、三、二五	一二卷	關門隧道工事緊張(口繪)	中外交通新聞より轉載
雄辯	昭一四、六、一	三〇卷	關門海底に揚る凱歌	下關要塞司令部檢閲済の上發表
日の出	昭一四、六、五	七月	關門海底に揚る凱歌	
鐵道青年	昭一二、一〇、一	二九卷	科學日本の誇、關門隧道工事を祝く	
同	昭一四、五、一	三一卷	一、本州と九州を結ぶ海底興亞の扉を開く	
土木ニュース	昭一四、六、一	一八卷	二、關門隧道もぐら、關門隧道もぐら	
子供の科學	昭一一、三、	二二卷	鐵道國道兩國內陸道の試鑿坑見事貫徹す	同盟通信より買入れたる程度口繪に使用する
同	昭一二、一、	二三卷	我が國最初の大水底隧道の關門海底隧道	
陸運	昭一四、五、二五	四卷	關門海底隧道の大工事	
旅行界	昭一四、五、一	五卷	科學日本の誇世界的關門隧道	「ラジオ」放送原稿

同	昭一四、四、二九	二、〇五八號	工事進む關門隧道	
同	昭一四、五、二七	二、〇六一號	參觀者踵を接す關門隧道	
亞細亞日報	昭一二、四、七	三七七號	關門國道隧道いよいよ具體化(十四年度ヨリ著工セン)	
亞細亞情報	昭一三、五、三	六九〇號	關門豆隧道人道として研究に着手す	亞細亞日報の改題
同	昭一三、六、九	七二二號	銑鐵の購入も決定す	
同	昭一三、一一、二九	七六六號	關門配屬機關車	
同	昭一三、一二、三〇	七九三號	關門隧道明年末貫通を期す	
同	昭一四、四、四	八六九號	關門用水銀整流器配電盤	
同	昭一四、四、一九	八八二號	關門「パイロット」開通	
土木工學	昭一二、六、一〇	六卷	關門海底隧道工事(口繪)	
同	昭一二、一一、一〇	六卷	關門隧道工事緊張(口繪)	
交通展望	昭一二、七、二五	七卷	關門隧道はどうして掘鑿されるか	
今日の知識	昭一四、六、一	四卷	「話題」の中の世界一の關門隧道	

同	同	同	同	土木建築資料新聞	キ ン グ	工學院同窓會誌	技 術 評 論	ユ ー モ ア ク ラ ブ
昭一三、一一、三〇	昭一三、一一、一九	昭一三、九、二一	昭一三、九、八	昭一三、八、二二	昭一四、七、一	昭一四、八、一	昭一四、四、二三	昭一四、三、一
二、五六四號	二、五五七號	二、五一〇號	二、五〇〇號	二、四七七號	七 月 號	八 四 一 卷 號	四 一 六 卷 號	三 三 三 卷 三 月 號
増補と共 門道計利根川 愈々豫算決定の關 四年計畫で着工 國防的見地より關 門自動車道愈々 完成 關鐵より一足先に 國鐵より一足先に 完成	道運輸に備へての 道省で着々研究 朝鮮海峽海底に大 隧計畫將來の交 通に備へての 道運輸に備へての 道省で着々研究	朝鮮海峽海底に大 隧計畫將來の交 通に備へての 道運輸に備へての 道省で着々研究	朝鮮海峽海底に大 隧計畫將來の交 通に備へての 道運輸に備へての 道省で着々研究	朝鮮海峽海底に大 隧計畫將來の交 通に備へての 道運輸に備へての 道省で着々研究	關門豆隧道の貫通の 意義	實行第一歩を踏み 出した關釜隧道大 計畫五日初の打合 せ會議	關門豆隧道貫通の 意義	東京下關間に廣軌 鐵道を敷設 關門隧道工事の紹 介と批判
同	同	同	同	一般新聞より轉載	轉載	週報第一三七號より	鐵道技師 立花次郎	新聞記事より採萃す

週 報	同	交 通 時 事	同	同	鐵 道 知 識	科 學 知 識	月 刊 海 を 越 へ て	同	同
昭一四、五、三一	昭一四、六、一五	昭一四、五、一五	昭一四、五、一	昭一四、二、一	昭二二、一〇、一	昭一四、六、一	至昭一三、五、五 白昭一四、八、一	昭一四、四、二二	昭一三、二二、七
第一三七號	二〇卷 六〇號	二〇卷 五〇號	五 號	二 號	十 號	六 月 號	通 卷	二、六七三號	二、五七〇號
關門隧道の話	關門隧道と盾構法	關門隧道の意義	一、關門海底隧道 二、關門海底隧道 三、關門海底隧道 三、關門隧道の話	關門隧道工事進む	關門自動車隧道計 畫	關門水底隧道本邦 最初の「シールド」 工	關門水底隧道本邦 最初の「シールド」 工	關門水底隧道本邦 最初の「シールド」 工	關門水底隧道本邦 最初の「シールド」 工
						鐵道省技師 佐藤周一郎		同	同

第二 愛知縣下發行新聞紙の掲載記事

新聞題號	日	附	號	數	記	事	標	題
愛知新聞	昭一四、四、一九		一三、三三四		國鐵が全世界に誇る關門海底隧道貫通火 花を散らす掘鑿の猛攻に流石の難工事も 見事に完成			
大阪朝日新聞	昭一四、四、二一		二〇、六四七		全般的の運賃値下實現は難しい			
同	昭一四、四、二三		二〇、六四九		貫通は二十日か豆隧道工事進む			
同	昭一四、四、一九		二〇、六五五		海底でやあやあ門司と下關でパンザイの 交歓			
同	昭一四、四、二〇		二〇、六五五		鐵相が押す釘の指令一瞬忽ち爆破の感激			
同	昭一四、四、二三		二〇、六五九		科學日本の誇り遂に貫通した關門隧道			
同	昭一四、五、二三		二〇、六七九		けふ歴史の第一鉄			
同	昭一四、六、一八		二〇、七二五		關門海底から金が出る鐵相の電鍵一閃に 手應へ			
大阪毎日新聞	昭一四、四、二三		二〇、一一五		難工實に一年五ヶ月關門隧道愈々貫通廿 日前後鐵道國道とも			
同	昭一四、四、二〇		二〇、一一二		九州と本土をつなぐ豆隧道開通す東京か ら電波を通じ世紀の偉業茲に完成			
新愛知新聞	昭一四、四、一九		一七、二二八		常關の海底遂に征服			

同	昭一四、四、二〇		一七、一二九		關門海底豆隧道けふ世紀の貫通式			
同	昭一四、四、二〇		一七、一二九		鐵相の押す電鈴一下見事爆破萬歳の爆發 だ			
同	昭一四、四、二二		一七、一三一		關門國道豆隧道愈々二十五日完通の運び			
同	昭一四、四、二六		一七、一三五		關門に揚る凱歌			
同	昭一四、四、二七		一七、一三六		開通だ關門國道隧道けふ晴の渡橋式			
同	昭一四、五、二三		一七、一五二		本隧道へ第一鑿けふ歴史の起工式			
名古屋新聞	昭一四、三、一六		一五、四六二		關門豆隧道五月中に完成の見込み			
同	昭一四、三、二一		一五、四六七		渦まく關門の真下海底戦を御視察畏し高 松宮様御勇姿			
同	昭一四、四、一〇		一五、四八六		前田鐵相關門隧道視察			
同	昭一四、四、一六		一五、四九二		關門豆隧道十九日朝には貫通			
同	昭一四、四、一六		一五、四九二		關の海底に凱歌だ關門豆隧道開通			
同	昭一四、四、二〇		一五、四九六		科學日本勝った開け海底戦の凱歌關門豆 隧道貫通式			
名古屋毎日新聞	昭一四、四、一九		一七、五五九		常關の坑底に爆發す感激の萬歳			
同	昭一四、四、二〇		一七、五六〇		關門海底隧道感激の握手成る			

同	昭一四、四、二七	一七、五六七	關門國道豆隧道けふ渡り初め式
同	昭一四、五、一三	一七、五八三	本隧道起工式關門國道愈々スタート切る

第三 大阪府下發行新聞紙の掲載記事

題	號	日	附	號	數	記	事	標	題
大阪朝日新聞	昭一四、四、二一	夕刊				關門海底隧道複線愈々實現へ鐵物などの運賃は大巾値下來阪の前田鐵相			
同	昭一四、四、二三	朝刊				關門海底隧道愈々二十日頃貫通！苦闘二年の感激の瞬間			
同	昭一四、四、一九	夕刊				「俺だ」と九州の聲關門海底隧道發穴あく苦闘二年八月あす完通			
同	昭一四、四、二〇	夕刊				試掘隧道貫通、鐵相の一押し日本の地圖變る下關門司今や陸つづき			
同	昭一四、四、一九	朝刊				關門海底豆隧道の開通、日本土木科學の壯舉(一)			
同	昭一四、四、二〇	朝刊				前田鐵相から本社長へ謝電			
同	昭一四、四、二一	朝刊				關門國道二十四日頃貫通			
同	昭一四、四、二三	朝刊				科學日本の誇關門隧道長い間の研究と苦心のいろいろ			

同	昭一四、四、二七	夕刊				さながら岩窟行ける貫通の關門國道隧道、鐵兜の記者初通り抜け記			
同	昭一四、五、二三	朝刊				力強い處女鐵國道關門海底隧道さのふ起工式			
同	昭一四、五、二二	朝刊				陸上隧道も貫通す(鐵道關門)			
同	昭一四、六、二	夕刊				シールド修被式、關門鐵道隧道			
同	昭一四、六、二	朝刊				隧道戰士の活躍關門隧道の木工事が始まつた			
同	昭一四、六、一八	夕刊				花咲爺の前田鐵相、押した關門隧道の電鍵で現れた金や銅の大鐵脈			
大阪新報	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇				本士と九州結ぶ關門隧道貫通最後の岩塊一米を崩壊魔海征服感の握手			
大阪時事新報	昭一四、四、二〇	朝刊				貫通近き關門隧道鐵相驚異の眼、鐵道とも二十日過から來月早々に歡聲			
同	昭一四、四、二一	夕刊				關門隧道は複線にしたい來月下旬に貫通式			
同	昭一四、四、二〇	夕刊				世界最初の榮冠、世紀の電鈴鳴る最後の岩塊一米、微塵に碎け歡呼裡隧道戰士九州へ徒歩渡り			
同	昭一四、四、二三	朝刊				内地九州自動車で一跨ぎ關門産業道路の開通近じ残るは僅か十七米			
同	昭一四、四、二六	夕刊				再び世紀の凱歌關門海底國道豆隧道けさ貫通す			
同	昭一四、四、二七	夕刊				關門國道豆隧道激潮下に感激の握手電鍵初め式執行			

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同		
昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	
引掛った斷層遂に征服す關門豆隧道開	萬歳は海底を揺かし感激の握手交はさる	關門隧道開通有史最初のから渡り初め	海底にとどろく萬歳の聲世紀の感激茲に	餘すは僅か一米明日晴れの貫通式	關門隧道の精鋭を集つて大阪へ	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響く轟音けふぞ九州と本土の歴史的握手	來月中旬豆隧道先づ凱歌明後十六年三月には待望の處女列車が海底を疾走する本土と九州握手	關門隧道の精鋭を集つて大阪へ	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響く轟音けふぞ九州と本土の歴史的握手	國道關門海底隧道歴史的の起工式木戸内相ら試掘坑を視察	關門隧道計畫案可決	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響く轟音けふぞ九州と本土の歴史的握手	國道關門海底隧道歴史的の起工式木戸内相ら試掘坑を視察	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響く轟音けふぞ九州と本土の歴史的握手	國道關門海底隧道歴史的の起工式木戸内相ら試掘坑を視察	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響く轟音けふぞ九州と本土の歴史的握手	國道關門海底隧道歴史的の起工式木戸内相ら試掘坑を視察	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響く轟音けふぞ九州と本土の歴史的握手	國道關門海底隧道歴史的の起工式木戸内相ら試掘坑を視察	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響く轟音けふぞ九州と本土の歴史的握手	國道關門海底隧道歴史的の起工式木戸内相ら試掘坑を視察	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響く轟音けふぞ九州と本土の歴史的握手	國道關門海底隧道歴史的の起工式木戸内相ら試掘坑を視察

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二〇	
へ皮肉や海上は荒れて難航關門隧道試掘坑けふ貫通式	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す	「穴」を通して萬歳交歡關門隧道試掘坑貫通す

夕刊大阪新聞	昭一四、四、九		關門海底隧道晴れの貫通、十日全通式舉行
同	昭一四、四、二〇		九州と本土の握手關門隧道開通、海峡を賑する萬歳の嵐の中に
夕刊大正日日新聞	昭一四、四、二〇		あゝ世紀の感涙だ九州と本土の歴史的握手なる今朝十時五分關門隧道開通
同	昭一四、四、二七		關門海峡豆隧道感涙の渡り初め式けふ盛大に執行

一、新聞
第四 山口縣下發行新聞、雜誌、圖書の掲載記事

題	號	日	附	號	數	記	事	標	題
關門日日新聞		昭一四、四、一〇		一九、三七八	九				
同		昭一四、四、二一		一九、三八〇	一〇				
同		昭一四、四、二二		一九、三八二	一一				
同		昭一四、四、二四		一九、三八三	一二				
同		昭一四、四、二五		一九、三八四	一三				
同		昭一四、四、二六		一九、三八五	一四				

同	昭一四、四、一八	一九、三八七			
同	昭一四、四、一八	一九、三八七			
同	昭一四、四、一九	一九、三八八			
同	昭一四、四、一九	一九、三八八			
同	昭一四、四、二〇	一九、三八九			
同	昭一四、四、二三	一九、三九二			
同	昭一四、四、二三	一九、三九二			
同	昭一四、四、二三	一九、三九二			
同	昭一四、四、二五	一九、三九四			
同	昭一四、四、二五	一九、三九四			
同	昭一四、四、二六	一九、三九五			
同	昭一四、四、二七	一九、三九六			
同	昭一四、五、一〇	一九、四〇九			
同	昭一四、五、一一	一九、四一〇			
同	昭一四、五、二二	一九、四二一			

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
昭一四、四、二一	昭一四、四、二〇	昭一四、四、一	昭一四、五、一九	昭一四、五、二三	昭一四、五、二二	昭一四、五、九	昭一四、四、二八	昭一四、四、二七	昭一四、四、二一	昭一四、四、二〇	昭一四、四、一九	昭一四、四、一八								
一、九九〇	四、七七一	二七	二、八一七	二、八一二	二、八一	二、八〇八	二、八〇〇	二、七九九	二、七九五	二、七九四	二、七九三	二、七九二								

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
昭一四、四、二一	昭一四、四、二〇	昭一四、四、一	昭一四、五、一九	昭一四、五、二三	昭一四、五、二二	昭一四、五、九	昭一四、四、二八	昭一四、四、二七	昭一四、四、二一	昭一四、四、二〇	昭一四、四、一九	昭一四、四、一八									
一、九九〇	四、七七一	二七	二、八一七	二、八一二	二、八一	二、八〇八	二、八〇〇	二、七九九	二、七九五	二、七九四	二、七九三	二、七九二									

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	防府日報	同	同	防府時事新聞
昭一四、五、二三	昭一四、五、二二	昭一四、四、二八	昭一四、四、二七	昭一四、四、二三	昭一四、四、二〇	昭一四、四、一九	昭一四、四、一六	昭一四、四、一五	昭一四、四、一四	昭一四、四、一一	昭一四、五、一四	昭一四、四、一九	昭一四、四、一八
二、二二七	二、二二六	二、二一五	二、二一四	二、二一二	二、二一〇	二、二〇九	二、二〇六	二、二〇五	二、二〇四	二、二〇一	三三三九	三三二二	三三二〇

防長新報	同	同	同	防長新聞	同	同	同	同	同	同	同	同	同
昭一四、五、一八	昭一四、五、一三	昭一四、五、九	昭一四、四、二七	昭一四、四、二〇	昭一四、五、二三	昭一四、五、二二	昭一四、四、二八	昭一四、四、二七	昭一四、四、二三	昭一四、四、二〇	昭一四、四、一九	昭一四、四、一六	昭一四、四、一五
四九七	一七、三九八	一七、三九四	一七、三八三	一七、三七六	二、〇一六	二、〇一五	二、〇〇七	二、〇〇六	二、〇〇二	一、九九九	一、九九八	一、九九五	一、九九四

二、雑誌、圖書

題	日	附	號	數	備	考
民衆衛生新報	昭一四、四、一四			八〇八		
同	昭一四、四、一八			八一一		
同	昭一四、四、二〇			八一三		
同	昭一四、四、二七			八一八		
同	昭一四、四、二九			八二〇		
同	昭一四、五、五			八二三		
同	昭一四、五、七			八二四		
同	昭一四、五、一二			八二八		
同	昭一四、五、一三			八二九		
同	昭一四、五、一七			八三二		
山口日報	昭一四、四、一九			二、四三七		
同	昭一四、四、二〇			二、四三八		
同	昭一四、五、一四			二、四五六		

題	日	附	號	數	備	考
話の関門	昭一三、八、一			二卷、七號		
同	昭一三、九、一			二卷、八號		
同	昭一四、一、一			三卷、一號		
同	昭一四、五、一			三卷、四號		
同	昭一四、五、一			五卷、四號		
関門連絡線に就て	昭二二、七、				関門海底鐵道隧道に關する諸計畫を記述せるもの (鐵道省下關改良事務所發行)	

第五 福岡縣下發行新聞紙の掲載記事

題	日	附	號	數	記事	標題
大阪朝日新聞	昭一三、八、二			二〇、三九八	進捗する関門鐵道隧道	
同	同	八、三		二〇、三九九	関門隧道を中心に鐵道網を電化 今日本省電氣課長視察	
同	同	一〇、二三		二〇、四九七	關道隧道問題で十市協力求む 門司港港務課長麻訪	

九州日報	昭一四、四、二六	一七、四六一	残るは僅か三十四米開門豆隧道は十九日開通か、歴史的最後の爆破指令は前田鐵
同	同 四、一八	一七、四六三	手、開門海峡下にとろく爆音感激の握
同	同 四、一九	一七、四六四	けふぞ報ゆ三歳の苦闘前田鐵相のスィツ
同	同 同	同	ぶ世紀の感激貫通で開門豆隧道
同	同 四、二〇	一七、四六五	晴の貫通式を明日に控へ準備全く完了
同	同 同	一七、四六六	港野の現主怖だもぐら鐵血部隊の力強
同	同 同	同	早々次の征服へ！士氣頓に揚る掘鑿陣
同	同 同	同	く開門海峡海底豆隧道は貫通式、
同	同 同	同	押へ待つ感激の握手、掘鑿兩部隊晴れの
同	同 四、二二	一七、四六八	開門豆隧道もあと十七米
同	同 四、二三	一七、四六九	爆破貫通は二十五日か
同	同 四、二五	一七、四七〇	開門相呼應して最後の突撃戦
同	同 同	同	開門豆隧道の貫通早々目捷
同	同 同	同	けふ中にボーリング貫通、あす正式に貫
同	同 同	同	通爆破を、開門豆隧道の貫通祝賀準
同	同 同	同	備なる
同	同 同	同	止後日完全貫通か、開門豆隧道湧水

同	同 四、二六	一七、四七一	残るは僅か二米
同	同 同	同	けふ歴史的感激を前にして之で二休み
同	同 同	同	あす波初式試掘隧道一氣に貫通最後の難
同	同 四、二七	一七、四七二	斷層もけふ見事征服世紀の凱歌又も開門
同	同 同	同	に萬感道り唯涙開門豆隧道は貫通
同	同 四、二八	一七、四七三	通の線返す感激の萬歳、隧道戦士の殊勲
同	同 四、二九	一七、四七四	赫々
同	同 同	同	看板も衣替へ調査時代を了へ
同	同 同	同	本格的掘鑿へ世界第二の大隧道
同	同 四、二八	一七、四七三	掘坑道貫通祝賀式
同	同 四、二九	一七、四七四	海底六十米俄か地質學者勢揃近代科學の
同	同 同	同	威力を満喫し開門豆隧道貫通祝賀會
同	同 同	同	凱歌海峡に高鳴る
同	同 同	同	けふ試掘坑道開通祝賀會
小倉新報	昭一三、九、一〇	一〇、四三七	開門自動車隧道はスマートな二階作り
同	同 九、二〇	一〇、四四六	國際機械化部隊で世界最初の開門豆隧道
同	同 九、二四	一〇、四四九	開門豆隧道専門協議會
同	同 一、二〇	一〇、四九四	開門豆隧道來年度豫算遂に否決
同	同 一、二三	一〇、四九六	開門豆隧道復元復活に猛運動
同	昭一四、二、二七	一〇、五六〇	難工事ながら三月には貫通

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
七、一八	七、一六	七、一一	六、二二	六、一八	六、一〇	四、二二	四、二〇	四、一五	四、一三	昭二一、一、四	昭一〇、一一、二七	六、六	同	同
開門連絡は隧道に限る	開門連絡は隧道案が有利	技術委員会に於ける六項目の答申案	開門海底隧道シャフト掘鑿地決定す	開門海底隧道の内に海底停車場を新設	豫算案の通過次第迅速に工事に取掛る	開門隧道工事再度の實地調査	工事の萬全を期し調査導坑掘鑿	開門海底隧道開鑿陣愈々近く整備	開門隧道工事技術堅陣なる	開門の大瀬戸と相對し精巧を競ふ技術陣	開門隧道開鑿軍は特別列車で乗込む	技術軍を引具し鈴宮所長着任	十九日愈々整備全機構本格的に	同

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八、二二	八、二〇	八、一八	八、一六	八、一五	同	同	八、六	八、五	七、三一	七、二九	七、二六	七、二三	七、一九	同
下關驛新驛から五百米の陸揚	開門海底隧道彦島側のボーリング	下關側の陸上部地質調査	開門隧道工事と人夫の日給	開門隧道の掘鑿は丹那隧道の體験で	千古の謎を秘めた大瀬戸	開門連絡海底鐵道線路縱斷面略圖	愈々八日を期し本格的に活動開始	開門隧道初年度掘鑿費二百六萬圓認可	開門隧道起工式九月十日頃と決定	電信電話二百十八回線開門隧道内に	開門若戸三隧道の二つまでが採用するシ ポルト工法とは	設計圖面の二線にも緻密な資料取入れ	國鐵開門隧道連絡施設の豫算内容	同

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一一、一一	一〇、二六	一〇、一五	九、三〇	九、二一	九、一五	八、一三	八、七	六、二七	六、二三	六、一九	六、一七	六、一二	一一、二三
魔の門司海底に十六日から愈々挑戦す	鐵道關門隧道小森江側の本堅坑愈々完成す	鐵道關門隧道の勾配正式に決定す	大里幡生の兩操車場明年四月より起工隧道開通に伴ひ	小森江側試掘堅坑完成す	關門鐵道隧道下關側の工事進捗	門司側を掘鑿する大型シールドの設計成る	小森江側試掘堅坑九月末迄には完成	最後の破發で遂に深度五十五米に	シールド工法にて軟弱門司側を掘鑿	豫定深度まであと五米	關門隧道掘鑿陣容強化	小森江見張所焼く工事には支障なし	關門の海にも珍しい豆潛水艇

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一一、六	一一、三	一〇、三一	一〇、二八	一〇、二四	一〇、二三	一〇、二〇	一〇、一三	一〇、八	九、二三	九、二〇	九、九	九、一九	九、六
魔海に振ふ科學のメス	豆隧道通過地點に金銀色の合成鑛物	急速に具體化せんとする關門鐵道隧道の複線化	人工地震による調査愈々本月月から本格的に	黄昏迫大瀬戸海底に時ならぬ地震	關門隧道完成と博多港の務威	關門隧道完成後は一日七十四回運轉	堅坑の掘鑿第一段工事	關門海底隧道堅坑掘鑿の第一シヨベル	海底隧道の工事は世界最初のこと	釘宮所長力強く晴の第一鍬を打下す	愈々起工式近づき更に陣容整備	世界の視聽をおつめ高らかに晴れの首途	本土と九州を繋ぐ起工式十九日起工

同	昭二、一、八	科學の粋を盡す鐵道國道關門隧道の工程
同	一、二、三	現場事務打合せ會後愈々工事木調子に
同	一、二、五	今春三月中には關門隧道横坑掘鑿
同	一、二、四	豆潜水艇による大瀬戸の地質調査
同	二、六	大安吉日を下しけふ盛大に地鎮祭
同	二、一、四	豆潜水艇に乗つて内海の海底を撮す
同	二、一、六	地質調査十七日より三日間
同	二、二、七	掘鑿中の小森江堅坑からどろどろ粘土が噴出す
同	二、二、八	今春四月迄には試掘堅坑を完成
同	二、一、九	門司側の軟弱地大いに研究を要する
同	二、二、六	關門鐵道隧道掘進は素掘法採用
同	三、二	花崗岩風化層を堅坑漸く通り抜く
同	三、四	工事進捗に伴ふ機構の擴充
同	三、一、一	シールド關係技術者大舉月末現地を視察

一三〇

同	三、一、九	鐵道省四技師工事を調査
同	三、二、〇	關門鐵道隧道門司側はシールド工法
同	四、一	豫算は四百萬圓で本格的工事に
同	四、一、〇	關門海底隧道工事の機構は純國産で行く
同	四、二、二	小森江試掘堅坑に筒で海水を注入
同	五、一	潮流五ノットに達する海底での粘土塗り
同	五、六	鐵丸での地質調査地震計と微動計でキャッチ
同	五、一、六	關門隧道カメラ探訪
同	五、二、六	關門隧道小森江側試掘堅坑掘鑿異變
同	六、三	井筒沈降法を中止し素掘に還元した
同	五、五	鐵道省の設計通り波立工事が詭向き
同	五、一、四	大瀬戸海峽の試錐二本目に着手す
同	昭一、三、七、一九	關門隧道の開通一ケ年間遅延
同	一、〇、一、五	國策事業の急潮

一三一

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	昭一四、四、一八	同	同	同	
五、一三	五、一一	五、二	四、二九	四、二七	四、三五	四、二二	四、二一	四、二〇	四、一九	四、一八	八、二三	五、二三	五、一二	
一、四五九	一、四五七	一、四五〇	一、四四八	一、四四六	一、四四五	一、四四三	一、四四二	一、四四一	一、四四〇	一、四三九				
國道海底隧道今日歴史的起工式	大いに頑張るせ	銀幕に颯爽世紀の偉業	世紀の工事讃へ晴れの貫通式祝賀會	轟然最後の發破全く驚異的記録	國道豆隧道感激の貫通	海水溜の如し現地報告書	世紀の凱歌第二陣	豆隧道貫通地鎮の御祝	魔の海底に世紀の握手	海底に湧く歡呼隧道戰士勇躍掘進續く	鐵道豆隧道貫通鐵相の電鈴一下を待つのみ	關門隧道は奇襲戦法兩豆隧道の比較	關門隧道の起工は五月中旬	關門國道掘整工費各縣割當

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	昭	昭	同	昭一四、一、三一	同	昭一三、一二、一四	同	同	同	同	同
五、四	同	同	四、二七	四、二六	四、二五	一、二〇	一、二〇	九、一四	九、一五	九、二	九、二	八、七	八、七
關門國道掘整工費各縣割當	國道掘整工費各縣割當	飛行機で海底調査	關門國道掘整作業大いに進捗	關門國道掘整作業大いに進捗	關門國道掘整作業大いに進捗	五百六十七萬圓を福岡、山口兩縣で負擔	國防上の見地から内務省も計劃	早稲海底に突刺した偉大な科學のメス	國道豆隧道貫通	海底の國道世界に關門一本のみ	國道は奇襲戦法兩豆隧道の比較	國道本隧道の起工は五月中旬	關門國道掘整工費各縣割當

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
昭一四、五、一四	昭一四、五、一九	昭一四、五、二九	昭一四、五、二二	昭一四、五、一〇	昭一四、五、二〇	昭一四、五、二二	昭一四、五、二二	昭一四、五、一〇	昭一四、五、一〇	昭一四、五、一〇	昭一四、五、一〇	昭一四、五、一〇	昭一四、五、一〇	昭一四、五、一〇	昭一四、五、一〇	昭一四、五、一〇	昭一四、五、一〇	昭一四、五、一〇	昭一四、五、一〇	昭一四、五、一〇	昭一四、五、一〇	昭一四、五、一〇	
一、四六〇	一、四六四	一、四六九	一、四七六	一、四九一	一、四九一	一、四九一	一、四九一	一、四九一	一、四九一	一、四九一	一、四九一	一、四九一	一、四九一	一、四九一	一、四九一	一、四九一	一、四九一	一、四九一	一、四九一	一、四九一	一、四九一	一、四九一	
内相鐵道隧道視察、街の人気隧道展	世紀の工事に感嘆	鐵道隧道の産婆役	海底目がけてシールド進撃	國道隧道起工式来る十二日舉行(外一件)	早稲海底を貫く國道隧道の晴の起工式	世紀の偉業國道隧道待望の起工式舉行	木戸内相を始め知名士二百名參列 (外四件)	關門國道隧道と荻田港修築分擔金	總豫算二十萬圓で鐵道隧道複線化	鐵道隧道掘鑿陣愈々シールド登場す	鐵道見學拒絶工事の邪魔になるとして	鐵道戰士の體格四分の二の合格率	貨客激増に備へ鐵道隧道擴大										

第六補遺

前記資料の外關門海底隧道の記事に關し同盟通信社より通信せる資料左の如し。

關門鐵道海底隧道關係 (現地側の記事)

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	昭一四、六、二五	
七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二	七、七二二
鐵道隧道の増設急速に工事は出来ぬ	鐵道開通の遅延で鐵道輸送動脈硬化	下關港の擴築隧道に併行して繰上げ	下關新驛附近に西日本一の郵便局	大里操車場建設九月から本格的	隧道工事も節水に協力	百六十四萬で鐵道隧道電化	隧道開通に備へ北九州の鐵道改良																

昭和十一年
 七月四日 隧道司令官に釘宮氏、立花、有馬技師等發令

- 十五日 起工式は來月下旬
- 八月十八日 彦島ボーリング始まる
- 九月二日 隧道ルートに黄銅鑛發見さる
- 十九日 少森江で盛大な起工式
- 十月九日 小森江で堅坑に着工
- 十一月十一日 關門海峡に鐵と銅の鑛脈あり

海峡をS字型に走る三つの斷層 渡邊博士談

昭和十二年

- 一月十日 豆漕水艇登場か
- 十四日 豆漕水艇來關
- 十五日 豆漕水艇で魔の海底を潛るの記(上下)
- 十八日 ルートに斷層なし、彈沈性調査の報告
- 二月十二日 小森江側の工事本格化
- 三月十五日 隧道初の綜合協議會温田で開かれん
- 四月一日 隧道工事第二年度へ

十八日 伍堂鐵相視察

五月十六日 小森江側湧水

六月四日 彦島堅坑四七米に達す

十一日 工事は順調に進行

七月十九日 彈沈性調査隊先發來關

二十三日 彈沈性調査始まる

十一月七日 弟子待豆隧道着工

昭和十三年

二月八日 鐵道陸上施設に着工

三月十五日 國鐵技術陣隧道視察

四月五日 小森江豆隧道に着工

十一月十五日 工事本格化す

十二月二十六日 小森江四〇一米、下關も進捗

昭和十四年

一月七日 小森江四一〇米、下關側四二〇米

- 一月八日 十六年春には海底列車直通、三浦事務所長語る
- 二十五日 隧道開通式には鐵道大臣列席
- 二月二十七日 内鮮隧道の前哨戦、關門海峡の彈沈性調査始まる
- 二十四日 渡邊博士内鮮隧道に就き語る
- 三月十六日 豆隧道五月に貫通か
- 二十日 高松宮隧道御視察
- 四月五日 鐵道あと一八九米、國道七九米
- 九日 前田鐵相視察
- 十四日 國鐵、國道何れに軍配擧るか、關門海底潛行競争白熱化
- 十五日 鐵道は愈々十八日頃貫通か
- 十八日 今日午前十時鑿穴貫通
- 十八日 本隧道完成に豆隧道の使命重大
- 二十日 科學日本の勝利鐵道豆隧道開通す
- 同日 隧道戦はこれからだ、有馬、加納兩部隊長語る
- 同日 歡喜に打震ふ隧道戦士

- 同日 大自然を征服して海底處女踏査記
- 同日 釘宮所長感激の渡り染め
- 同日 文字通り苦難の途だが事故皆無の快記録
- 二十一日 松井大將隧道一番乗り
- 同日 鐵道貫通祝賀式
- 二十八日 本隧道五月上旬に着工
- 五月一日 本隧道掘鑿の陣容成る
- 五月二十日 鐵道陸上取付隧道も貫通
- 六月一日 猛牛シールドの修祓式
- 五日 シールド進撃の準備成る
- 八日 水中微動計再度活躍
- 十七日 永野大將隧道視察
- 二十三日 竹田宮殿下御視察
- 七月二日 犬里―博多間省線電車運轉か
- 二十四日 内線隧道に確信を得た 渡邊博士談

八月二十二日 隧道陣の異動

二十八日 完成後の列車運行計画打合せ

九月十二日 村山隧道部隊長廣島へ

國道隧道關係(現地側記事)

昭和十二年

十一月一日 内務省下關土木出張所長國道隧道の概要發表

十二月十六日 辰馬内務技監國道隧道ルート視察

昭和十三年

一月九日 調査事務材料試験場建設豫定發表

三月二十五日 豆隧道近く着工

五月五日 調査事務所開設

十四日 ボーリング作業始まる

六月二十九日 關門側ボーリング起工式

七月十日 下關側ボーリング豫定深度五八米に達す

昭和十三年

一月五日 海底の轉石寫眞撮影

八日 山下氏一行來る

十四日 關門海峡の地塊運動調査

十九日 地塊調査始まる

二月二十二日 本坑修祓式

二十八日 下關堅坑完了

三月七日 豆隧道に着工

九月八日 山口、吉田東大兩博士國道隧道打診

二十七日 隧道交通料徴收か、鯨島技師談

十二月六日 早瀬海底征服明春總攻撃

十七日 國道二六〇米

昭和十四年

一月三十一日 國道隧道三月上旬開通か

三月一日 五月上旬起工式舉行豫定

十日 末次内相視察

四月二日 あと七九米に迫る

十九日 開通を前に断層に逢着

二十二日 あと十二米

二十六日 遂に国道側にも凱歌

二十八日 貫通祝賀式

五月十一日 起工式次第

五月十二日 木戸内相視察、起工式舉行

今度は本隧道へ慕進

防 諜

(第 貳 號)

陸 軍 省

極 祕

禁復寫

一連番號 第

169 號

高等官扱

防諜勤務に直接關與する高等官の外閱覽を禁ず

昭和十四年十月二日

国立公文書館

排架番号	2 A 1
	① 240
	37の附屬書類

本書は昭和十四年十月陸軍、海軍、企畫院、内務省、大藏省、司法省、逓信省、拓務省の防諜業務關係職員の會同せる防諜懇談會の席上説明資料として陸軍省大坪砲兵少佐の講演せるものなり

陸軍省兵務局防衛課長 渡部富士雄

目次

第一章 在京各國公館の文書諜報狀況の一端に就て……………一頁

 第一節 文書諜報の概念……………一

 第二節 對日文諜に關する言動……………二

 第三節 對日文諜による判斷の例……………四

 第四節 在京各國公館の本邦地方新聞紙購入狀況……………六

 第五節 昭和十二年及昭和十三年に於ける在京蘇聯各公館の本邦地方新聞紙購入狀況……………一

 第六節 昭和十二年及昭和十三年に於ける駐日蘇聯大使館の本邦雜誌購入狀況……………一五

 第七節 昭和十二年中に於ける駐日蘇聯大使館の本邦圖書購入狀況……………一八

 第八節 在京各國公館の購入せる「ダイヤモンド」社發行昭和十二年版經濟統計年鑑」編纂資料出所調査表……………二六

第二章 全國主要日刊新聞記事に依る陸軍將校の異動に關する文書諜報の一例……………三〇

 第一節 判決……………三〇

 第二節 理由……………三一

第三節 統制不十分なる記事に依る例 三三

第四節 記事統制要領 三三

第三章 關門海底隧道に關する記事に就て 五三

第一、說明 五六

第二、關門海底隧道關係記事掲載狀況 五六

第三、警視廳管下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載狀況 五七

第四、愛知縣下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載狀況 五九

第五、大阪府下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載狀況 六六

第六、山口縣下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載狀況 六七

第七、福岡縣下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載狀況 七一

附 錄

關門海底隧道に關する印刷物掲載記事一覽 七四

第一、警視廳管下發行新聞紙、雜誌の掲載記事 七四

第二、愛知縣下發行新聞紙の掲載記事 八四

第三、大阪府下發行新聞紙の掲載記事 八六

第四、山口縣下發行新聞、雜誌、圖書の掲載記事 九〇

第五、福岡縣下發行新聞紙の掲載記事 九七

第六、補 遺 一二七

文
書
諜
報

文 書 諜 報

第一章 在京各國公館の文書諜報状況の一端に就て

第一節 文書諜報の概念

一、文書諜報の意義

文書諜報とは主として公刊文書に依り目的とする情報を索出するを謂ふ。

二、文書諜報の價值

防諜の發達に伴ひ何れの國に於ても非合法秘密の諜報は其の實施極めて困難となりつつあるに反し言論、出版等の比較的自由なる國に於ては各種文書就中公刊文書より貴重なる情報の微細なる断片を捕捉することは敢て困難ならず、故に之を整理統合することに依り目的とする情報を合法公然の間に索出するは安全容易なり。

殊に國家總力戰たる近代に於ては必ずしも直接作戰上の重要機密を入手するを絶対に必要とせず其の他の國力より推斷するを以て足れりと爲すこと尠からず、從て現在の諜報に於ては文書諜報の價值甚だ大なり。

各國共此の點に鑑み文書諜報機關の擴大強化を策し之に大なる期待をかけつつあり。

三、文書諜報の要領

文書諜報の價値は目的に應ずる断片的情報の集積の量竝に其の質に正比例す。従て文書諜報に關する對者の觸手は極めて廣範圍に延ばされ且正確度大なる官公署の諸統計資料に對し必然的に其の重點は指向せらる。諸外國が出版の統制を強化し統計の如き我が國民が意に介せざる部類のものとも雖も極秘とし或は發表用として別箇のものを用意し遂には蘇聯邦の如く國外に搬出する文書に強度の制限を加ふるものをも生ずるに至れるは故ありと謂ふべし。

第二節 對日文諜に關する言動

年月	發言者	内容	容
昭二二、四	駐日蘇聯大使館情報部長 デ イ ツ チ マ ン	邦人通譯某に對し 「二・二六事件後言論の取締り嚴重となりたる爲最近 は新聞、雜誌等より有力なる情報を得ること困難な り。唯日本評論に掲載せらるる一部の論文並に座談會の 内容中相當有力なる資料を發見し得ることあり云 と洩せり。」	

昭一三、四	駐日米海軍武官輔佐官 レ イ ト ン 大 尉	邦人通譯某に對し 「米國では特別の手段例へば「スパイ」を使用して情 報を採知するが如きは變則であつて其の價値も大で ない之に反し官公署の發表及各種新聞紙、雜誌等の 刊行物に據る情報こそ一番價値が大きい云々」 と洩せり。	
昭一三、八	駐日蘇聯大使館情報部長 ア ス ト ロ フ	邦人通譯某に對し 「最新の新聞は政府の統制嚴重なるため殆んど真相 を窺ふに足らざる記事のみ滿載しあり殊に大新聞に 於て此の傾向特に顯著なるも小新聞に於て若干の資 料蒐集し得るなり」 との言辭を洩せり。	
昭一三、一一	駐日米海軍武官輔佐官 レ イ ト ン 大 尉	側近者に對し 「地方新聞には中央では見られぬ様な我々の參考に なる記事や寫眞が屢々ある云々」 と洩せり。	
昭一四、六	駐日蘇聯大使館二等書記官 グ ネ ラ ー ロ フ	「日本大新聞は今や全く機能を失ひ僅に小新聞及地 方新聞より若干の資料を得るのみなり」 との觀察を爲しあり。	

昭一四、六	駐日蘇聯大使館情報部長 アックス・ローフ	邦人通譯に對し「吾々が希望する記事は如何なる立場にある人物と雖もそれが個人の意見たる所に最も價値を見出すものなるも現在日本の詐論は餘りにも時局迎合的であり個性を失ひあり」と洩し主として地方新聞乃至は二流新聞、雜誌を利用情報を蒐集しあり。
-------	-------------------------	--

第三節 對日文謀による判断の例

年月	判断者	判断内容
昭一二、三	蘇聯陸軍武官輔佐官 パウエル・ ヂミトリエウイチ・バヴロフ	中央公論四月號掲載「石原莞爾論」を讀み「石原莞爾は對蘇決戦論者なり」との判断をなせり。 紫雲莊が讀賣新聞に廣告せる記事中の陸海軍の意見不一致を指摘して陸軍を非難し海軍を賞揚せるが如き點、或は議會、新聞紙に現れたる事例等より判断し「日本陸海軍に一種の確執あり」と觀察す。
右同	右同	

昭一二、九	暹羅陸軍武官 ウイラヨード・中佐	新聞紙に掲載せらるる飛行機の出發並に歸還時刻に基き日本海軍飛行隊の根據地は朝鮮木浦、九州大村及澎湖列島、馬公等にして馬公よりは南支へ、木浦及大村よりは中支へ空襲しありと判断す。
昭一三、一	英海軍武官 ローリングス	新年號「海と空」の「帝國軍艦の今日と明日」と題する記事を閱讀し「日本海軍が巨大軍艦建造中なる如く暗示しあり」として種々調査報告す。
昭一三、一	米陸軍武官事務所	公私刊行物につきて調査の結果「日本の戦費能力は約四百億圓なり」と算定せり。
昭一四、二	米語學研究武官 マックスウエル・デー・ テイラー	雜誌「航空時代」二月號に掲載せられある「重慶爆撃を終へて歸還せる我が海軍航空隊員の乾杯、漢口にて」と題する寫眞記事及雜誌「訓練」二月號掲載「支那事變」と題する記事より重慶、漢口間の最短距離は七五〇軒なる旨を知得し 二月七日午後一時頃日本海軍航空隊が重慶爆撃を敢行せる際一機故障のため片發動機にて基地に歸還せるが現在日本海軍航空隊基地は漢口にあり且漢口、重慶の最短距離七五〇軒を片發動機にて約四時間を要し之を兩發動機に換算すれば日本の最新海軍重爆撃機の時速は約三七〇軒以上なるべし」と觀察しあり。

九		國				中				畿							
大阪毎日新聞	大阪朝日新聞	大時新新聞	日刊工業新聞	日本工業新聞	合同新聞	中國新聞	高橋日日新聞	吳日日新聞	關門日日新聞	松陽新聞	徳島日日新聞	香川新聞	四國民報	愛媛新聞	高知新聞	福岡日日新聞	佐世保軍港新聞
右	右	右	右	右	岡山市	廣島市	右	右	下關市	松江市	徳島市	高松市	右	右	高知市	福岡市	佐世保市
陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸
海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海
大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大
公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公
大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大

九

近			部				中			羽		奥				
大阪朝日新聞	伊勢新聞	神戶新聞	丹州時報	京都日日新聞	福井新聞	北陸毎日新聞	北國新聞	北陸タイムス	新潟新聞	信濃日日新聞	岐阜日日新聞	新愛知	静岡新聞	秋田魁新報	東奥日日報	河北新報
大阪市	津市	神戸市	舞鶴町	京都市	福井市	右	金澤市	富山市	新潟市	長野市	岐阜市	名古屋市	静岡市	秋田市	青森市	仙台市
陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸
海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海
大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大
海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海
大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大
陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸
公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公
大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大

八

奥		地方別	
河北新報	青森日報	新聞名	發行所
仙臺市	青森市		
情	情	昭和三十二年	昭和三十二年
情	情	昭和三十二年	昭和三十二年
陸	陸	昭和三十二年	昭和三十二年
陸	陸	昭和三十二年	昭和三十二年
海	海	昭和三十二年	昭和三十二年
	海	昭和三十二年	昭和三十二年

年別	購入者	
	陸軍武官事務所	海軍武官事務所
昭和十二年	五二	一八
昭和十三年	四二	一七
昭和十三年	六	一九

購入總數
昭和十二年 五二種
昭和十三年 四二種

務所、總は總領事館事務所、公は公使館事務所を示す。
第五節 昭和三十二年及昭和三十二年に於ける在京蘇聯各公館の本邦地方新聞紙購入狀況

州	朝鮮	滿洲	北鮮	京城	臺灣	太	樺	道	海	北	州	長	
計	滿洲日日新聞	釜山日報	北鮮日報	京城府報	臺灣日日新聞	樺太日日新聞	樺太日日新聞	函館新聞	小樽新聞	北海タイムス	沖繩朝日新聞	九州日日新聞	長崎日日新聞
五五	大連市	釜山	清津	京城府	臺北市	本斗町	豐原市	函館市	小樽市	札幌市	那覇市	大分市	長崎市
四七													
二二													
二七													
三五		海		陸	陸	陸	陸	海	海	陸	海	陸	海
二													
二〇	陸			陸	陸					陸		陸	陸
一七				陸	陸					陸		陸	陸
三													
一一													
一四													
九										大陸			
四										海			
二													
一													
一													
一													

註、購入公館欄中、大は大使館事務所、商は商務館事務所、海は海軍武官事務所、陸は陸軍武官事務所を示す。

九		國四		國		中		畿					
佐世保軍港新聞	九州日報	九州日日新聞	鹿兒島新聞	大牟田毎日新聞	沖繩朝日新聞	四國民報	吳日日新聞	松陽新報	廣島日日新聞	關門日日新聞	中國新聞	日刊工業新聞	丹州時報
佐世保市	福岡市	熊本市	鹿兒島市	大牟田市	那覇市	高松市	吳市	松江市	廣島市	下關市	廣島市	大阪市	舞鶴町
	陸					陸				陸	陸		
	陸					陸				陸	陸	陸	
海		海	海	海	海		海	海	海	海			海
海			海										海

近	部		中		東		關		羽				
大阪毎日新聞	大阪朝日新聞	新潟新聞	北國新聞	濱松新聞	新愛知	静岡新聞	信濃毎日新聞	岐阜日日新聞	武相新聞	下野新聞	いはらき	弘前新聞	東奥日報
大阪市	大阪市	新潟市	金澤市	濱松市	名古屋市	静岡市	長野市	岐阜市	横須賀市	宇都宮市	水戸市	弘前市	青森市
	情				情								
	情				情								
	陸		陸	陸		陸		陸		陸		陸	
			陸	陸		陸	陸	陸		陸		陸	
		海							海		海		
		海							海				海

朝	灣臺	太樺	道	海	北	州							
元山毎日新聞	京城日報	臺灣日日新聞	樺太日日新聞	室蘭毎日新聞	北海タイムス	釧路新聞	旭川新聞	豊州新報	福岡日日新聞	長崎日日新聞	日刊佐伯新報	佐世保日日新聞	佐世保市
元山府	京城府	臺北市	臺南市	豊原市	室蘭市	札幌市	旭川市	大分市	福岡市	長崎市	佐伯町		
						情			情				
	陸						陸						
	陸						陸						
海		海	海	海	海	海		海	海	海		海	
海			海	海	海		海		海	海	海	海	海

州關東	鮮				
釜山日報	平壤毎日新聞	北鮮日報	北鮮日日新聞	木浦新報	滿洲日日新聞
釜山府	平壤府	清津府	羅南邑	木浦府	大連市
	陸	陸	陸		陸
			陸		
			海	海	海
			海		海

第六節 昭和十二年及昭和十三年に於ける駐日蘇聯大使館の本邦雜誌購入状況

- 註 一、部門の分類は東京堂發行出版年鑑に準據せり。
 二、括弧を附せるは昭和十三年のものを示す。
 三、購入雜誌の總數
 昭和十二年 九一種 一、〇九四部 所要經費 四三三圓六五錢
 昭和十三年 八九種 八九〇部 所要經費 四二二圓二五錢
 四、新刊雜誌の詳細不明につき若干の誤差あるべし。

部門区分	刊行種類数		購入種類数	比率	順位
	一般雑誌	特殊雑誌			
軍事、航空	(二四)	(五六)	(二八)	(約七四%)	(一)
通俗科学、ラヂオ	(一一)	(一)	(三)	(二五%)	(二)
政治、社会、評論	(九一)	(五四)	(二八)	(約二二%)	(三)
農業、農学	(三五)	(二四)	(二九)	(約三二%)	(四)
娯楽	(二〇)	(一)	(三)	(二五%)	(五)
財政、経済、商業	(九四)	(六二)	(一九)	(約一〇%)	(六)
工業、工学	(七四)	(六三)	(一四)	(約一〇%)	(七)
その他	(七九)	(六七)	(一一)	(約七%)	(八)

購入雑誌中の主なるもの左の如し。

海と空	軍事航空	海と空	軍事航空
日の出	娯楽	日の出	娯楽
業	工業、工学	業	工業、工学
インダスト	政治、経済、商業	インダスト	政治、経済、商業
改	政治、社会、評論	改	政治、社会、評論
造科学	通俗科学、ラヂオ	造科学	通俗科学、ラヂオ
日本	農業、農学	日本	農業、農学
帝國農會報	その他	帝國農會報	その他
フアサヒグラ		フアサヒグラ	

海軍グラフ	海軍	海軍グラフ	海軍
偕行社記事	スビー	偕行社記事	スビー
軍事と技術	日本重工業	軍事と技術	日本重工業
航空記事	無線と実験	航空記事	無線と実験
航空時代	経済マガジ	航空時代	経済マガジ
航空知識	経済知識	航空知識	経済知識
支那事變畫	世界知識	支那事變畫	世界知識
制空	大亞細亞主	制空	大亞細亞主
空	中央公論	空	中央公論
琢磨	勢	琢磨	勢
帝國海軍	東亞	帝國海軍	東亞
飛行	東大陸	飛行	東大陸
兵學研究會	内外公論	兵學研究會	内外公論
記事	日本及日本	記事	日本及日本
陸軍畫報	人	陸軍畫報	人

軍事、航空	名 稱		購入部数	年鑑、統計、要覽	政治、社会、評論	
	名	稱			購入部数	名 稱
步兵操典草案	一〇三	アルミニウム總覽	三	思想戦と宣傳	二	
瓦斯防護教範	一八	海軍年鑑	二二	赤化、抗日、防共	一	
輜重兵自動車教練規定	一六	株式會社年鑑	二	戦時海運統制	三	
自動車操縱教範	一五	化學工業年鑑	六	戦費恐るるに足らず	七	
輕裝甲車教練規定	一五	經濟統計年鑑	二	朝鮮施政二十五年史	一	
戰術學	卷一 各七 卷二 附錄	航空年鑑	一	日本ノ南進策ヲ世界ハ斯ク見ル	五	
應用戰術ノ參考	六一	第五十五回日本帝國統計年鑑	六	非常時ニ躍ル軍部ノ人物展望	三	
航空學	六	陸海軍軍事年鑑	八	石原莞爾附	三	
戰例集	六	銀行會社便覽	一	軍部ノ行政機構	三	
	步兵用 一 砲兵用 一	石油便覽	一	軍部ノ國策全貌	一	

教練ノ參考	步兵新戰闘法	新步兵操典草案ノ問答的研究	日露戰史	偕行社社員名簿	新舊步兵操典草案ノ對照的研究	新步兵操典草案ノ研究	われ等の陸海軍	化學兵器ノ理論ト實際ト	世界ノ見タ日本ノ陸海軍	砲兵用		海軍要覽	試驗研究項目要覽	ボケツト會社要覽	昭和十一年工場統計	港灣統計表	商工省統計表	第九次馬政統計	日本帝國統計大要	農林省統計表	外國貿易月表	日本經濟四季報	
										後篇用 一	前篇用 一												
	四五	上中下 一九五〇	一組	三	二	卷一 二二五 卷二 二二五 卷三 二二五	一〇	三	三	四	五	一	一	一	二	二	二	一	一	一	三	一〇	二

續編重兵戦闘とは	六	日本經濟年報	一四	武人國を諍るか	一
帝國及列國ノ陸軍	三	日本水産年報	二	滿洲國現勢	二
神風畫報第二輯	二	日本農業年報	一	隣邦ロシヤ	二
軍用無線學	二	滿洲經濟年報	二	われ等の空軍	三
陸軍豫科士官學校 案内	三	滿洲國外國貿易月 表	七		
海軍生徒採用試験 問題集	四				
學校教練	四				

第二表

名	稱	辭		典		地		圖
		購入部數	名	稱	購入部數	名	稱	
英文	日本一年ノ財政經濟	一	井上和英大辭典	四	海軍雜用航空圖	五五		一〇〇
英文	日本輸入關稅表	一	井上和英、英和辭典	五	北支那詳細圖	一三		七
軍事產業資料		四	英和、和英兵語辭典	三一	北支那詳細圖	五		五

經濟統制下ノ日本	二	漢字	林	三	航空路圖	二七〇
準戰時下の財政と經濟	四	漢英辭典	典	六	最近支那大地圖	七
戰時産業施設考	四	現代國際人名辭典	典	七	日本白地圖	一〇〇
戰時經濟の基礎知識	一	國民百科大辭典	三組	三	上海、蘇州近傍圖	五
戰爭と財産	四	新漢和辭典	典	一一	大東京地勢圖	一
帝國豫算綱要	二	小辭林	林	一〇	朝鮮五萬分ノ一地圖	六八
日本産業勞働論	三	內閣職員錄	錄	一〇	朝鮮全圖	二
日本資本主義ノ諸問題	一	スタンダート 和英大辭典	典	六	東京地勢圖	三
日滿經濟五ヶ年計畫	二	草書大辭典	典	六	北支事變明細圖解	五
滿洲經濟綜觀	二	大日本人名辭典	典	一	滿洲經濟地圖	八
滿洲産業圖解	二	朝鮮語辭典	典	一	滿洲五萬分ノ一地圖	六四
安田コンツェル讀本	一〇	東洋歴史辭典	典	四		
我企業豫算制度の實 證的研究	一	日露兵語辭典	典	四		

經濟史研究	三	日本貨物船明細書	五
現代公債政策	一	滿洲地名辭典	一二
財界人物讀本	一	松田和露大辭典	一八一
戰爭經濟讀本	二	露譯漢和辭典	四九
戰爭と經濟	一	露和辭典	三
日本工業資源論	三		
日本貿易案内	一		

二四

第三表

工業、工学	名	購入部数	語		諸報	
			名	購入部数	名	購入部数
航空計器	二	二	國語	五卷三〇	東北帝大工學教授會	一
航空機	一	一	高等小學讀本	各一〇卷	東北帝大工學報告	二二
化學工業概論	二	二	かな付日露、露日會話	各一〇卷	帝國學士院報告	一

航空發動機	二	二	國語史	一四	物理化學研究所學術報告	二〇
實用精密機械講座第二回配本兵器	二	二	小學讀本	九各三〇卷	東京航空研究所報告	三九
石油研究	一	一	日本語學	一	東京電氣工學實驗所	八七
造船學	二	二	日本語速記術	一	東京電氣工學實驗所	三六
日本工業發展論	二	二	日本文法講義	五	東北帝大學術報告	二〇
日本重工業讀本	一	一	口語對照語法	一	東北帝大學術報告	七〇
日本電氣通信工學	一四	一四	文語對照語法	一	日本科學協會報告	三六
日本の發電所	一	一	露文解釋カラ和文露譯へ	一	廣島大學科學報告	二
本邦鑛業ノ趨勢	一	一			物理研究協會ノ學術論文	五二
滿洲の資源と化學工業	二	二			倉敷の大原研究所の農業組織研究報告	二
木造船構造術	一	一			九州帝大工學教授會	一

二五

拓務省	鐵道省	逓信省	商工省	農林省
文書課	經理局	航電貯金局	大山大山大山大山大	農林米米大臣官房
拓務統計	主國有貨物統計	簡貯電航易金局	石鐵保月重貨商工各會	肥蠶米米農林省統計
拓務統計	主國有貨物統計	簡貯電航易金局	石鐵保月重貨商工各會	肥蠶米米農林省統計
拓務統計	主國有貨物統計	簡貯電航易金局	石鐵保月重貨商工各會	肥蠶米米農林省統計
拓務統計	主國有貨物統計	簡貯電航易金局	石鐵保月重貨商工各會	肥蠶米米農林省統計

大藏省	內務省	內閣	官公署別
大臣	地會局方勞働部	統統統資	編著者
大臣	地會局方勞働部	統統統資	編著者
大臣	地會局方勞働部	統統統資	編著者
大臣	地會局方勞働部	統統統資	編著者
大臣	地會局方勞働部	統統統資	編著者

第八節 在京各國公館の購入せる「ダイヤモンド社發行」經濟統計年鑑「編纂資料出所調査表」昭和十二年版

商 工 會 議 所	會 社	諸 會	所 手 形 交 換 所 及 株 式 取 引
大東 連京 商商 工工 會會 議議 所所	日滿 本鐵 石油 株 式 會 社	生石製羊絹萬帝日日日國國國 絲炭糖毛紡國國本本本聯聯聯 礦問業研工工農瓦倉倉倉東東東 屋聯究業業事斯庫庫庫支支支 組合會會會會會會會會會會 合會會會會會會會會會	大東大東東 阪京阪京京 株株手手手 式式形形形 取取交交交 引引換換換 所所所所所
經世 濟界 統經 計濟 月統 報計	內滿滿 洲洲 外外 國國 石統 油計 統年 報概 計月 報觀	原石臺羊絹農瓦倉倉倉國國國 生滬毛業斯庫庫庫際際際 炭糖業統月業要計年 絲時業統年 月統年	大東大東東 阪京、大 株手、大 式形、大 取引、形 所所、形 月月月 報報報 報報報

諸 銀 行	關 東 局	南 洋 廳	樺 太 廳	臺 灣 總 督 府	朝 鮮 總 督 府	厚 生 省
日日日正日日日 本本本 金本本本本 勤興興 業業業 銀銀銀銀銀 行行行行行	文 書 課	文 書 課	文 書 課	財殖殖文 務局產產書 稅務	農財文 務局書 稅務	職 業 部 管 理 課
主全調正拂公外銀 要國公債社債社債社債 債債債債債債債債債債 券券券券券券券券券券 利利利利利利利利利利 廻廻廻廻廻廻廻廻廻廻 調調調調調調調調調調	關 東 局 統 計 書	南 洋 廳 統 計 年 鑑	樺 太 廳 統 計 書	臺 灣 總 督 府 統 計 書 臺 灣 農 業 統 計 書 臺 灣 糖 業 統 計 書	農 業 統 計 表 朝 鮮 總 督 府 統 計 年 報 朝 鮮 總 督 府 統 計 年 報	職 業 紹 介 公 報 及 職 業 時 報

大阪毎日新聞社	エコーノミスト
大阪市社会部	労働月報
岡田昌蔵 (牛込區余丁町四五)	東京銀行通信録
荒木秀一 (大阪市天王寺區細工谷一〇九)	大阪銀行通信録
古山勝夫	滿鐵調査月報
矢澤宗一 (大連市寺内通三)	滿洲重要物産年報
山下吉之 (日本橋區通一ノ七)	信託協會々報
清水重次郎	南洋栽培協會々報
兒玉一祐 (日黒區土日黒五ノ二六六)	米穀日本(食糧經濟)
奥野道夫 (杉並區大宮前六ノ三七七)	木材年鑑

第二章 全國主要日刊新聞記事に依る陸軍將校の異動に關する文書課
報の一例 (自昭和十四年八月七日至昭和十四年八月九日)

第一節 判決

陸軍將校に關する記事は新聞は勿論其の他の刊行物に於ける發表を一切禁止するか又は強力なる統制を加ふるにあらざれば人事異動の秘匿は甚だ困難にして諸外國の諜報は比較的容易なるべし。

第二節 理由

一、陸軍現役將校同相當官實役停年名簿が秘扱となりたるは昭和十一年九月調より部外秘、昭和十三年九月調より軍事極秘にして而も官報には任官、進級、陸軍諸學校の入退校、成績優秀者等は發表せらるるを以て爾後の補修訂正は比較的容易に行はれあるものと判断せらる。

二、昭和十四年八月七日、八日、九日の三日間に於ける全國主要日刊新聞に就て陸軍の人事異動に關する資料を蒐集したるに新聞に進級、異動を公表せられたるものを除く異動に就て知り得たる状況左の如し。

而して右作業は何等補修訂正しあらざる昭和九年九月一日調陸軍現役將校同相當官實役停年名簿、昭和十四年八月二日官報第三千七百七十二號、陸軍常備團隊配備表のみを参照したるに過ぎざることをして特に附言す。

- 1、新聞に掲載せられたる人員數一一八
- 2、職官氏名、生年月日、陸士期別、經歷の概要等の判明せるもの

比	率	約	四五%
五三	將官	一四	大佐
尉官	官	三六	中佐
三	少佐	一八	一三
五			

3、職を明瞭にし得ざるもの

比	率	約	五〇%
五九	將官	一二	大佐
尉官	官	四四	中佐
三	少佐	一九	一五
一〇			

4、不明瞭なるもの

比	率	五%
六	將官	一
尉官	官	三
二	中佐	

5、新聞掲載回数一人に付最高七回最低一回平均約一・八回

三、故に絶えず戦死傷者の新聞記事其他陸軍、軍人に關する新聞記事並に新聞以外の刊行物に就て謀報し且要點に謀者を配置して謀知するの手段を講じて補足する等連續一貫せる諸外國の作業に想到せば現在の如き新聞掲載記事は秘密保持に關して大なる効果なきものと判断せざるを得ず。

第三節 統制不十分なる記事に依る例

記事の統制不十分にして容易に目的を達し得るもの左の如し。但し——を施したる部分は昭和九年九月一日調陸軍現役將校同相當官實役停年名簿に依る。新聞記事は原文のまゝとす

官氏名	中將 篠原次郎 (歩兵出身)	生年月日	現職
			留守第五師團長
經			一、長野縣出身 一、陸士第二十期 一、第十二師團參謀長タリシコトアリ 一、第三十旅團長ヨリ留守第五師團長ヘカ 一、少尉 (明四一、一二、二五)

考	備	家状 ノ庭況	歴
一、	九州朝日新聞(八、八)、大阪朝日新聞広島版(八、九)、中國新聞(八、九)、京都日新聞(八、九)、大和旭新聞(八、八)ニ依ル	一、子供ハ二十ヲ頭ニ四(二?)男三女アリ	中 佐 (昭三、三、二四)
二、	陸軍少將 武田馨 陸軍少將 赤鹿理		大 佐 (昭七、八、八)
三、	田尻中將 大谷少將		中 將 (昭一四、八、一)
	ハ広島ニ勤務シアリ		一、昭八、八、一、歩三十八長

九州朝日新聞(二四、八、八)……………久留米市南蕪西町一九四三

五將軍に祝電 久留米市より發す

久留米市では今回の陸軍異動に依り進級、榮轉した久留米市出身の岩永汪、中富秀夫兩少將に對して又第十二師團參謀長たりし篠原次郎中將、武田馨少將、赤鹿理の五將軍に石橋市長名を以て祝電を發した。

大阪朝日新聞広島版(二四、八、九)

巨艦、温情の武將篠原次郎中將着任す



篠原次郎中將は八日午後五時十一分広島驛着列車で單身着任した、驛頭には田尻中將以下在廣各部隊長、飯沼知事はじめ軍官民、婦人團體員ら多數出迎へるなかを中將は舉手の禮で答へつつ一旦驛貴賓室で休憩、自動車で官邸に入った。中將は長野縣出身陸士二十期、堂々たる巨艦に温情豊かな武將として知られて

ゐる、九日午前十前初登應のはず、なほ夫人および二男三女は近く來廣の豫定。

中國新聞(二四、八、九)……………広島市上流川町二番地二及五

篠原師管徴兵官 きのふ晴れの着任

篠原次郎師管徴兵官は、八日午後五時十一分広島驛着列車で着任、驛頭で大谷少將以下多數將校、飯沼縣知事、中邑市長代理、山本本社社長をはじめ在郷軍人團、國防婦人會ら多數官民の出迎へをうけ驛長室に少憩のち直ちに官邸に向つた、堂々たる體軀をしたこの徴兵官を車中に訪へば、内海の風光に目をやりながら

もう立秋だが、廣島の暑さはどうかね、夕風があると聞かされてきたが……………岡山に一寸ゐたところがあるが廣島ははじめてだ、廣島はまだ市長が決らないといふ話だがこの二十日から防空演習がはじまるのに時局柄困つたことだな、趣味かネ……………無趣味だよ、しかし國策線にそつて子

供は二十を頭に四男三女といふ子澤山だハハ、ハ、
赫顔に堅く結んだ唇を綻ばせながら語つた、なほ同徴兵官は八日午前十時初登壇のはず。
京都日々新聞(二四、八、八)……………京都市中京區烏丸通竹屋町上ル大倉町

篠原次郎中將新任地へ向ふ

赫々たる武勳を擔つて過日晴の歸還をなし中將に榮進した篠原次郎將軍は前夜入洛、八日午前九時五
十五分京都驛發列車で英姿颯爽と新任地へ向つた。

大和旭新聞(一四、八、八)……………奈良市三條今井町

篠原中將舊部下を慰問

郷土部隊長として輝く武勳をたて歸還した篠原次郎中將は七日午後〇時五分省線〇〇驛着にて來寧〇
〇部隊を訪れ全將校を偕行社に集め懇談した後、〇〇陸軍病院に白衣勇士を慰問、次で〇〇寺念佛堂
に詣で今は亡き部下の英靈の瞑福を祈り夕刻〇〇驛發で目的地に向つた。

官氏名	步兵大佐	相葉	健	生年	月	日
現職	步兵第十九聯隊長			明治二六、	一、	八
				本年	四十七	歲

經	一、東京市淺草區壽町 一、陸士第二十五期 一、少佐時代歩十九ノ大隊長トシテ在任 <small>(今ヨリ三年三ヶ月前當時ノ聯隊長島木大佐)</small> 一、福山歩四二 <small>(在中支)</small> 附ヨリ歩十九長 一、少尉 <small>(大正二、一二、二五)</small> 大尉 <small>(大正二、八、六)</small> 少佐 <small>(昭六、三、一一)</small> 一、歩十九大隊長 <small>(昭八、八、一)</small> 昭一一、四頃迄在任	歴	一、歩十九大隊長 <small>(昭八、八、一)</small> 昭一一、四頃迄在任	家狀	妻 畝都 (三六) 庭ノ長男 太郎 (二七) 福山中學校四年在學 ノ況 虎姫中學校へ轉校ノ豫定	備	一、敦賀時事新聞(八、八) 敦賀新聞(八、八) 新愛知新聞(八、八) 二、歩兵第十八旅團長 陸軍少將 青木…………… 歩兵第十九聯隊副官 歩兵中尉 桑田…………… 敦賀聯隊區司令官 歩兵大佐(?) 太田…………… ヲ發見	考	
---	---	---	--	----	---	---	--	---	--

新愛知新聞(二四、八、八)……………名古屋市西區御幸本町通二ノ二

家にも歸つた様な氣持 相葉新任聯隊長語る

寫眞

新任敦賀歩兵第十九聯隊長相葉健大佐は七日前十一時一分敦賀驛着列車で家族同伴、桑田副官をしたがへ來任、青木少將、太田聯隊區司令官、田保縣會議長ら官民多數の出迎へを受け、驛長室で少憩出迎への官民代表に挨拶のうへ宿舎に入つた、同大佐は東京市淺草區壽町の生れ本年四十七歳陸大第二十五期出身で以前島本聯隊長のころ少佐として敦賀に在任、温厚な風格はお馴染の武人であると、家庭は畝都夫人(三六)と長男虎姫中學四年太郎(二七)君の三人暮し、着任に際し左の如く語る(寫眞は相葉聯隊長)

敦賀は以前厄介になつたことがあり、今度三年三ヶ月振りてやつて來たが、まるで自分の家にも歸つたやうな氣がする、知人も相當をられるし非常に心強い、時局重大の折柄任務は重いが官民諸氏の御聲援によつて遺憾なきを期したい、どうかよろしく……

敦賀新聞(一四、八、八)……福井縣敦賀市蓬萊二五一

敦賀は第二の故郷 家に歸つた心持

今次事變に赫々武名輝やく新任相葉聯隊長着任

福山第四十一聯隊から敦賀第十九聯隊長に榮轉の相葉健大佐は副官桑田中尉を帶同畝都子(三六)夫人令息太郎(一七)君を同伴七日前十一時一分敦賀着列車で着任した。

驛頭には第十八旅團長青木少將を初め十九聯隊將兵、聯隊區司令部、陸軍病院、憲兵分隊等軍部關係者を初め水野助役、田保縣會議長外市内各官衙公署長、市議、商議、區長、將校婦人會、各種團體長、團體等ホーム一ばいの出迎へ裡に相葉大佐一行は巨椋驛長の案内で驛長室に入り出迎への市内官衙長、各種團體長らと挨拶を交し自動車で植山別荘に入り旅裝を解き晝食をした、め午後市内各官衙公署並びに關係方面へ挨拶廻りした。

相葉大佐は芳年四十七歳働き盛り東京淺草區壽町出身で士官學校第廿五期生、約三年前十九聯隊の大隊長として俊腕を揮ひ滿洲事變に出陣勇名を馳せ更に今事變勃發と共に中支戰線に活躍武名を轟ろかした赫々の勇將で

戰場灼けた赭顔を人なツこく綻ばしながら驛長室で左の如く語つた。

大隊長時代十九聯隊に御厄介になりましたので敦賀は全く故郷の様で家に歸つた心持です、今後共良ろしく

と言葉麁なに語つた。

尙福山中學校四年に在學中の太郎君は虎姫中學に轉校の筈であり、三島郵便局隣り元セメント清水支配人宅に寓居を構へる。

敦賀時事新聞(夕刊)(一四、八、七)……福井縣敦賀市蓬萊二十九番地

相葉健聯隊長戦鬪帽姿颯爽と着任

親元へ歸つた懐しさだ 夫人愛息も同伴

中支派遣〇〇部隊附から敦賀歩兵第十九聯隊長に榮轉した相葉健大佐は副官桑田中尉を帶同夫人敵都子さん(三六)愛息太郎君(二七)の家族同伴七日午前十一時一分敦賀驛着列車で着任驛頭青木旅團長はじめ將校、准士官、下士官代表、田保縣市會議長、市長代理水野助役、矢野警察署長、那須商議會頭、川原敦商校長、知守郷軍聯合分會長、矢田東南田結北各分會長、各官衙代表、軍友會、國婦、愛婦、太田司令官夫人ら將校婦人團多數の出迎へをうけ戦鬪帽姿颯爽と下車一旦驛長室に入り各代表と挨拶を交はしたのち自動車で官幣大社氣比神宮に參拜後ひとまづ三島の自宅に落ちついた相葉聯隊長は東京市淺草區壽町出身陸士二十五期卒業生で當年四十七歳の若き武將である聯隊長は記者團に對し

三年三月振りて再び敦賀に來たので親元へ歸つて來たやうな感じがする將來共何分よろしくと簡単な感想を語つた、なほ一粒種の太郎君は福山中學四年生で虎姫中學に轉校す。

四〇

官 氏 名	歩兵大佐 齋 藤 肇	生 年 月 日
		明治二三、六、一八 本年 四十九歳

職現	經	歴	家狀	庭	ノ況	備	考
歩兵第三十四聯隊補充隊長ナラン	一、廣島市大手町七丁目出身 一、陸士第二十三期 一、昭和十二年八月ウースン上陸以來中支戦線ニ活躍ス	一、少 尉 (明四四、一二、二六) 一、少 佐 (昭四、三、一六) 中 佐 (昭九、八、一)	一、家庭ハ大阪市大手前ニアリ 妻 芳 子(四一) 長女 静 江(二二)			一、静岡民友新聞(八、八、九) 静岡新報(八、九)ニ依ル 二、副 官 歩兵大尉 増 田…………… 静岡聯隊區司令官 新 井…………… 補 充 隊 附 歩兵中佐 小 林…………… 三、前任者ハ歩兵大佐大堀知武造ナリ	ヲ發見

静岡民友新聞(一四、八、九)……………静岡市紺屋町四十六番地

四一

寫眞

小濱知事らに迎へられて赫々たる武勳を輝かせて
新任齋藤部隊長(廣島市出身)は赫々たる武勳を輝やかせて八日午後八時三十五分静岡驛着列車で小濱知事、稻森市長、小林中佐、新井聯隊區司令官等官民多数の出迎へを受けて着任した。

静岡は始めてです 齋藤大佐語る

新任我等が郷土部隊の部隊長齋藤肇大佐(廣島市大手町七丁目出身)は八日午後八時三十五分〇驛着上り列車にて軍、縣、市、愛婦、國婦其の他各種團體多数の出迎へを受けて元氣一杯で着任した、大佐は驛長室において次の如く新任の挨拶をのべた。

人情風俗のまことに美しい氣候のよい土地に職を奉することゝなつたのは非常に幸福だと思つてゐる軍神〇〇中佐を出した光榮と山緒を思ひ先輩の名に恥じぬやう努力するつもりである静岡は初めてで全く白紙であるが一昨年八月第三先遣隊でウースン上陸の將兵達と戦場で共に暮らしたなつかしい思ひ出もあつてこゝへ來られたことも何かの由縁と思つてゐるどうか今まで通りの銃後の御聲援をお願いしたい。

大佐は陸士二十三期の卒業で本年四十九歳一昨年八月ウースン上陸以來中支戦線に活躍赫々の武勳を

立てたものである、大佐の家庭は大阪市大手前にあり夫人芳子さん(四一)長女静江さん(二二)の二人暮らしてである。(寫眞は静岡驛にてうつす)

静岡民友新聞(二四、八、八)

某要職を去つて滿洲國昭和製鋼入りをする大堀智武造大佐は六日午前八時二十八分小濱知事、齋藤部隊長代理小林中佐、稻森市長、新井聯隊區司令官其の他官民多数の見送りをうけて單身赴任した。

静岡新報(二四、八、九)……静岡市追手町二二九

齋藤肇大佐昨夜着任す

吾れ等が齋藤肇大佐は八日午後八時三十五分〇驛着列車で着任、同夜市内安田旅館に一泊した、同大佐は廣島市出身今次事變勃發するや直ちに中支に出征吳淞敵前上陸以來各地に轉戦現地に勇名を馳せ武勳に輝やく名將であると共に部下に對する情篤く又社會人としても洵に快調回熟の士である、同大佐は今九日副官増田大尉同行で衛戍地官公衙その他に挨拶廻りをなす豫定である、八日夜安田屋旅館に訪へば、左の如く第一聲を放つた。

當地は初めての着任で何事も未知の處であるが橋大隊長初め先輩の名に背かぬ様努力する積りである。

と語つた、尙同大佐は陸士二十三期生である。

官氏名	陸軍砲兵中佐 林 英 雄	
	生 年 月 日	明治二四、一一、七 本 年 四十九歳
職 現	山砲兵第九聯隊長	
經 歴	一、和歌山縣那賀郡王子村出身 一、陸士第二十五期 一、少尉任官當時野砲一五附(國府臺) 一、野砲二五附(朝鮮羅南) 一、野砲一〇大隊長(昭七)昭九滿洲東部方面ニテ活動) 一、函館高等水産學校配屬將校 一、野砲七留守隊長 一、在中支〇〇部隊兵器部長ヨリ山砲九長へ 一、少 尉 (大正二、一二、二五) 大 尉 (大正一一、八、二五) 少 佐 (昭六、八、一六) 野砲一〇附(昭九、八、一)	

家 庭ノ 状 況	妻 齡(三九) 長女 朝子(一九) 長男 甲子郎(一六) 仙臺幼年學校二年在學 外一男三女アリ
備 考	一、金澤新報、石川讀賣、北國新聞、大阪朝日新聞(八、八)富山日報(八、九)ニ依ル、 二、第九師團長陸軍中將吉住良輔、第九師團副官中村……、金澤憲兵分隊長大脇(?)…… ……山砲九砲兵少佐比土平隆男、同芳賀芳政、同高橋……アリ 三、南京攻略時ノ山砲九長ハ芹川透 四、東久邇宮彰常殿下ハ山砲九ニ御勤務セラレシコトアリ

北陸毎日新聞(一四、八、八)……金澤市南町五〇番地

南京の戦績調査で感心した營部隊

全く力強い思ひで着任した林山砲九聯隊長談

〇〇部隊の兵器部長から山砲兵第九聯隊長に榮轉の林英雄中佐は夕刊既報の如く昨七日午後四時一分金澤驛着列車で中村師團副官はじめ比土平砲兵少佐、大脇憲兵分隊長ら軍官民多数出迎へ裡に着任したが、直に師團司令部を訪問師團長に申告を終へ仙石町のあさ井屋旅館に入ったが往訪の記者に微笑をたへつ

寫 眞

つ左の如く語つた。

わしは南京で戦績案内などの都合から當部隊が南京一番乗りをした際の戦績を研究してゐた時に轉補の命令をうけとつたもので、恰も戦績の研究にあつてゐた部隊に轉任し洵になつかしい思ひでやつて來ました。當部隊の南京一番乗りの戦績を研究して見て感心したのですがあゝもよく歩砲が一體となつて活躍し得たが、砲兵が歩兵と共に敵前百四十五米までに進出して砲を撃つてゐたなどはこの事變でもないことで、全く申分ない満點である。御當地の部隊が上海の壘壘を陥し入れ、南京城をぬき武漢作戦を敢行する等赫々、(寫眞は自動車に乗つた林聯隊長)

林聯隊長略歴

林英雄中佐は

和歌山縣那賀郡王子村の出身、陸士二十五期生、四十九歳の働き盛り、少尉任官とともに第一師團國府臺の野砲第十五聯隊を振り出しに朝鮮羅南野砲第二十五聯隊、姫路野砲第十聯隊の大隊長となり昭和七年から同九年まで滿洲警備にかゝり、武勳をたて、凱旋、兩館の高等水産學校配屬將校、野砲第七聯隊〇〇隊長から〇〇部隊の兵器部長に榮轉、支那事變に活躍今日に至つたものである。夫人静さん(三十九年)との間に長女朝子さん(十九年)長男仙臺幼年學校二年生甲子郎君(十六年)のほか一男三女の和やかな家庭である。

北國夕刊新聞(二四、八、八)……金澤市弓ノ町六(驛前通り)

林中佐着任

林英雄中佐は七日午後四時金澤驛着列車にて多數官民の歡迎裡に灼顔に武勳を偲ばせ着任。

北國新聞(二四、八、八)……金澤市南町九十三番地

砲歩一體の猛射で南京攻略戦は満點 昨日着任せる林山砲九聯隊長語る

〇〇部隊兵器部長として中支戦線に活躍した武勳の戎衣も凛々しく新任山砲兵第九聯隊長林英雄陸軍砲兵中佐は昨七日午後四時一分金澤着列車で着任、驛頭問野中佐、比士平、芳賀、高橋各少佐以下同隊將校、下士官の出迎へを受け直に自動車を馳せて第九師團司令部を訪れ吉住師團長に着任の報告をなすところあつたが仙石町あさみ屋旅館に入つたところへ刺を通ずると「著いから上衣を脱ぎ給へ……」と気軽に面接し、眼鏡の裏に溫和な笑みを湛へながら記者團の問ひに答へる。(寫眞は金澤驛に於ける林山砲聯隊長)

寫眞

「南京の警備を一年あまりやつてゐた……南京にゐるといろいろな人が訪れて來るのでわれわれの部隊で南京の戦蹟研究をやることになり自分がそれを擔當してゐたのでこちらの部隊の活躍状況をよく知ることが出來た……その結果論か……ウン満點だ、戦闘は砲、歩一體となつて實によくやつてゐ

るのに感嘆した、あの光華門の攻撃なんぞは敵前百四十米の近くまで砲兵が進出し歩兵と一心同體となつて猛射をやつてゐる砲兵がこんなに近くまで進んで撃つなんていふことはいままでの戦闘や今次事變でも少い、これは砲兵と歩兵が一體とならねば出来ぬことで全く兵科を超過した成果だ……ウソそうだ、この強い兵を自分が率ゐると思へば愉快でならない……上海を陥入れ、南京城を猛攻し大別山へ追撃したあの意氣をもつて事に當れば何事か出来得ざるものあらんや……と自分は今度部下に訓示しようと考へて来た……」

南京 禮 讚

日本民族進出の好適地

自分は南京へ一發も銃聲をさかす部下と別れて歸るのは心苦しかつたが、こちらの精銳を率ゐて再度勇躍する日を楽しみにやつて来た……南京か……そうだナア折折はテロ事件もあるが全く内地と同じ平穩さに還つてゐる——排英の空氣か……英國の勢力もだんだん影をうすめてゐる、青天白日旗なんぞは南京で一本も見られないといふ状態だ。第一線から歸つて来る兵が南京の治安状態をみて之でこそわれわれは第一線で奮闘した價值があつたと喜んでゐるほどに南京はもう整備されてゐるのだ、南京は非常に住みよい、日本民族の進出には好適な土地だ日本人は現在六千人ゐるからどうだい諸君も行かないか……」と南京の禮讚を

一くさり。

東久邇宮彰常王殿下が當聯隊に御勤務になつてゐられたことは拜聞してゐる……再びその日のあるであらうと感激してゐる。

金澤新報(一四、八、九)……金澤市南町六二番地

勇名轟く精銳率ひ再度の勇躍が楽しみ

新任の林山砲九聯隊長談

○〇部隊の兵器部長から山砲兵第九聯隊長に榮轉の林英雄中佐は昨既報の如く七日午後四時一分着列車で着任したが直ちに自動車を馳せて第九師團司令部を訪れ吉住師團長に申告を終へ仙石町のあさ井屋旅館に入つたが往訪の記者に次の如く語つた。

わしは南京で戦績案内などの都合から當部隊が南京一番乗りをした際の戦績を研究してゐたのでこちらの部隊の活躍状況をよく知ることが出来た、その結果論か——満點だ砲、歩一體となつて實によくやつてゐるのに感嘆した、あの光華門の攻撃なんぞは敵前百四十五米の近くまで砲兵が進出し歩兵と一體になつて砲を撃つてゐたなどはこの事變中まれな事で兵科を超過した成果だ、この強い兵を自分が率ゐると思へば愉快でならない上海の堅壘を陥し入れ南京城を猛攻し大別山へ追撃したあの意氣をもつて何事にも當れば出来得ざるものあらんや——と自分は今度部下に訓示しようと考

へて来た、實はわしは戦地に行きながら一發の銃聲もきかず部下と別れて来たのは心苦しかったが武勳赫々たるこちらの精銳を率ゐて再度勇躍する日を楽しみにやつて来た南京の氣候は東京あたりとほとんど變らないよ、整備されて非常に住みよい、日本人は六千人ゐるから諸君も行かないかなに趣味か——無藝大食だよ、金澤は全然しらない初めてですどうかよろしく。

同中佐は和歌山縣那賀郡王子村の出身陸士二十五期生四十九歳の働き盛り少尉任官とともに第一師團國府臺野砲第十五聯隊を振り出しに朝鮮羅南野砲第二十五聯隊姫路野砲第十聯隊の大隊長となり昭和七年から同九年迄滿洲警備に輝やかしい武勳を樹て、凱旋兩館の高等水産學校配屬將校、野砲第七聯隊〇〇隊長から〇〇部隊の兵器部長に榮轉、今事變に活躍今日に至つたものである、夫人靜さん(三九)との間に長女朝子さん(十九)長男甲子郎君(二六)仙臺幼年學校二年生のほかに一男三女の和やかな家庭で現在東京に居られると。

富山日報(二四、八、九)……………富山市總曲輪二五五

山砲兵第九聯隊長着任 林英雄中佐

〇〇部隊兵器部長として中支戦線に活躍した武勳の戎衣も凛々しく新任山砲兵第九聯隊長林英雄陸軍砲兵中佐は昨七日午後四時一分金澤着列車で着任、同聯隊長は和歌山縣那賀郡王子村の出身、陸士砲

科第二十五期生で本年四十九歳、第一師團國府臺野砲第十五聯隊を振出しに朝鮮羅南野砲二十五聯隊附、姫路野砲十聯隊を経て大隊長として昭和七年より同九年の二ヶ年滿洲の東部線方面に出動、兩館高等水産學校配屬將校、旭川野砲第七聯隊留守隊長を経て〇〇部隊兵器部長として第一線に出動今日に至つたもので家庭には夫人靜さん(三九)と仙臺幼年學校二年在學の長男甲子郎君(二六)を合せて二男四女の子寶がある。

北國夕刊新聞(二四、八、九)

武勳の砲九へ来たのは光榮 林隊長の着任談

既報七日午後四時一分金澤驛着列車で着任した林山砲九聯隊長は直ちに自動車を馳せて第九師團司令部を訪れ吉住師團長に着任の報告をなし仙石町淺井屋旅館に投宿した。

林聯隊長は和歌山縣那賀郡王子村の出身で陸士二十五期生、四十九歳、少尉任官とともに第一師團國府臺野砲第十五聯隊を振出しに朝鮮羅南野砲第二十五聯隊、姫路野砲第十聯隊の大隊長となり昭和七年より同九年まで滿洲警備に輝かしい武勳をたて凱旋、兩館水産學校配屬將校、野砲第七聯隊〇〇隊長から〇〇部隊の兵器部長に榮轉今事變に活躍した人である、家庭には靜子夫人(三九)との間に長女朝子さん(一九)長男甲子郎君(二六)のほか一男三女がある。

旅館に林隊長を訪れば

「武勳の譽れ高き山砲第九聯隊に着任した事は光榮で大いにやりたいと思ひます」と語つた。

石川讀賣(二四、八、八)……………金澤市尾張町六十一番地

不滅の武勳部隊へ大陸から颯爽着任 明朝潤達の林英雄中佐

寫 眞

○部隊兵器部長として大陸に活躍中今回山砲第九聯隊長となつた林英雄中佐は七日午後四時一分金澤着列車で途中まで出迎へた田中中尉を帯同單身着任した、驛ホームに出迎へた部下將校と挨拶を交し、直ちに自動車を駈つて師團司令部に至り吉住中將に着任報告を行つたのち市内仙石町あさい屋旅館に入りくつろいだ、旅館に同中佐を訪ねると「内地もなかなか暑い、上衣を脱いで話さうじゃないか」と温顔を綻ばせて明朝潤達ぶりだ。

「金澤は始めてだが人情淳朴の土地と聞いて親しく思つてゐた、南京では戦績訪問者の案内掛りをやつてゐたので當師團の部隊については大いに研究したつもりだが、南京攻略戦ぐらひ歩砲一體となつて目覺ましい戦果を挙げたものはないだらう、しかも光華門前百四十米突に逼り猛攻を浴せた芹川部隊の偉勳は實に感銘深いものだ、こうした名譽ある部隊を生んだ當地へ突然轉任を命ぜられたのは何かの奇縁であらうと思つてゐる、南京はいまでは内地と同様の平靜さで支那住民も六千人

餘りの邦人も皇軍の力強い守備下に孜々として建設に邁進してゐる、南京は非常に暑いと謂はれてゐるが内地の暑さと左程變りはない、夕方になれば微風がそよそよと吹いて涼しく、まことに住心地が良い、趣味なんてないが無藝大食の方だよハハ、ハハ、」

なほ同中佐は和歌山縣那賀郡王子村の出身で陸士二十五期生、國府臺野砲第十五聯隊で少尉に任官し朝鮮羅南野砲第二十五聯隊を経て昭和七年から九年にかけて姫路野砲第十聯隊大隊長として滿洲事變に参加、次いで函館高等水産學校配屬將校となり、旭川野砲第七聯隊長となつたが支那事變勃發と共に出征、今回の榮轉となつた。

夫人静(三九)さんとの間には仙臺幼年學校二年在學中の長男甲子郎(二六)君、長女朝子(二九)さんを筆頭に二男四女の子寶である。(寫眞は林英雄中佐)

第四節 記事統制要領

一、陸軍將校に關する記事を發表せしむるときは經歷、階級、職、在職地、轉任地等を顧慮して發表の程度を定め概ね左の如き著意を適宜按配するを必要と認む。

- 1、部隊名は如何なる場合にも○とする。
- 2、必ず姓のみとし名を用ひざること。

- 3、兵科、官等、職名を併記せしめず單に官等のみを用ひしむ。
- 4、過去に於ける経歴は一切禁止すること又「北滿、北支、中支、南支等に在りて活躍云々」の如きも嚴に禁止すること。
- 5、出迎、見送、訪問等の關係者の所屬、姓官等は禁止すること。
- 6、所屬部隊の所在(例へば北支、中支、滿洲等)を示すことは禁止すること。
- 7、出身地は一切禁止すること。
- 8、本人の経歴及性格を表はす談話は一切發表せざることを。
- 9、家族の狀況は發表せざることを。
- 10、寫眞の掲載を禁ずるを可とす。
- 11、其他在職部隊の所在を暗示する記事例へば「我等の郷土部隊長として云々」「着任」「離任」等は禁止すること。
- 12、場所、日時は凡て〇〇を用ひしむること。

二、理由

- 1、部隊名の明示の不可は當然にして過去に於て相當準備しある諸外國の諜報に對しては常に〇〇を用ひて困難性を増加せしむるを要す。

- 2、姓名を用ふれば過去の停年名簿より直ちに搜出し得。
- 3、兵科、官等、職名を用ふれば名を削除するも姓と照合し比較的容易に停年名簿より搜出し得。
- 4、過去の経歴は兵科官等を知り得停年名簿よりの搜出を容易ならしむ。
- 5、出迎、見送、訪問等の關係者の記述により一名に關する記事より他の多數の資料を容易に求め得。
- 6、所屬部隊の所在を秘するにあらざれば過去より連續して諜報に努めある諸外國に對しては新部隊名補修訂正の好資料を與ふるの因となる。
- 7、出身地は停年名簿上に於て搜出確定の好資料となる。
- 8、本人の経歴及性格、家族の狀況等は容易に入手し得ざる資料にして而も人物判斷等に甚だ大なる根據を與ふるものなり。
- 9、寫眞の蒐集は困難なるものなり然るに新聞よりの複寫は明瞭を缺くも容易に實施し得。
- 10、在職部隊を暗示する記事並に場所日時の明示により在職先の確定に根據を與へ爾後の作業を極めて容易にす。

第三章 關門海底隧道に關する記事に就て

第一 説明

- 一、本書は内務省警保局圖書課の好意によつて早急の間に集めて貰つた資料から作つたものである。
- 二、調査の範圍は東京府、愛知縣、大阪府、山口縣、福岡縣の新聞のみに止め特に警視廳管下の雑誌は一應調査して貰つた。
- 三、此の外に鐵道省及内務省の關係局課からパンフレットや秘扱でない計畫書類の一部が出て居ると思ふが之は調査し得なかつた、この調査が出来なかつたのは本書の最大缺陷であらうと思ふ、唯問題になつたものとして記憶して居るので特に附加したものは昭和十二年七月鐵道省下關改良事務所の「關門聯絡線に就て」と「週報第一七三號」との二つである。
- 四、甚だ不十分なものはあるが軍用資源秘密として指定される關門隧道がどんな取扱を受け如何に文書謄報機關の發達した外國に洩れたかを一瞥して貰ひたく此機會に左の如き私見を持つものである。
- (一) 防諜觀念がもつと深刻に國民全部に徹底されねばならぬ。
- (二) 防諜に關する主務官廳が必要である、ここで將來に互る方針なり計畫が定められねばならぬ。
- (三) 各官廳の計畫部局に防諜に關する課が設けられ新しい計畫をする場合に防諜方面から見た必要

處置が繰り込まれる必要がある。

秘密にして置いてあとから發表するのは容易であるが發表して置いてあとから秘密にすることは殆んど無意義であるからだ。

(四) 新聞、出版に關する統制が強化されねばならぬ。

(五) 我が國にももつと大規模で組織的な文書による調査機關が要る、然し何日日本がそう云ふ風になるだらうか。

第二 關門海底隧道關係記事掲載狀況

- 一、調査印刷物
新聞、紙 四〇種
雑誌、圖書 三七種
- 二、掲載件数 六六六件
- 三、掲載記事の内容別件数

註 内譯欄中右側の數字は新聞紙掲載件数、左側の數字は雑誌、圖書掲載件数を示す

記事内容	区分	掲載件数				
		警視廳管下 發行ノモ	愛知縣下 發行ノモ	大阪府下 發行ノモ	山口縣下 發行ノモ	福岡縣下 發行ノモ

隧道掘鑿ニ關スル一般狀況	六五		一九二							二八
鐵道試掘隧道貫通ニ關スル	六三		五六							二四
鐵道試掘隧道貫通ニ關スル	四五		一三	四						二六
鐵道試掘隧道貫通ニ關スル	三四									三四
隧道掘鑿技術ニ關スルモノ	二九									三二
隧道完成後ノ諸計畫ニ關スルモノ	二八									二五
鐵道試掘隧道掘鑿狀況ニ關スルモノ	二五									二四
鐵道掘鑿業務擔當者ニ關スルモノ	二四									二三
鐵道試掘隧道掘鑿狀況ニ關スルモノ	二四		一〇							一四
關門海底地質ニ關スルモノ	二〇		二							一八
關道試掘隧道掘鑿狀況ニ關スルモノ	二〇									二〇
關道試掘隧道掘鑿狀況ニ關スルモノ	一八									一八
關道試掘隧道掘鑿狀況ニ關スルモノ	一七									二三

隧道掘鑿ニ對スル審議ニ關スルモノ	一五									一五
鐵道本隧道掘鑿ニ關スルモノ	一二									八
關門隧道經濟的價值ニ關スルモノ	一〇									九
鐵道隧道豫算ニ關スルモノ	一〇									一〇
鐵道試掘隧道起工ニ關スルモノ	九									八
鐵道掘鑿計畫ニ關スルモノ	四		一							三
國道試掘隧道起工ニ關スルモノ	三									三
鐵道隧道内施設計畫ニ關スルモノ	三									三
不	一〇〇		七							八四
其他	八八		三〇							四九
計	六六六		七二六		二七		五〇		八九	三九三

第三 警視廳官下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載狀況

(一) 調査新聞紙 三種
 (二) 掲載件数 二六件

記事内容

- 1、關門海底地質ニ關スルモノ 二件
- 2、隧道掘鑿技術ニ關スルモノ 一件
- 3、隧道完成後ノ諸計畫ニ關スルモノ 一件
- 4、隧道掘鑿ニ關スル一般狀況 二件
- 5、鐵道試掘隧道掘鑿狀況ニ關スルモノ 一件
- 6、鐵道試掘隧道貫通ニ關スルモノ 六件
- 7、國道試掘隧道貫通ニ關スルモノ 三件
- 8、鐵道、本隧道掘鑿ニ關スルモノ 一件
- 9、不明 七件
- 10、其ノ他 二件

二、雜誌 三五種
 (一) 調査雜誌

(二) 掲載件数 七六件

記事内容

- 1、隧道掘鑿計畫ニ關スルモノ 一件
- 2、隧道掘鑿技術ニ關スルモノ 六件
- 3、隧道完成後ノ諸計畫ニ關スルモノ 二件
- 4、鐵道試掘隧道起工ニ關スルモノ 一件
- 5、國道隧道掘鑿計畫ニ關スルモノ 一〇件
- 6、隧道掘鑿ノ一般狀況ニ關スルモノ 一九件
- 7、鐵道試掘隧道貫通ニ關スルモノ 五件
- 8、國道試掘隧道貫通ニ關スルモノ 一件
- 9、鐵道本隧道掘鑿ニ關スルモノ 一件
- 10、其ノ他 三〇件

三、新聞別記事内容件数

内容区分	件数	新聞名	
		東京朝日新聞	東京日日新聞
掲載件数	76	30	46

交通時事	講談俱樂部	工業國策	工學院同窓會誌	工學	月刊 海を越へて	技術評論	キ ン グ	科學智識	海 之 世 界	亞 細 亞 情 報	誌 名		件 數
											國內	譯	
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	七	三	一	
				二									
一				一									
				四	一								
				一									
				一									
一	一									三			

六三

四、雜誌別記事内容件數

計	其 他	不 明	鐵道本 線 掘鑿ニ 關スル モノ	國道試 掘 掘鑿 貫通ニ 關スル モノ	鐵道試 掘 掘鑿 貫通ニ 關スル モノ	鐵道試 掘 掘鑿 貫通ニ 關スル モノ	鐵道試 掘 掘鑿 貫通ニ 關スル モノ	鐵道試 掘 掘鑿 貫通ニ 關スル モノ	鐵道試 掘 掘鑿 貫通ニ 關スル モノ	鐵道試 掘 掘鑿 貫通ニ 關スル モノ	鐵道試 掘 掘鑿 貫通ニ 關スル モノ	鐵道試 掘 掘鑿 貫通ニ 關スル モノ	鐵道試 掘 掘鑿 貫通ニ 關スル モノ
二六	二	七	一	三	六	一	二	一	一	一	一	一	二
一三	二		一	二	三	一	一	一	一	一	一	一	一
六				一	三	一							一
七		七											

六二

計	旅行界	陸運	ユーモアクラブ	雄辯	日の出	土木ニュース	土木工学	土木建築資料新聞	道路の改良	電気協会雑誌
七六	一	一	一	一	一	一	二	七	六	一
一〇								三		
五								一		
六										
一九	一	一				一	一			
一										
二			一							
一										
一								一		
一					一					
一三〇				一			一	二	六	一

鐵道智識	鐵道青年	鐵道時報	鐵道春秋	自働資料	週報	週刊道論	今日の智識	子供の科學	交通内外時報	交通展望	交通情報	交通時論	交通時代
三	二	四	二	一	一	三	一	二	一	一	三	一	一
一													
		一							一			一	
						二							
二		一	一		一	一			一				一
二	二	一	一				一	二					

第四 愛知縣下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載狀況

六六

- 一、調査新聞紙 六種
- 二、掲載件數 二七件
- 記事内容
- (一) 隧道掘鑿ノ一般狀況 五件
 - (二) 鐵道試掘隧道貫通ニ關スルモノ 一二件
 - (三) 國道試掘隧道貫通ニ關スルモノ 四件
 - (四) 國道本隧道ノ掘鑿ニ關スルモノ 二件
 - (五) 其ノ他 四件

三、新聞別記事内容件數

隧道ノ一般狀況	區分	件數	新聞名					
			新愛知	大阪朝日新聞	大阪毎日新聞	新愛知	名古屋毎日新聞	
五			一		一	二	二	一

計	其ノ他	鐵道試掘隧道ノ貫通ニ關スルモノ				國道試掘隧道ノ貫通ニ關スルモノ				國道本隧道ノ掘鑿ニ關スルモノ			
		新愛知	大阪朝日新聞	大阪毎日新聞	新愛知	名古屋毎日新聞	新愛知	大阪朝日新聞	大阪毎日新聞	新愛知	名古屋毎日新聞	新愛知	大阪朝日新聞
二七	四	一	七	二	七	六	二	二	二	二	二	二	二

第五 大阪府下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載狀況

- 一、調査新聞紙 一〇種
- 二、掲載件數 五〇件
- 記事内容
- (一) 關門隧道ノ經濟的價值ニ關スルモノ 二件
 - (二) 鐵道試掘隧道貫通ニ關スルモノ 一六件
 - (三) 國道試掘隧道貫通ニ關スルモノ 一一件

六七

- (四) 隧道掘鑿ノ一般狀況 二件
- (五) 國道本隧道掘鑿ニ關スルモノ 三件
- (六) 鐵道本隧道掘鑿ニ關スルモノ 二件
- (七) 隧道掘鑿計畫ニ關スルモノ 二件
- (八) 隧道掘鑿業務擔當者ニ關スルモノ 一件
- (九) 其ノ他 三件

三、新聞別記事内容件數

内 容	件 數	新聞 名											
		日新	大阪朝新	大阪朝報	大阪時報	大阪日新	大阪毎日	關西	關西中央	關西中日	昭和日新	大阪夕刊	大阪夕刊
關門隧道ノ經濟的價値ニ關スルモノ	一		一										
鐵道試掘隧道貫通ニ關スルモノ	一六		五	一									
國道試掘隧道貫通ニ關スルモノ	一				二								
隧道掘鑿ノ一般狀況	二					一							

内 容	件 數	日新	大阪朝新	大阪朝報	大阪時報	大阪日新	大阪毎日	關西	關西中央	關西中日	昭和日新	大阪夕刊	大阪夕刊
國道本隧道掘鑿ニ關スルモノ	三												
鐵道本隧道掘鑿ニ關スルモノ	二												
隧道掘鑿計畫ニ關スルモノ	二												
隧道掘鑿業務擔當者ニ關スルモノ	一												
其ノ他	三		二										
計	五〇	一四	一	九	一	一四	一	一	五	一	二	二	二

第六 山口縣下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載狀況

- 一、新聞紙
 - (一) 調查新聞紙 一二種
 - (二) 掲載件數 八九件
- (記事ノ内容ハ全部不明ナリ)
- 二、雜誌、圖書

- (一) 調査雜誌、圖書 二種
- (二) 掲載件数 五件

記事内容

- 1、隧道掘鑿計畫ニ關スルモノ 一件
- 2、不明 四件

三、新聞別記事内容件数

不 明	内 容 分 区		件 数	新 聞 名																															
	關 門	日 報		關 門	關 門	關 門	大 字	日 報	日 報	日 報	防 長	防 長	防 府	防 府	民 衆	山 口																			
八	九	二	三	新	日	關	新	報	關	新	每	夕	部	大	時	宇	日	新	防	防	新	防	新	時	日	新	衛	民	山	日	報	口			
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

四、雜誌、圖書別記事内容件数

内 容 分 区	件 数	話 ノ 關 門	關 門 聯 絡 線 ニ 就 テ
隧道掘鑿計畫ニ關スルモノ	一		一

不 明	明
計	計
五	四
四	四
一	一

第七 福岡縣下發行印刷物の關門海底隧道關係記事掲載状況

- 一、調査新聞紙 九種
- 二、掲載件数 三九三件

記事内容

- (一) 隧道掘鑿ニ對スル審議ニ關スルモノ 一五件
- (二) 隧道完成後ノ價值ニ關スルモノ 九件
- (三) 隧道完成後ノ諸計畫ニ關スルモノ 二五件
- (四) 隧道掘鑿技術ニ關スルモノ 二二件
- (五) 隧道掘鑿業務擔任者ニ關スルモノ 二三件
- (六) 關門海底地質ニ關スルモノ 一八件
- (七) 鐵道隧道豫算ニ關スルモノ 一〇件

内 容 分	件 数	新 聞								名
		大阪朝 日新聞	大阪毎 日新聞	九州報 知新聞	九州 日報	小倉 日報	鎮西 報	東洋 民報	福岡日 新聞	
隧道掘鑿ニ對スル 審議ニ關スルモノ	一五		八				二		五	
隧道完成後ノ價值 ニ關スルモノ	九		三						六	
隧道完成後ノ諸計 畫ニ關スルモノ	二五		四		三	二			九	四
隧道掘鑿技術ニ關 スルモノ	二二		八			一	一		一三	
隧道掘鑿業務擔任 者ニ關スルモノ	二三						一		一九	二
況隧道掘鑿ノ一般狀 況	二八		五			六			六	
鐵道隧道ノ豫算	一〇								七	一
國道隧道ノ豫算	一八		一			二			三	一
關門海底地質ニ關 スルモノ	一八					一			一五	
鐵道隧道掘鑿計畫 ニ關スルモノ	三四		四						二八	二
國道隧道掘鑿計畫 ニ關スルモノ	一四		四		一	二			五	
鐵道試掘隧道起工 ニ關スルモノ	八		三						五	

三、新聞別記事内容件數

- (八) 國道隧道豫算ニ關スルモノ 一八件
- (九) 鐵道隧道掘鑿計畫ニ關スルモノ 三四件
- (十) 國道隧道掘鑿計畫ニ關スルモノ 一四件
- (十一) 鐵道試掘隧道起工ニ關スルモノ 八件
- (十二) 國道試掘隧道起工ニ關スルモノ 三件
- (十三) 隧道掘鑿ノ一般狀況 二八件
- (十四) 鐵道試掘隧道ノ掘鑿狀況ニ關スルモノ 二四件
- (十五) 國道試掘隧道掘鑿狀況ニ關スルモノ 二〇件
- (十六) 鐵道試掘隧道貫通ニ關スルモノ 二四件
- (十七) 國道試掘隧道貫通ニ關スルモノ 二六件
- (十八) 鐵道本隧道掘鑿ニ關スルモノ 八件
- (十九) 國道本隧道掘鑿ニ關スルモノ 一二件
- (二十) 鐵道隧道内施設計畫ニ關スルモノ 三件
- (二十一) 其ノ他 四九件

計	其 ノ 他	三 九 三	三 〇	七 九	一 七	一 八	一 四	二 三	六	一 八	一 八
國道試掘隧道起工 ニ關スルモノ		三									
鐵道試掘隧道掘整 狀況ニ關スルモノ		二四	四	一	一						三
國道試掘隧道掘整 狀況ニ關スルモノ		二〇	一	六	一			三		一	四
鐵道試掘隧道貫通 ニ關スルモノ		二四	六	四	二	五			一	六	三
國道試掘隧道貫通 ニ關スルモノ		二六	五	六	三	六			一	六	六
鐵道本隧道掘整ニ 關スルモノ		八	一	三	二					一	一
國道本隧道掘整ニ 關スルモノ		一二		三	一					四	一
鐵道隧道内施設計 畫ニ關スルモノ		三								二	四
其 ノ 他		四九	四	五	二			四	四	二	二
計		三九三	三〇	七九	一七	一八	一四	二三	六	一八	一八

一、新聞紙
附録 關門海底隧道に關する印刷物掲載記事一覽
第一 警視廳管下發行新聞紙、雜誌の掲載記事

題	號	日	附	號	數	記	事	標	題
東京朝日新聞		昭一四、二、一四		一八、九八七					「海底の地質調査」
		昭一四、三、一八		一九、〇一九					「關門本隧道近く掘さく」
		昭一四、四、一一		一九、〇四二					「運賃大幅値下、鐵相語る」
		昭一四、四、二三		一九、〇四四					「あと八五米關門豆隧道廿日頃貫通」
		昭一四、四、二九		一九、〇五〇					「關門豆隧道開通式」
		昭一四、四、二〇		一九、〇五一					社説「關門隧道の中間成功」
		昭一四、四、三〇		一九、〇五一					「魔の關門豆隧道開通す」
		昭一四、四、二六		一九、〇五七					「海底の握手第二陣、けさ關門に萬歳」
		昭一四、四、二七		一九、〇五八					「海底第二の制覇、國道隧道全通」
		昭一四、五、八		一九、〇六九					「關門本隧道に最初のシールド工法」
		昭一四、五、二三		一九、〇七四					「世紀の第一鐵、關門隧道の施工式」
		昭一四、六、一八		一九、一一〇					「鐵相幸運のスィッチ、意外な鐵脈發見寶の山は關門豆隧道」
		昭一四、八、三		一九、二五六					「果然素晴らしき銅鐵、關門隧道副産物」

二、雜誌

題	號	發行年月日	號	數	標	題	參考事項
交通内外時報	昭一四、四、一〇		三七		本土と九州海底で握手關門海底隧道	關門海底隧道試掘坑開通日たる十九日午前十時鐵道省大臣室に於ける場景と前田鐵相の感想記事	
鐵道春秋	昭一三、三、一		二一年		建設と工業		
右	昭一四、二、一		二三年		關門連絡線工事現況		
工業國策	昭一四、五、一		二卷		關門國道隧道の計畫に就て	下關要塞司令官の檢閲許可を受く	
工學	昭一三、三、一		二八三號		關門鐵道隧道本工事着手		
同	昭一三、六、一		二八六號		關門海峡隧道進捗		
同	昭一三、七、一		二八七號		關門海底隧道工事		
同	昭一三、八、一		二八八號		關門隧道工事進捗工程		
同	昭一三、九、一		二八九號		關門隧道		
同	昭一三、一〇、一		二九〇號		關門國道隧道の財源と工事難		

東京日日新聞	昭一三、九、二〇				「關門隧道けふ盛大な起工式」
同	昭一三、一一、二二				「近く豆濱も出動、關門の科學海底偵察石本博士指導に乗り込む」
同	昭一四、四、一八				「關門豆濱道けふ愈々開通本土と九州歴史の握手」
同	昭一四、四、一九				「シャベル部隊感激、懸穴から萬歳、關門豆濱道開通」
同	昭一四、四、二六				「海底與亞の扉開く、前田鐵相ボタんに感激こめて關門豆濱道貫通」
讀賣新聞	昭一三、八、一八				「海底に凱歌關門國道貫通」
同	昭一三、九、二三				夕刊 三段抜
同	昭一三、九、二〇				朝刊 一段抜
同	昭一三、九、八				夕刊 三段抜
同	昭一四、三、八				夕刊 四段抜
同	昭一四、三、二二				夕刊 三段抜
同	昭一四、四、二六				夕刊 三段抜

同	鐵道時報	同	同	交通情報	同	同	同	同	同	道路の改良	同	同
昭一四、四、三二	昭二二、九、二八	昭一四、六、二五	昭二二、一、一	昭一三、一、二〇	昭一四、六、一	昭一三、八、一	昭一四、二、一	昭一三、三、一	昭一三、二、一	昭二二、九、一	昭一三、六、二五	昭二二、一、九
二、〇五七號	一、九八〇號	五九卷	一七卷	一八卷	六同	二二卷	八同	三〇卷	一〇二	九一九卷		
一、西日本より 二、關門隧道貫通	門司特信	近事片々	前田鐵相年頭辭	營進する國鐵の運	二、式參列の記 路政春秋	一、關門隧道起工	土木會議を覗く	路政小感(二)	關門放送	二、關門放送	關門素見	關門隧道工事の現
												佐藤周一郎著

鐵週刊 道公論	海之世界	電氣協會雜誌	交通時代	講談俱樂部	同	同	同	同	同	同	同	同
昭一二、一、二	昭一四、五、一	昭一三、二、一	昭一四、五、一	昭一四、七、一	昭一四、八、一	昭一四、五、一	昭一四、四、一	昭一四、一、一	昭一三、二、一	昭一三、二、一	昭一三、二、一	昭一三、二、一
	五號	二〇三號	五一卷	二九卷	三〇〇號	二九七號	二九六號	二九三號	二九二號	二九二號	二九二號	二九二號
關門隧道は如何に して掘られるか	最近の主なる出來	關門連絡線に就て	道工の偉業關門隧	隧道の曙光	日繪一話題の寫眞	鐵道關門隧道で物	國産の「シールド」	作戦計畫成る	鐵道關門本隧道の	一、關門海底の二大事	一、關門より九州にか	一、關門隧道外四國道
釘宮 磐著			著者 鐵道省工務局長 阿曾 沼均	寫眞は同盟通信寫眞 部撮影								

交通時論	昭一四、四、一	一三卷	號	關門海底隧道五	鐵道省内記者俱樂部 に發表の記事 中外交通新聞より轉
自動車研究資料	昭一四、三、二五	一二卷	號	關門海底隧道工事 (口繪)	鐵道省の記者俱樂部 に發表の新聞より轉
雄辯	昭一四、六、一	三〇卷	號	世界最初の海底隧道	中外交通新聞より轉
日の出	昭一四、六、五	七卷	號	關門海底に揚る凱	中外交通新聞より轉
鐵道青年	昭二二、二〇、一	二九卷	號	科學日本の誇關	中外交通新聞より轉
同	昭一四、五、一	三二卷	號	結ぶ海と九州を	中外交通新聞より轉
同	昭一四、六、一	一八卷	號	二扇を開く	中外交通新聞より轉
土木ニュース	昭一四、六、一	六八卷	號	鐵道國道兩國內	中外交通新聞より轉
子供の科學	昭一一、三、	二二卷	號	我が國最初の大水	中外交通新聞より轉
同	昭一二、一、	二三卷	號	關門海底隧道の大	中外交通新聞より轉
陸運	昭一四、五、一五	一四卷	號	工事進む關門隧道	中外交通新聞より轉
旅行界	昭一四、五、一	五五卷	號	科學日本の誇世界	中外交通新聞より轉

同	昭一四、四、二九	二〇五八號	號	工事進む關門隧道	中外交通新聞より轉
同	昭一四、五、二七	二〇六一號	號	參觀者踵を接す關	中外交通新聞より轉
亞細亞日報	昭一二、四、七	三七七號	號	關門國道隧道いよ	中外交通新聞より轉
亞細亞情報	昭一三、五、三	六九〇號	號	度ヨリ著工セン	中外交通新聞より轉
同	昭一三、六、九	七二二號	號	關門隧道人道と	中外交通新聞より轉
同	昭一三、一一、二九	七六六號	號	銑鐵の購入も決定	中外交通新聞より轉
同	昭一三、一二、三〇	七九三號	號	關門配屬機關車	中外交通新聞より轉
同	昭一四、四、四	八六九號	號	關門隧道明年末貫	中外交通新聞より轉
同	昭一四、四、二九	八八二號	號	關門「パイロット」	中外交通新聞より轉
土木工學	昭一二、六、一〇	六卷	號	關門海底隧道工事	中外交通新聞より轉
同	昭一二、一一、二〇	六卷	號	關門隧道工事緊張	中外交通新聞より轉
交通展望	昭一二、七、一五	七卷	號	關門隧道はどうし	中外交通新聞より轉
今日の知識	昭一四、六、一	四卷	號	「話題」の中	中外交通新聞より轉

同	同	同	同	土木建築資料新聞	キ ン グ	技 術 評 論	ユ ー モ ア ク ラ ブ
昭一三、一一、三〇	昭一三、一一、一九	昭一三、九、二一	昭一三、九、八	昭一三、八、二二	昭一四、七、一	昭一四、四、二三	昭一四、三、一
二、五六四號	二、五五七號	二、五一〇號	二、五〇〇號	二、四七七號	七月號	四一六號	三三三號
増補と共 門々豫算 道計利根 通省輸に 隧運に備 朝鮮海峽 隧計書將 道運輸に 通省輸に 増補と共	門々豫算 道計利根 通省輸に 隧運に備 朝鮮海峽 隧計書將 道運輸に 通省輸に	國鉄より一 完門國道 完成	國防的見地 四年計畫 門自動車 國防的見地	最後案決定 關門海底 を網羅して 第二回協 關門海底 最後案決定	口繪 關門豆 關門豆 關門豆	關門隧道 關門隧道 關門隧道	東京下關 鐵道を敷 鐵道を敷
同	同	同	同	一般新聞より轉載	週報第一三七號より轉載	鐵道技師 立花次郎	新聞記事より拔萃す

同	同	同	同	同	同	同	同	同
昭一三、一二、七	昭一四、四、二二	昭一四、二、一	昭一四、五、一	昭一四、五、一五	昭一四、六、一五	昭一四、五、三一	昭一四、三、一	昭一三、一二、七
二、五七〇號	二、六七三號	二	五	二〇卷	二〇卷	第一三七號	三三三號	二、五七〇號
實行第一 計畫五日 計畫五日 計畫五日	關門豆 關門豆 關門豆	關門自動 關門自動 關門自動	關門海底 關門海底 關門海底	關門海底 關門海底 關門海底	關門海底 關門海底 關門海底	關門隧道 關門隧道 關門隧道	東京下關 鐵道を敷 鐵道を敷	二、五七〇號
同	同	鐵道省技師 佐藤周一郎						同

第二 愛知縣下發行新聞紙の掲載記事

新聞題號	日	附	號	數	記事	標	題
愛知新聞	昭一四、四、一九		一三、三二四		國鐵が全世界に誇る關門海底隧道貫通火 花を散らす掘鑿の猛攻に流石の難工事も 見事に完成		
大阪朝日新聞	昭一四、四、二一		二〇、六四七		全般的の運賃値下實現は難しい		
同	昭一四、四、二三		二〇、六四九		貫通は二十日か豆隧道工事進む		
同	昭一四、四、一九		二〇、六五五		海底でやあやあ門司と下關でバンザイの 交歓		
同	昭一四、四、二〇		二〇、六五五		鐵相が押す釧の指令一瞬忽ち爆破の感激		
同	昭一四、四、二三		二〇、六五九		科學日本の誇り遂に貫通した關門隧道		
同	昭一四、五、二三		二〇、六七九		けふ歴史の第一鉄		
同	昭一四、六、一八		二〇、七一五		關門海底から金が出る鐵相の電鍵一閃に 手懸へ		
大阪毎日新聞	昭一四、四、二三		二〇、二一五		難工實に一年五ヶ月關門隧道愈々貫通廿 日前後鐵道國道とも		
同	昭一四、四、二〇		二〇、二二三		九州と本土をつなぐ豆隧道開通す東京か ら電波を通じ世紀の偉業茲に完成		
新愛知新聞	昭一四、四、一九		一七、二二八		常關の海底遂に征服		

同	昭一四、四、二〇		一七、二二九		關門海底豆隧道けふ世紀の貫通式		
同	昭一四、四、二〇		一七、二二九		鐵相の押す電鈴一下見事爆破萬歳の爆發 だ		
同	昭一四、四、二二		一七、二三一		關門國道豆隧道愈々二十五日完通の運び		
同	昭一四、四、二六		一七、二三五		關門に揚る凱歌		
同	昭一四、四、二七		一七、一三六		開通だ關門國道隧道けふ晴の渡橋式		
同	昭一四、五、二三		一七、一五二		本隧道へ第一鑿けふ歴史の起工式		
名古屋新聞	昭一四、三、一六		一五、四六二		關門豆隧道五月中に完成の見込み		
同	昭一四、三、三一		一五、四六七		渦まく關門の真下海底戦を御視察畏し高 松宮様御勇姿		
同	昭一四、四、一〇		一五、四八六		前田鐵相關門隧道視察		
同	昭一四、四、一六		一五、四九二		關門豆隧道十九日朝には貫通		
同	昭一四、四、二六		一五、四九二		關の海底に凱歌だ關門豆隧道開通		
同	昭一四、四、二〇		一五、四九六		科學日本勝つた開け海底戦の凱歌關門豆 隧道貫通式		
名古屋毎日新聞	昭一四、四、一九		一七、五五九		常關の坑底に爆發す感激の萬歳		
同	昭一四、四、二〇		一七、五六〇		關門海底隧道感激の握手成る		

同	昭一四、四、二七	一七、五六七	關門國道豆隧道けふ渡り初め式
同	昭一四、五、一三	一七、五八三	本隧道起工式關門國道愈々スタート切る

第三 大阪府下發行新聞紙の掲載記事

題	號	日	附	號	數	記	事	標	題
大阪朝日新聞		昭一四、四、二一				關門海底隧道複線愈々實現へ鑛物などの運賃は大巾値下來阪の前田鐵相			
同		昭一四、四、二三				關門海底隧道愈々二十日頃貫通！苦闘二年の感激の一瞬			
同		昭一四、四、一九				「俺だ」と九州の聲關門海底隧道鑿穴あく苦闘二年八月あす完通			
同		昭一四、四、二〇				試掘隧道貫通、鐵相の一押し日本の地圖變る下關門司今や陸つづき			
同		昭一四、四、二〇				關門海底豆隧道の開通、日本土木科學の壯舉(一)(二)			
同		昭一四、四、二二				前田鐵相から本社長へ謝電			
同		昭一四、四、二三				關門國道二十四日頃貫通			
同		昭一四、四、二三				科學日本の誇關門隧道長い間の研究と苦心のいろいろ			

同	昭一四、四、二七					さながら岩窟行け貫通の關門國道隧道、鐵兜の記者初通り抜け記			
同	昭一四、五、二三					力強い處女鐵國道關門海底隧道きのふ起工式			
同	昭一四、五、二二					陸上隧道も貫通す(鐵道關門)			
同	昭一四、六、二二					シールド修被式、關門鐵道隧道			
同	昭一四、六、二二					隧道戰士の活躍關門隧道の本工事が始まつた			
同	昭一四、六、一八					花咲爺の前田鐵相、押した關門隧道の電鍵で現れた金や銅の大鑛脈			
大阪新報	昭一四、四、二〇					本士と九州結ぶ關門隧道貫通最後の岩塊一米を崩壊海征服感激の握手			
大阪時事新報	昭一四、四、二〇					貫通近き關門隧道鐵相驚異の眼、國、鐵道とも二十日過から來月早々に歡聲			
同	昭一四、四、二一					關門隧道は複線にしたい來月下旬に貫通式			
同	昭一四、四、二〇					世界最初の榮冠、世紀の電鈴鳴る最後の岩塊一米の微塵に碎け歡呼裡隧道戰士九州へ徒歩渡り			
同	昭一四、四、二三					内地九州自動車で一跨ぎ關門産業道路の開通近し残るは僅か十七米			
同	昭一四、四、二六					再び世紀の凱歌關門海底國道豆隧道けさ貫通す			
同	昭一四、四、二七					關門國道豆隧道激潮下に感激の握手電鍵初め式執行			

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同			
昭一四、四、二〇	昭一四、四、二七	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二六	昭一四、四、二七	昭一四、四、二八	昭一四、四、二九	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二一	昭一四、四、二二	昭一四、四、二三	昭一四、四、二四	昭一四、四、二五	昭一四、四、二六	昭一四、四、二七	昭一四、四、二八	昭一四、四、二九	昭一四、四、三〇	昭一四、四、三一	昭一四、四、三二	昭一四、四、三三	昭一四、四、三四	昭一四、四、三五	昭一四、四、三六	
感激海底を歩く約四十分で本土から九州へ皮肉や海上は荒れて難航關門隧道試掘坑けふ貫通式	關門隧道試掘坑も数日中に貫通關門海底に再び掘る凱歌	けふ愈々開通か關門海底の國道試掘導坑も貫通	關門海底に再び凱歌、國道隧道試掘坑も貫通	國道關門隧道試掘坑完全貫通の喜びけふ感激の擧式	關道關門海底隧道歴史的の起工式木戸内相ら試掘坑を視察	關門隧道計書案可決	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響る轟音けふを九州と本土の歴史的握手	來月中旬豆隧道先づ凱歌明後十六年三月には待望の處女列車が海底を疾走する本土と九州握手	關門隧道の精銳を擧つて大阪へ	餘すは僅か一米明日晴れの貫通式	海底にとどろく萬歳の聲世紀の感激茲に關門隧道開通有史最初のかち渡り初め	萬歳は海底を揺がし感激の握手交はさる	引掛った斷層遂に征服す關門豆隧道開通											

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
昭和日日新聞	同	同	同	同	關西中央新聞	關西日報	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
昭一四、四、二七	昭一四、四、二七	昭一四、四、二〇	昭一四、四、一九	昭一四、四、一一	昭一四、四、一〇	昭一四、四、二〇	昭一四、四、一七 (朝刊)	昭一四、四、一七 (夕刊)	昭一四、四、一七 (夕刊)	昭一四、四、一七 (夕刊)	昭一四、四、二四 (朝刊)	昭一四、四、二四 (朝刊)	昭一四、四、二四 (夕刊)	昭一四、四、二四 (夕刊)	昭一四、四、二四 (夕刊)	昭一四、四、二四 (夕刊)	昭一四、四、二四 (夕刊)	昭一四、四、二四 (夕刊)	昭一四、四、二四 (夕刊)	昭一四、四、二四 (夕刊)	昭一四、四、二四 (夕刊)	昭一四、四、二四 (夕刊)	昭一四、四、二四 (夕刊)	昭一四、四、二四 (夕刊)	昭一四、四、二四 (夕刊)
引掛った斷層遂に征服す關門豆隧道開通	萬歳は海底を揺がし感激の握手交はさる	關門隧道開通有史最初のかち渡り初め	海底にとどろく萬歳の聲世紀の感激茲に	餘すは僅か一米明日晴れの貫通式	關門隧道の精銳を擧つて大阪へ	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響る轟音けふを九州と本土の歴史的握手	來月中旬豆隧道先づ凱歌明後十六年三月には待望の處女列車が海底を疾走する本土と九州握手	關門隧道計書案可決	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響る轟音けふを九州と本土の歴史的握手	關道關門海底隧道歴史的の起工式木戸内相ら試掘坑を視察	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響る轟音けふを九州と本土の歴史的握手	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響る轟音けふを九州と本土の歴史的握手	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響る轟音けふを九州と本土の歴史的握手	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響る轟音けふを九州と本土の歴史的握手	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響る轟音けふを九州と本土の歴史的握手	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響る轟音けふを九州と本土の歴史的握手	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響る轟音けふを九州と本土の歴史的握手	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響る轟音けふを九州と本土の歴史的握手	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響る轟音けふを九州と本土の歴史的握手	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響る轟音けふを九州と本土の歴史的握手	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響る轟音けふを九州と本土の歴史的握手	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響る轟音けふを九州と本土の歴史的握手	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響る轟音けふを九州と本土の歴史的握手	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響る轟音けふを九州と本土の歴史的握手	關門隧道貫通鳴響く世紀の電鈴、瞬間海底に響る轟音けふを九州と本土の歴史的握手

夕刊大阪新聞	昭一四、四、九		關門海底隧道晴れの貫通、十日全通式舉行 九州と本土の握手關門隧道開通、海峽を 壓する萬歳の嵐の中に あゝ世紀の感激だ九州と本土の歴史的握 手なる今朝十分關門隧道開通 關門海峽豆隧道感激の渡り初め式けふ盛 大に執行
同	昭一四、四、二〇		
夕刊大正日日新聞	昭一四、四、二〇		
同	昭一四、四、二七		

新聞
第四 山口縣下發行新聞、雜誌、圖書の掲載記事

題	號	日	附	號	數	記	事	標	題
關門日日新聞		昭一四、四、一〇 (九日夕刊)			一九、三七八				
同		昭一四、四、二二 (朝刊)			一九、三八〇				
同		昭一四、四、二二 (朝刊)			一九、三八二				
同		昭一四、四、二四 (朝刊)			一九、三八三				
同		昭一四、四、二五 (朝刊)			一九、三八四				
同		昭一四、四、二六 (夕刊)			一九、三八五				

九〇

同	昭一四、四、一八 (二七日夕刊)			昭一四、四、一八 (朝刊)	一九、三八七				
同	昭一四、四、一九 (二八日夕刊)			昭一四、四、一九 (朝刊)	一九、三八八				
同	昭一四、四、二〇 (二九日夕刊)			昭一四、四、二〇 (朝刊)	一九、三八九				
同	昭一四、四、二三 (二二日夕刊)			昭一四、四、二三 (朝刊)	一九、三九二				
同	昭一四、四、二五 (二四日夕刊)			昭一四、四、二五 (朝刊)	一九、三九四				
同	昭一四、四、二六 (昭一四、四、二六 (朝刊)			昭一四、四、二六 (朝刊)	一九、三九五				
同	昭一四、四、二七 (昭一四、四、二七 (朝刊)			昭一四、四、二七 (朝刊)	一九、三九六				
同	昭一四、五、一〇 (昭一四、五、一〇 (朝刊)			昭一四、五、一〇 (朝刊)	一九、四〇九				
同	昭一四、五、一一 (二〇日夕刊)			昭一四、五、一一 (二〇日夕刊)	一九、四二〇				
同	昭一四、五、二二 (朝刊)			昭一四、五、二二 (朝刊)	一九、四二一				

九一

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	防府時事新聞	同	同	防府日報	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同		
昭一四、五、二三	昭一四、五、二二	昭一四、四、二八	昭一四、四、二七	昭一四、四、二三	昭一四、四、二〇	昭一四、四、一九	昭一四、四、一六	昭一四、四、一五	昭一四、四、一四	昭一四、四、一一	昭一四、五、二四	昭一四、四、一九	昭一四、四、一八	昭一四、四、二〇	昭一四、四、二七	昭一四、四、二六	昭一四、四、二五	昭一四、四、二四	昭一四、四、二三	昭一四、四、二二	昭一四、四、二一	昭一四、四、二〇	昭一四、四、一九	昭一四、四、一八	昭一四、四、一七	昭一四、四、一六	昭一四、四、一五
二、一二七	二、一二六	二、一一五	二、一一四	二、一一二	二、一一〇	二、一〇九	二、一〇六	二、一〇五	二、一〇四	二、一〇一	三、三三九	三、三二二	三、三二〇	二、〇一六	二、〇一五	二、〇〇七	二、〇〇六	二、〇〇二	一、九九九	一、九九八	一、九九五	一、九九四	一、九九三	一、九九二	一、九九一	一、九九〇	一、九八九

防長新報	同	同	同	防長新聞	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
昭一四、五、八	昭一四、五、一三	昭一四、五、九	昭一四、四、二七	昭一四、四、二〇	昭一四、五、二三	昭一四、五、二二	昭一四、四、二八	昭一四、四、二七	昭一四、四、二三	昭一四、四、二〇	昭一四、四、一九	昭一四、四、一六	昭一四、四、一五	昭一四、四、一四	昭一四、四、一三	昭一四、四、一二	昭一四、四、一一	昭一四、四、一〇	昭一四、四、〇九	昭一四、四、〇八	昭一四、四、〇七	昭一四、四、〇六	昭一四、四、〇五	昭一四、四、〇四	昭一四、四、〇三	昭一四、四、〇二	昭一四、四、〇一	昭一四、三、九〇
四九七	一七、三九八	一七、三九四	一七、三八三	一七、三七六	二、〇一六	二、〇一五	二、〇〇七	二、〇〇六	二、〇〇二	一、九九九	一、九九八	一、九九五	一、九九四	一、九九三	一、九九二	一、九九一	一、九九〇	一、九八九	一、九八八	一、九八七	一、九八六	一、九八五	一、九八四	一、九八三	一、九八二	一、九八一	一、九八〇	一、九七九

同	民衆衛生新報	昭一四、四、一四	八〇八	
同		昭一四、四、一八	八一	
同		昭一四、四、二〇	八一三	
同		昭一四、四、二七	八一八	
同		昭一四、四、二九	八二〇	
同		昭一四、五、五	八二二	
同		昭一四、五、七	八二四	
同		昭一四、五、二二	八二八	
同		昭一四、五、二三	八二九	
同		昭一四、五、二七	八三二	
山口日報		昭一四、四、一九	二、四三七	
同		昭一四、四、二〇	二、四三八	
同		昭一四、五、一四	二、四五六	

二、雑誌、圖書

題	話の關門	昭一三、八、一	二卷、七號	備	考
同		昭一三、九、一	二卷、八號		
同		昭一四、一、一	三卷、一號		
同		昭一四、五、一	三卷、四號		
同	關門連絡線に就て	昭一二、七、		關門海底鐵道隧道に關する諸計畫を記述せるもの (鐵道省下關改良事務所發行)	

第五 福岡縣下發行新聞紙の掲載記事

題	大阪朝日新聞	昭一三、八、二	二〇、三九八	進捗する關門鐵道隧道	標	題
同		昭一三、八、三	二〇、三九九	關門隧道を中心に鐵道網を電化		
同		昭一三、八、三	二〇、三九九	今日本省電氣課長視察		
同		昭一四、一〇、二三	二〇、四九七	關門隧道問題で十市協力求む		
同				國道隧道問題で十市協力求む		
同				門司港灣課長歴訪		

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同								
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	昭一四、二、二	同								
四、一九	四、一八	四、二一	同	同	同	同	同	同	同	同	二〇、五八〇	一〇、二五								
二〇、六五五	二〇、六五四	二〇、六四九	同	同	二〇、六四六	二〇、六二七	二〇、六二一	二〇、六二四	二〇、六二四	二〇、六〇五	二〇、五八五	二〇、四八二								
貫通海底に歴史的凱歌揚る	貫通	愈々廿日頃貫通ゴール前國道を追ひ抜く	關門海底工事初視察の前田鐵相	關門海底第一課強心職の御勉強	前田鐵相關門工事視察	貫通處女列車には一番乗りするよ	高松宮殿下關門隧道を御視察、鐵兜合羽を召され長くも海底へ御降下	四月十日頃現場視察	今日海底で現場視察	鐵道局小包中繼局九州循環航空路も十月十日頃竣工放道下調へ	關門海底工事放道に備へて小倉に中央電	度に出た途端にゾツと寒氣	海底に立春あり鐵道隧道は當外れの十九	り來月中旬にグチ抜く	兩隧道へ急進、會根門河縣道改修八分通	三月説	鐵道局長陳情に答ふ	國道隧道の豫算は徹底的の要求	土木局長陳情に答ふ	四月中には貫通か、國

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同								
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同								
七、二五	六、八	六、一	五、二一	四、二八	四、二七	四、二六	四、二五	四、二四	四、二一	四、二〇	四、二〇	同								
二〇、七五二	二〇、七〇五	二〇、六九八	二〇、六八六	二〇、六六四	二〇、六六三	二〇、六六二	二〇、六六一	二〇、六六〇	同	二〇、六五六	二〇、六五七	同								
加藤、渡邊兩博士が實地調査	果して出るか關門海峡の金	戦慄、重艦下の作業を見る	勇し海底の突撃、坑道の魔法壇に仄かな	關門海底工事ホルト愈々突進	入口には四角隧道	見事貫通した堀越弟子待線鐵道陸上隧道	けふ晴の開通式關門鐵道豆隧道	握手	關門萬歳！見事に貫通國土豆隧道感激の	魔の難層見事に突破、國道豆隧道燄穴貫	關門國道豆隧道に第二の凱歌	關門國道豆隧道ゴール正に寸前	けふ世紀の凱歌、關門國道豆隧道	海底下第二の凱歌、關門國道豆隧道	掘道方法にも兩意見	鐵道本隧道最難所は弟子待附近	者兩側から潜り抜け	破れ海底にあかり、莊重の君が代、本社記	關門鐵道豆隧道完成、電鍵一觸最後の爆	けふ世紀の蘇音關門豆隧道完成

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八、四	八、八	七、二四	七、二三	七、一六	七、九	七、五	七、九	六、二一	同	六、三
針決定	關門隧道市の要望通り小森江案を採 用明年度豫算に参百萬圓計上鐵道省の方 針決定	暗雲を一掃して門司市に一陽來復の嬉び (鐵道隧道新路線に内定)經濟上の打撃も 緩和	關門隧道側海底隧道委員会は當分休み 一日一時間半労働日給二圓五十錢氣壓と 戦ふ最深部(掘鑿工業)酒飲みは絶対採用 せず	先づ單線 關門隧道側海底隧道委員会は當分休み 一日一時間半労働日給二圓五十錢氣壓と 戦ふ最深部(掘鑿工業)酒飲みは絶対採用 せず	關門隧道技術委員會愈々今日から工事様 式を審議大體シトル案を中心に	關門通過東土した宇垣總督語る	本位、樋口鐵道次官語る	關門隧道鐵道省技術委員會第二回會議 一地方の運動に左右されぬ、飽く迄國策 を貫く	細口に互り審議事項決定二臨時關門調査 班も設置さる	内務省の關門海底隧道軍部でも大賛成具 體的計畫進捗、最短距離の早瀬海峽が有 力

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	大阪毎日新聞 (鐵道ノ部)	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	昭一〇、三、三〇	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	昭一〇、三、三〇	同
五、三〇	五、二二	同	五、二一	五、二〇	同	同	同	同	同	同	昭一〇、三、三〇	同
常局	早縣の 佐賀縣にも呼びかけて實施案練る隣	關門隧道實施後の運輸體系大改造	關門隧道實施後の運輸體系大改造	關門隧道實施後の運輸體系大改造	關門隧道實施後の運輸體系大改造	關門隧道實施後の運輸體系大改造	關門隧道實施後の運輸體系大改造	關門隧道實施後の運輸體系大改造	關門隧道實施後の運輸體系大改造	關門隧道實施後の運輸體系大改造	關門隧道實施後の運輸體系大改造	關門隧道實施後の運輸體系大改造

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	昭一四、一、二一	同	同	昭一三、三、六	同	同	同	同	同	昭一二、六、二七	昭一一、四、二二	同
	一、一三	二二、二四	四、五	三、三、六	一一、一三	九、三〇	九、六	昭一二、六、二七	昭一一、四、二二	一一、二六	一一、二七	八、七
豪華な四階建待合室は計二千六百人収容、新下關驛設計成る	大里に建設鐵道隧道門司側變電所	張切の國鐵陣	十二日頃から本隧道進撃	へ昨日陸上工事起工式	嚴に修練の儀愈々新下關驛建設の第一歩	大瀬戸の急潮に挑む海底突撃の全準備こゝになり十六日晴の修練	工事の門出に關門隧道晴の起工式	急潮の魔海に猛然振ふ第一鐵、歴史的大	大教授語る	關門隧道爆發作業に液體酸素を採用？	弟子待賢坑試掘	關門隧道愈々本格的工事へ
恒例の北九州五市長會議	鐵道省關門隧道	世界で最初の關門隧道海底の大道	東京から鹿兒島迄寢ながら汽車の旅	關門隧道は斯くして出来る(先づ豆隧道)	(その上で本工事)世界に誇る日本の威力							

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	六、一三	六、八	六、二〇	四、二八	四、一九	四、二三	五、二二	四、一七	四、六	三、一五	二、二五	二、一〇
力、シールド晴のスタート土木日本の腕試し	海底潜る戦車愈々突撃國産誇る物凄い怪	關門鐵道隧道工事	シールド押出の準備工作や開始	日修被む海底征服關門隧道のシールド今	意氣込む海底征服關門隧道のシールド今	工作計劃成る、三班に分けて五月早々着	工、鐵道關門本隧道	鐵道關門本隧道	鐵道關門本隧道	鐵道關門本隧道	鐵道關門本隧道	鐵道關門本隧道
關門海峽モグラ競走アト鐵道一八五米國	關門海峽モグラ競走アト鐵道一八五米國	關門海峽モグラ競走アト鐵道一八五米國	關門海峽モグラ競走アト鐵道一八五米國	關門海峽モグラ競走アト鐵道一八五米國	關門海峽モグラ競走アト鐵道一八五米國	關門海峽モグラ競走アト鐵道一八五米國	關門海峽モグラ競走アト鐵道一八五米國	關門海峽モグラ競走アト鐵道一八五米國	關門海峽モグラ競走アト鐵道一八五米國	關門海峽モグラ競走アト鐵道一八五米國	關門海峽モグラ競走アト鐵道一八五米國	關門海峽モグラ競走アト鐵道一八五米國

同	同	同	同	九州報知新聞	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	昭一三、九、七	昭一四、二、二七	昭一四、一、二一	昭一四、一、一五	昭一四、一、九	昭一四、一、〇	昭一四、一、二二	昭一四、一、二七	昭一四、一、二一	昭一四、一、二七	昭一四、一、二七	昭一四、一、二七	昭一四、一、二七
同	同	同	同	六、六〇七	六、六〇七	六、六〇七	六、六〇七	六、六〇七	六、六〇七	六、六〇七	六、六〇七	六、六〇七	六、六〇七	六、六〇七	六、六〇七	六、六〇七
同	同	同	同	明年度豫算決定開門國道隧道實現 難關を突破して明朗な國道	明年度豫算決定開門國道隧道實現	明年度豫算決定開門國道隧道實現 改善	明年度豫算決定開門國道隧道實現 改善	明年度豫算決定開門國道隧道實現 改善	明年度豫算決定開門國道隧道實現 改善	明年度豫算決定開門國道隧道實現 改善	明年度豫算決定開門國道隧道實現 改善	明年度豫算決定開門國道隧道實現 改善	明年度豫算決定開門國道隧道實現 改善	明年度豫算決定開門國道隧道實現 改善	明年度豫算決定開門國道隧道實現 改善	明年度豫算決定開門國道隧道實現 改善

一〇六

開門國道隧道貫通刻々迫る
早くも晴れの式典準備

今日歡喜の貫通式開門國道豆隧道

本士と九州双方の握手貫通だ世紀の凱歌
海底に交すお目出度う開門國道豆隧道

歡喜の握手、今朝感激の貫通

國道は來月十二日起工式

世紀の大工事待望の偉業へ邁進木戸内相
今日第一級、開門國道木工事起工式海底
潜つて祝宴場へ

國道隧道關門兩地の取合道路

關門海峽地盤陥落説を覆す、地質は有史
以前の堅い岩盤、高田技師の調査で判明
す

關門隧道と道路鋪裝

來年から四ヶ年計畫で關門隧道愈々實現
關門隧道全通に備へて九州主要驛の設備
改善

明年度豫算決定開門國道隧道實現

明年度豫算決定開門國道隧道實現

明年度豫算決定開門國道隧道實現

明年度豫算決定開門國道隧道實現

明年度豫算決定開門國道隧道實現

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

一〇七

愈々門鐵管内に持久の延長運轉、海底隧道
道開通後實現、八月中旬に特ダイヤ發表

關門兩隧道で猛研究

盛夏の一ヶ月間眞剣な學生道場

壓縮空気を注文愈々海底の怪景前同壁の
切破り作業開始、鐵道本隧道勇む戦士

關門國道本隧道昨日起工式舉行

全世界に誇る國道關門海底隧道貫通式

科學世界に誇る鐵道豆隧道貫通式

關門國道本隧道昨日起工式舉行

九州日報	昭一四、四、二六	一七、四六一	残るは僅か三十四米開門豆隧道は十九日開通か、歴史的最後の爆破指令は前田鐵
同	同 四、二八	一七、四六三	手開門海峡底下にとゞろく爆音感激の握
同	同 四、二九	一七、四六四	けふぞ報ゆ三歳の苦闘前田鐵相のスィツ
同	同 同	同	ちで海底新制の大壯舉、本州九州を結
同	同 同	同	ぶ世紀の感激貫通で開門豆隧道
同	同 四、二〇	一七、四六五	開門鐵道貫通あとも一米
同	同 同	同	晴の貫通式を明日に控へ準備全く完了
同	同 同	一七、四六六	港南病の恐怖だともぐら鐵血部隊の力強
同	同 同	同	き林野の現主等が談、貫通祝賀喜びに
同	同 同	同	早々次の征服へ！士氣頓に揚る掘鑿陣
同	同 同	同	く開門海峡海底豆隧道開通の式、轟
同	同 同	同	く開門海峡海底豆隧道開通の式、轟
同	同 同	同	握手へ待つ感激の握手、掘鑿兩部隊晴れの
同	同 四、二二	一七、四六八	開門國道豆隧道もあと十七米
同	同 四、二三	一七、四六九	爆破貫通は二十五日か
同	同 四、二五	一七、四七〇	開門和呼應して最後の突撃戦
同	同 同	同	開門豆隧道の貫通早々目捷
同	同 同	同	けふ中にボーリング貫通、あす正式に貫
同	同 同	同	通爆破を、開門國道豆隧道の貫通祝賀準
同	同 同	同	備なる
同	同 同	同	明後日完全貫通か、開門國道豆隧道湧水
同	同 同	同	止まればあす最後の掘進

同	同 四、二六	一七、四七一	残るは僅か二米
同	同 同	同	けふ歴史的感激を前にして之で一休み
同	同 同	同	あす渡初式試掘隧道一氣に貫通最後の難
同	同 四、二七	一七、四七二	斷層もけふ見事征服世紀の凱歌又も開門
同	同 同	同	に
同	同 四、二八	一七、四七三	萬感迫り唯涙開門國道豆隧道けふ完全貫
同	同 四、二九	一七、四七四	通、繰返す感激の萬歳、隧道戰士の殊勳
同	同 同	同	赫々
同	同 同	同	看板も衣替へ調査時代を了へ
同	同 同	同	本格的掘鑿へ世界第二の大隧道
同	同 四、二八	一七、四七三	掘坑道貫通祝賀式
同	同 同	同	海底六十米俄か地質學者勢揃近代科學の
同	同 同	同	威力を満喫し開門國道豆隧道貫通祝賀會
同	同 同	同	凱歌海峡に高鳴る
同	同 同	同	けふ試掘坑道開通祝賀會
小倉新報	昭一三、九、二〇	一〇、四三七	開門自動車隧道はスマートな二階作り
同	同 九、二〇	一〇、四四六	國際機械化部隊で世界最初の開門國道隧
同	同 九、二四	一〇、四四九	道
同	同 一、二〇	一〇、四九四	開門國道隧道専門協議會
同	同 一、二三	一〇、四九六	開門國道隧道來年度豫算遂に否決
同	昭一四、二、二七	一〇、五六〇	開門隧道豫算地元復活に猛運動
同	同 同	同	内務省復活要求審議
同	同 同	同	難工事ながら三月には貫通

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一二、七	一二、二	一二、一	一一、二六	一一、一五	一〇、二二	一〇、一六	九、三〇	九、二七	九、二一	九、一七	九、一六	九、一、二
六、一五四	六、一五〇	六、一四九	六、一四五	六、一三六	六、一一七	六、一〇〇	六、〇九九	六、〇九九	六、〇九三	六、〇九〇	六、〇八〇	六、〇七七
關門兩海底隧道は五時掘進海底にも百米進む	の議本工類の無二階式延長千米に及ぶも 愈々通過幅員九米を延長千米に及ぶも	世界に類無二階式延長千米に及ぶも	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三
關門兩海底隧道は五時掘進海底にも百米進む	の議本工類の無二階式延長千米に及ぶも	世界に類無二階式延長千米に及ぶも	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三
關門兩海底隧道は五時掘進海底にも百米進む	の議本工類の無二階式延長千米に及ぶも	世界に類無二階式延長千米に及ぶも	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三
關門兩海底隧道は五時掘進海底にも百米進む	の議本工類の無二階式延長千米に及ぶも	世界に類無二階式延長千米に及ぶも	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三	六、〇九三

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
七、三一	七、三〇	七、二〇	七、一九	七、一四	七、一二	七、七	六、二	五、九	四、二二	四、一六	四、一二	三、一〇	二、二五	二、二五
六、〇五一	六、〇五〇	六、〇四一	六、〇三九	六、〇三六	一〇、六八〇	一〇、六七五	一〇、六四六	一〇、六二五	一〇、六二三	一〇、六〇八	一〇、六〇四	一〇、五七八	一〇、五六六	一〇、五六六
鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新
鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新
鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新
鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新
鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新	鐵道開通後の整理で而日一新

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	昭九、一、二九	同	同	昭八、一、二一	昭五、四、一	同	同	同	同	昭三、五、一	同	同
同	同	一、二五	同	同	一、二四	一、二九	六、一七	六、一五	五、二六	同	同	一、二二	一、二二
同	同	六、三	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
<p>關門隧道開通後の各列車運轉ダイヤ 本土から九州に十七本の直通列車 關門海峡の地質調査進捗 沈埋鐵管が何本あるか 下関の漁港問題と關門海峡大隧道 關門隧道調査費三十萬圓計上 ボーリング破損で地質調査中止 關門隧道第二豫定線工費増加約二百萬圓 關門海底隧道會社設立出願さる 渦巻く關門海峡海底に一大隧道を 關門交道聯絡架橋を隧道既に出願三つ 關門隧道の話(續きもの四回) 關門隧道に採用される循氣式工法の話 (續きもの三回) 關門海峡連絡施設隧道案を採用か</p>													

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	昭二、一、八	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	一、二五	同	同	一、二六	一〇、三一	九、二四	九、一二	九、一一	九、一〇	九、二	九、二	九、二
同	同	一一、二五	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	一一、二一	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	四、一二	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	四、九	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	三、二四	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	三、一七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	一、二五	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	昭二、一、八	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	一、二六	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	一〇、三一	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	九、二四	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	九、一二	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	九、一一	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	九、一〇	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	九、二	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	九、二	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
<p>關門隧道の開鑿に關連して起る各種の問 題 關門海峡開鑿方針決定に衝動を受けた九 州 海底の地中數米の處に直徑六米の大鐵筒 關門海底隧道設計圖 關門海底隧道掘鑿諸準備 小門海峡埋立鐵道省の省議決定 九州を中心とする鐵道の現勢 關門隧道工事本工事は四年度から 關門隧道と各地の影響門司會議所の調査 先づ田の首から愈々今月末着手 硬質の岩盤ほどの地盤にあるか 關門隧道調査五日間に三尺 總調査費も承認され着々準備進めらる 關門海峡海底に大斷層を發見か</p>													

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八、二二	八、二〇	八、一八	八、一六	八、一五	同	同	八、六	八、五	七、三一	七、二九	七、二六	七、二三	七、一九
下關驛新驛から五百米の陸揚	關門海底隧道彦島側のボーリング	下關側の陸上部地質調査	關門隧道工事と人夫の日給	關門隧道の掘鑿は丹那隧道の體驗で	千古の謎を秘めた大瀬戸	關門連絡海底鐵道線路縱斷面略圖	愈々八日を期し本格的に活動開始	關門隧道初年度掘鑿費二百六萬圓認可	關門隧道起工式九月十日頃と決定	電信電話二百十八回線關門隧道内に	關門若戸三隧道の二つまでが採用するシボルト工法とは	設計圖面の一線にも緻密な資料取入れ	國鐵關門隧道連絡施設の豫算内容

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
七、一八	七、一六	七、一一	六、二二	六、一八	六、一〇	四、二二	四、二〇	四、一五	四、一三	昭一、一、四	昭一〇、一、二七	同 六、六	同 同
十九日愈々整備全機構本格的に	技術軍を引具し鈴宮所長着任	關門隧道開鑿軍は特別列車で乗込む	關門の大瀬戸と相對し精巧を競ふ技術陣營	關門隧道工事技術堅陣なる	關門海底隧道開鑿陣愈々近く整備	工事の萬全を期し調査導坑掘鑿	關門隧道工事再度の實地調査	豫算案の通過次第迅速に工事に取掛る	關門海底隧道の内に海底停車場を新設	關門海底隧道シャフト掘鑿地決定す	技術委員會に於ける六項目の答申案	關門連絡は隧道案が有利	關門連絡は隧道に限る

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一一、二一	一〇、二六	一〇、一五	九、三〇	九、二一	九、一五	八、二三	八、一七	六、二七	六、二三	六、一九	六、一七	六、一二	一一、一三
魔の門司海底に十六日から愈々挑戦す	鐵道關門隧道小森江側の本堅坑愈々完成す	鐵道關門隧道の勾配正式に決定す	大里幡生の兩操車場 明年四月より起工隧道開通に伴ひ	小森江側試掘堅坑完成す	關門鐵道隧道下關側の工事進捗	門司側を掘鑿する大型シールドの設計成る	小森江側試掘堅坑九月末迄には完成	最後の破發で遂に深度五十五米に	シールド工法にて軟弱門司側を掘鑿	豫定深度まであと五米	關門隧道掘鑿陣容強化	小森江見張所燒く工事には支障なし	關門の海にも珍しい豆潛水艇

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一一、一六	一一、一三	一〇、三一	一〇、二八	一〇、二四	一〇、二三	一〇、二〇	一〇、一三	一〇、一八	九、二三	九、二〇	九、一九	九、一九	九、一六
魔海に振ふ科學のメス	豆隧道通過地點に金銀色の合成鑛物	急速に具體化せんとする關門鐵道隧道の複線化	人工地震による調査愈々本月から本格的に	黃昏迫大瀬戸海底に時ならぬ地震	關門隧道完成と博多港の脅威	關門隧道完成後は一日七十四回運轉	堅坑の掘鑿第一段工事	關門海底隧道堅坑掘鑿の第一シヨベル	海底隧道の工事は世界最初のこと	釘宮所長力強く晴の第一鐵を打下す	愈々起工式近づき更に陣容整備	世界の視聽をあつめ高らかに晴れの首途	本土と九州を繋ぐ起工式十九日起工

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同		
昭二二、二、六	同	同	同	昭一一、五、五	同	同	同	同	同	同	同	昭一四、一、七	同	同	
豆漕水艇の海底調査如何では工法變化	八百萬圓三ヶ年繼續の關門國道隧道	關門國道隧道大計案の内容	關門國道隧道完成まで五ヶ年	關門產業國道完成まで五ヶ年	關門海底國道開通各縣知事廣田首相に要望す	關門國道隧道に四軒の繼目なしレール	海底にシールド進軍	又も歡喜の窓開く關門陸上本隧道貫通	關門鐵道隧道貫通本十九州此處に合體す	(續きもの二回)	苦闘一年有半小森江側試採日記	關門鐵道隧道春四月から關門海底を貫く	斷層遂に征服	鐵道國道隧道春四月から關門海底を貫く	慶海征服へ力關の建設部隊

一一三

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同				
昭二二、二、六	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同				
國道隧道は來年七、八月頃までに試掘完成の方針	掘鑿を完了した弟子待假盛坑	關門國道の下關側第一試錐終了	掘鑿には詔向	關門國道隧道の管理	關門國道隧道調査陣容整ふ	關門連絡國道その由來と計劃の概要	關門隧道歴史的大工事開始さる	關門隧道と下關港構築に大工事愈々施行の命令	來月二十日からボーリング工事	關門國道隧道掘鑿工事に完壁陣	關門隧道と下關港構築に大工事愈々施行の命令	關門隧道歴史的大工事開始さる	關門連絡國道その由來と計劃の概要	關門國道隧道調査陣容整ふ	掘鑿には詔向	關門國道の下關側第一試錐終了	掘鑿を完了した弟子待假盛坑	國道隧道は來年七、八月頃までに試掘完成の方針

一一三

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	昭	昭	同	昭	同	同	同	同	同	同	同	同	同
五、四	同	同	四、二七	四、二六	四、二五	一、三一	一、二〇	一、二四	一、一三	九、一五	九、四	九、二	八、七		
關門國道隧道の總指揮官に加藤技師決定	國道本隧道の起工は五月中旬	國道は奇襲戦法兩豆隧道の比較	海底の國道世界に關門一本のみ	國道豆隧道貫通	早稲海底に突刺した偉大な科學のメス	國防上の見地から内務省も計劃	五百六十七萬圓を福岡、山口兩縣で負擔	關門隧道と兩國道割決定す	關門國道豎坑掘整作業大いに進捗	關門國道隧道本格的の掘整工事	飛行機で海底調査	國道隧道三顧問慎重に協議	國道隧道掘整工費各縣割當		

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	昭	同	同	同	同	同	同
五、一三	五、一一	五、二	四、二九	四、二七	四、二五	四、二二	四、二一	四、二〇	四、一九	昭一四、四、一八	八、二三	五、二三	五、二二		
一、四五九	一、四五七	一、四五〇	一、四四八	一、四四六	一、四四五	一、四四三	一、四四二	一、四四一	一、四四〇	一、四三九					
國道海底隧道今日歴史的起工式	大いに頑張るせ	銀幕に颯爽世紀の偉業	世紀の工事讃へ晴れの貫通式祝賀會	轟然最後の發破全く驚異的記録	國道豆隧道感激の貫通	海水灌の如し現地報告書	豆隧道貫通地鎮の御祝	魔の海底に世紀の握手	鐵道豆隧道貫通鐵相の電鈴一下を待つのみ	鐵道隧道貫通前奏曲聞く世紀の窓、待望海底に湧く歡呼隧道戰士勇躍掘進續く	關門隧道通らば何本の急行乗入れるか	二十六、七兩日別府で打合せ	關門海底の國道愈々本隧道に		

十五日 起工式は來月下旬
 八月十八日 彦島ボーリング始まる
 九月二日 隧道ルートに黄銅鑛發見さる
 十九日 少森江で盛大な起工式
 十月九日 小森江で堅坑に着工
 十一月 關門海峡に鐵と銅の鑛脈あり
 海峡をS字型に走る三つの斷層 渡邊博士談

昭和十二年

一月十日 豆潛水艇登場か
 十四日 豆潛水艇來關
 十五日 豆潛水艇で魔の海底を潛るの記(上下)
 十八日 ルートに斷層なし、彈沈性調査の報告
 二月十二日 小森江側の工事本格化
 三月十五日 隧道初の綜合協議會温田で開かれん
 四月一日 隧道工事第二年度へ

十八日 伍堂鐵相視察

五月十六日 小森江側湧水

六月四日 彦島堅坑四七米に達す

十一日 工事は順調に進行

七月十九日 彈沈性調査隊先發來關

二十三日 彈沈性調査始まる

十一月七日 弟子待豆隧道着工

昭和十三年

二月八日 鐵道陸上施設に着工

三月十五日 國鐵技術陣隧道視察

四月五日 小森江豆隧道に着工

十一月十五日 工事本格化す

十二月二十六日 小森江四〇一米、下關も進捗

昭和十四年

一月七日 小森江四一〇米、下關側四二〇米

- 一月八日 十六年春には海底列車直通、三浦事務所長語る
- 二十五日 隧道開通式には鐵道大臣列席
- 二月七日 内鮮隧道の前哨戦、關門海峡の彈沈性調査始まる
- 二十四日 渡邊博士内鮮隧道に就き語る
- 三月十六日 豆隧道五月に貫通か
- 二十日 高松宮隧道御視察
- 四月五日 鐵道あとい八九米、國道七九米
- 九日 前田鐵相視察
- 十四日 國鐵、國道何れに軍配舉るか、關門海底潛行競争白熱化
- 十五日 鐵道は愈々十八日頃貫通か
- 十八日 今日午前十時鑿穴貫通
- 十八日 本隧道完成に豆隧道の使命重大
- 二十日 科學日本の勝利鐵道豆隧道開通す
- 同日 隧道戦はこれからだ、有馬、加納兩部隊長語る
- 同日 歡喜に打震ふ隧道戦士

- 同日 大自然を征服して海底處女踏査記
- 同日 釘宮所長感激の渡り染め
- 同日 文字通り苦難の途だが事故皆無の快記録
- 二十一日 松井大將隧道一番乗り
- 同日 鐵道貫通祝賀式
- 二十八日 本隧道五月上旬に着工
- 五月一日 本隧道掘鑿の陣容成る
- 五月二十日 鐵道陸上取付隧道も貫通
- 六月一日 猛牛シールドの修祓式
- 五日 シールド進撃の準備成る
- 八日 水中微動計再度活躍
- 十七日 永野大將隧道視察
- 二十三日 竹田宮殿下御視察
- 七月二日 大里十博多間省線電車運轉か
- 二十四日 内線隧道に確信を得た 渡邊博士談

八月二日

隧道陣の異動

二十八日

完成後の列車運行計畫打合せ

九月十二日

村山隧道部隊長廣島へ

國道 隧道 關係(現地側記事)

昭和十一年

十一月一日

内務省下關土木出張所長國道隧道の概要發表

十二月十六日

辰馬内務技監國道隧道ルート視察

昭和十二年

一月九日

調査事務材料試驗場建設豫定發表

三月二十五日

豆隧道近く着工

五月五日

調査事務所開設

十四日

ボーリング作業始まる

六月二十九日

關門側ボーリング起工式

七月十日

下關側ボーリング豫定深度五八米に達す

昭和十三年

一月五日

海底の轉石寫眞撮影

八日

山下氏一行來る

十四日

關門海峡の地塊運動調査

十九日

地塊調査始まる

二月二十二日

本坑修禊式

二十八日

下關堅坑完了

三月七日

豆隧道に着工

九月八日

山口、吉田東大兩博士國道隧道打診

二十七日

隧道交通料徴收か、鯨島技師談

十二月六日

早瀬海底征服明春總攻撃

十七日

國道二六〇米

昭和十四年

一月三十一日

國道隧道三月上旬開通か

三月一日

五月上旬起工式舉行豫定

十日

末次内相視察

四月二日 あと七九米に迫る

十九日 開通を前に断層に逢着

二十二日 あと十二米

二十六日 遂に国道側にも凱歌

二十八日 貫通祝賀式

五月十一日 起工式次第

五月十二日 本戸内相視察、起工式舉行

今度は本隧道へ幕進

陸密第一二八四號

敵ノ上陸ヲ豫想スル沿岸地域ニ於ケル住民ノ
處理ニ關スル件ニ付

昭和二十年四月四日

陸軍大臣

海軍大臣

内閣總理大臣殿

首題ノ件總動員備案綱第四十三條ニ基キ別紙ノ如ク關係各省大臣
ニ提示シタルニ付進捗ス